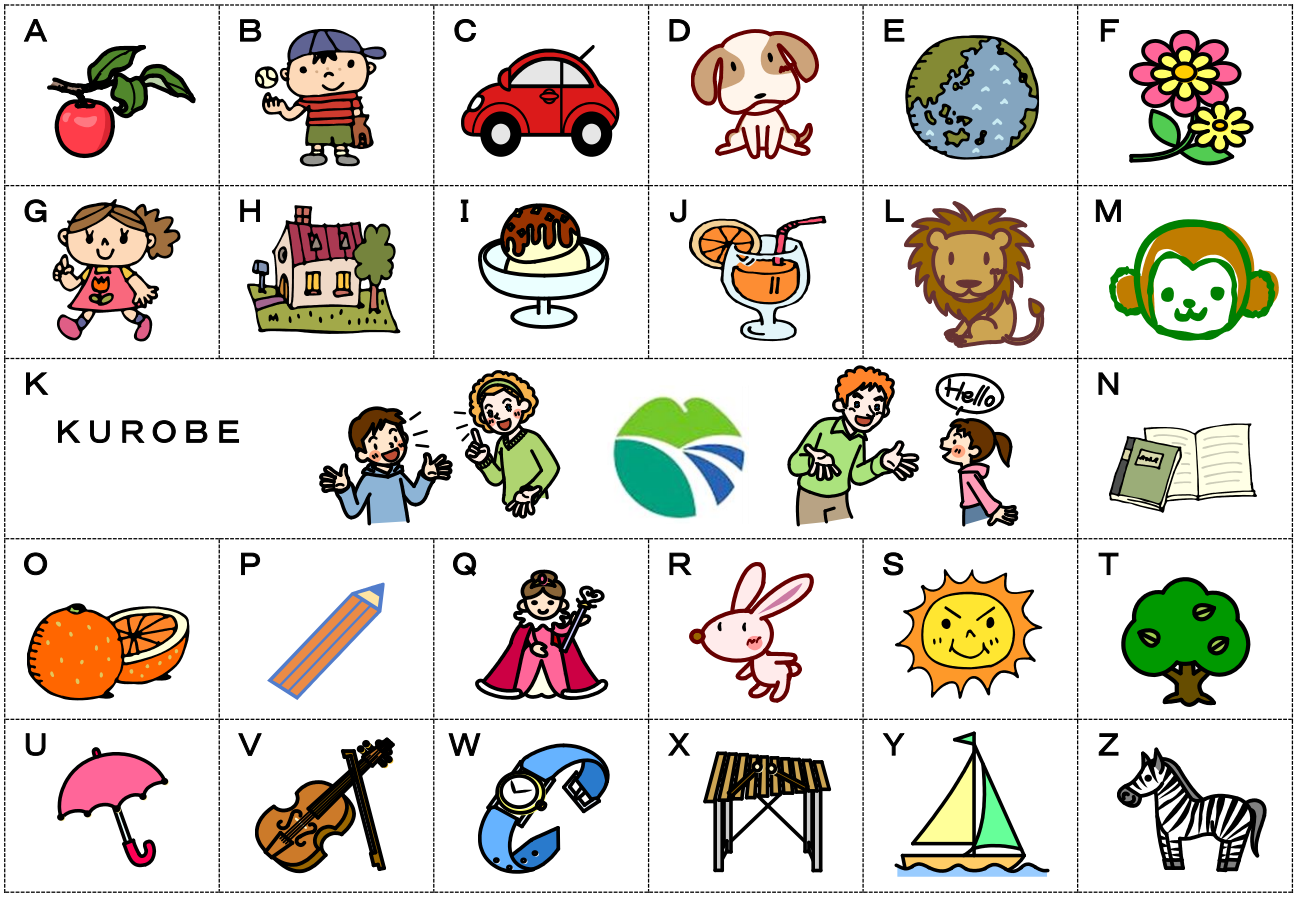
令和６年度　黒部国際化教育推進事業

英語の指導に関するまとめ



令和７年３月

黒部市教育委員会

黒部市教育センター

目　次

Ⅰ　英会話科等の取組における成果と課題

１　授業公開月間のまとめ

（１）授業公開の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（２）小学校の授業公開の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

（３）中学校英会話科の実践

・清明中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

・明峰中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

（４）来校者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

（５）保護者アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

（６）教員アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

２　外国語教育研究部会研修会のまとめ

（１）中学校英語科の授業参観と事後研修・・・・・・・・・・・・・・17

（２）小学校外国語科の授業参観と事後研修・・・・・・・・・・・・・18

３　英会話科等の学習に関するアンケート結果・・・・・・・・・・・・20

４　Enjoy talking の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

５　Speaking test の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46

６　英語検定３級以上の取得率、受検率等・・・・・・・・・・・・・・49

Ⅱ　英語サマーキャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

Ⅲ　姉妹都市交流研修事業（メーコン・ビブ郡派遣）・・・・・・・・・52

Ⅳ　付録　　英会話科等 19 年間のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・54

Ⅰ　英会話科等の取組における成果と課題

１　授業公開月間のまとめ

（１）令和６年度「英会話科等」授業公開の概要

１　授業公開月間の目的
- これまでの実践の成果を公表する。（平成 18 年から）
- 市民全体の英語教育への関心をさらに高める。
- 指導者の授業力向上を目指す。
  ⇒授業公開は毎年開催する。
  ※普段の授業を、無理なく公開する。

２　英会話科公開月間　令和６年 10 月１５日（火）～１１月１５日（金）
◎今年度、公開する学校…村椿小、中央小、若栗小、清明中、明峰中
- 小学校は、黒部独自の英会話（１年生または２年生）を公開月間に合わせて担当校が公開する。
- 中学校は、２学期に英会話科の授業がある学年で公開する。

３　授業公開について
- ８月１日までに授業公開日とクラスを決め、黒部市教育センターに報告する。
- 公開月間に２コマは公開する。
- ALT の勤務日でない日が授業公開の場合、同じ ALT 勤務の学校と調整する。
- 中学校英会話科は、これまで通り教育センターが窓口になって、指導案やまとめを作成して記録に残し、授業力向上に繋げる。
- 学校は保護者や学校運営競技委員に、教育センターは教育機関や来賓等に案内を行う。

４　その他
- 授業公開を行わない小学校でも、１年間の授業参観等の中で、低：英会話、中：外国語活動、高：外国語科の３コマを組み込んで公開するよう努める。
- 中学校の授業参観日の公開も可とする。

（２）小学校の授業公開の様子

◎村椿小学校（10 月 30 日（水）、11 月 6 日（水））

・「道案内をしよう」

５年１組　山本千夏、越後真利子、ステファニー・ヴィンシトレ




・「体を動かそう」

１年１組　坪野裕貴、ステファニー・ヴィンシトレ




◎中央小学校（10 月 18 日（金）、11 月 15 日（金））

・「お気に入りのピザを作ろう」

４年１組　藤谷真麻、平野智恵、ナサニエル・ボイエ





・「思い出の行事を伝え合おう」
　６年２組　山田香里、平野智恵、ノア・リー




・「いろいろな形のおかしをあつめて、すてきなおかしの家をつくろう」
　２年２組　塚原佳帆、ナサニエル・ボイエ





◎若栗小学校（11 月 13 日（水））
・「ペットショップをつくろう」
　１年１組　小森和也、マーク・ホルンヤック





（３）中学校英会話科の実践

◎清明中学校（11 月 14 日（木））

【清明中学校　英会話科学習指導案】

１年１組　３５名
指導者　JET：　道用　裕志
ALT：　ノア・リー

１　テーマ　Let's talk about KUROBE SPOTS!

２　本時の学習（全５時間、本時３／５）

(1)　ねらい　ふるさと黒部の魅力ある場所を英語で豊かに発信し、情報交換する。

(2)　展　開

学　習　内　容（配時）	指導上の留意点　◆評価　＜方法＞
１　挨拶をする。(2)	・英語で挨拶をし、本時の流れを確認する。（JET、ALT）
２　学習課題を確認する。(10)	
友達に知ってほしい黒部のお勧めの場所について英語で伝え合おう	
・教師のデモンストレーションを聞き、本時の活動に必要な表現を練習する。	・黒部市の観光スポットの画像を見せながら、短い会話を聞かせる。（JET、ALT） ・例文を紹介し、学級全体で練習して活用できるようにする。（ALT） ＜例文＞ ・I like（場所）because ～. ・What can we do there? ・You should go to（場所）!
３　ペアでの会話を行う。(13) ○ペアの相手に少なくとも３つの質問をして、よいところを聞き出し、ワークシートにメモする。 ○リアクション・フレーズやジェスチャーを交えながら自然な雰囲気で会話するよう心がける。 ○英語でどう表現すればよいか分からなかったことを質問する。 ＜質問の例＞ ・How do you say ″餌をやる″? ・How do you say ″釣りをする″? ・How do you say ″何故そこが好きなのですか″?	・完璧な表現とならなくても、知っている英語でやり取りできることを伝える。（JET） ※教師が生徒の会話に参加しながら、表現の仕方に困っている場合にヒントを出すなどして援助する。（JET、ALT） ・会話前後の挨拶やお礼を忘れず言うことを確認する。（JET） ・学んだ適切な表現を活用して、全体で練習させる。（ALT） ＜質問に対する回答例＞ ・″feed″ ・″fish?″ ・″Why do you like that spot?″
４　教室内の友達や教師と会話する。(20) ○時間内にできるだけ多くの人と話し、情報交換する。 ○活動後に、英語でどう表現すればよいか分からなかったことを質問する。	※直接生徒と会話したり、生徒同士の会話に参加したりしながら、生徒の情報交換の助けとなるように努める。（JET、ALT） ◆思考・判断・表現 ふるさと黒部のお勧めの場所について、適切な表現を選択し、相手に伝えている。 ＜観察・ワークシート＞
５　本時の振り返りをする。(5) ○授業中に質問できなかったことや本時で学んだことをフィードバック・フォームに記入する。	・フィードバック・フォームに自由に質問を記入するよう促す。（JET）

清明中 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　11 月 14 日 （ 木 ） 1 限

2　学年等・指導者　第 1 学年 1 組
道用裕志、ノア・リー

3　実践

(1)　テーマ　Let's talk about KUROBE SPOTS!

(2) 授業の様子

導入	展開
	
学習課題を提示し、自分が好きな黒部の場所について、ぜひALTに勧めたいと思う場所やその情報、思いを英語で伝えることを確認した。	前半は、隣りの生徒と会話し、「なぜその場所が好きか」などを質問し合った。ALTとJETは会話の見本を示し、生徒がスムーズに活動に取りかかることができるようにした。

展開	終末
	
後半は、生徒が教室内で生徒やALT、JETと好きな黒部の場所について会話した。好きな理由やそこでできること等を質問し合っていた。	ALTとJETは、英語での表現方法についての質問に答え、学級全体で共有した。生徒は知らなかった表現方法をALTに質問することで伝えたいことの表現の幅が広がり、学習への意欲が高まった様子がみられた。

清明中学校　英会話科学習指導案

２年１組　３７名
指導者　JET：　道用　裕志
ALT：　ノア・リー

１　テーマ　Let's talk about our hometown KUROBE!

２　本時の学習（全５時間、本時３／５）

(1)　ねらい　ふるさと黒部の魅力ある場所や特産品、イベントを英語で豊かに発信し、情報交換する。

(2)　展　開

学　習　内　容（配時）	指導上の留意点　◆評価　＜方法＞
１　挨拶をする。(2)	・英語で挨拶をし、本時の流れを確認する。(JET、ALT)
２　学習課題を確認する。(10)	黒部のお勧めの場所や特産物、イベントを英語で伝え合おう
○教師のデモンストレーションを聞き、本時の活動に必要な表現を口頭練習する。	・黒部市の観光スポットの画像を見せながら、短い会話を聞かせる。(JET、ALT) ・お勧めの「場所」「特産物」「イベント」の３つの話題の中から１つを選び、それについて相手と会話をするルールを説明する。(JET) ・例文を紹介し、学級全体で練習して活用できるようにする。(ALT) ＜例文＞ ・What is your favorite spot/product/event in Kurobe? ・What can we do there? ・My recommendation is 〜.
３　ペアでの会話を行う。(13) ○ペアの相手に少なくとも３つの質問をして、よいところを聞き出し、ワークシートにメモする。 ○リアクション・フレーズやジェスチャーを交えながら自然な雰囲気で会話するよう心がける。 ○英語でどう表現すればよいか分からなかったことを質問する。 ＜質問の例＞ ・How do you say ″(動物に)触る″? ・How do you say ″河口″? ・How do you say ″そこでは釣りができます″?	・完璧な表現とならなくても、知っている英語でやり取りできることを伝える。(JET) ※教師が生徒の会話に参加しながら、表現の仕方に困っている場合にヒントを出すなどして援助する。(JET、ALT) ・会話前後の挨拶やお礼を忘れず言うことを確認する。(JET) ・学んだ適切な表現を活用して、全体で練習させる。(ALT) ＜質問に対する回答例＞ ・″pet″ ・″mouth of river″ ・″You can enjoy fishing there.″
４　教室内の友達や教師と会話する。(20) ○時間内にできるだけ多くの人と話し、情報交換する。 ○活動後に、英語でどう表現すればよいか分からなかったことを質問する。	※直接生徒と会話したり、生徒同士の会話に参加したりしながら、生徒の情報交換の助けとなるように努める。(JET、ALT) ◆思考・判断・表現 ふるさと黒部のお勧めの場所や特産品、イベントについて、適切な表現を選択し、相手に伝えている。＜観察・ワークシート＞
５　本時の振り返りをする。(5) ○授業中に質問できなかったことや本時で学んだことをフィードバック・フォームに記入する。	・フィードバック・フォームに自由に質問を記入するよう促す。(JET)

清明中 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　11 月 14 日 （ 木 ） 2 限

2　学年等・指導者　第 2 学年 1 組
道用裕志、ノア・リー

3　実践

(1)　テーマ　Let's talk about our hometown KUROBE!

(2) 授業の様子

導入	展開
	
学習課題を提示し、自分が好きな黒部の場所や特産品、行事等について、ぜひALTに勧めたいことを、情報や思いとともに英語で伝えることを確認した。	前半は、隣りの生徒と会話し、「なぜそれが好きか」などを質問し合った。 ALTとJETは会話の見本を示し、生徒がスムーズに活動に取りかかることができるようにした。

展開	終末
	
後半は、生徒が教室内で生徒やALT、JETと好きな黒部の場所や特産品、行事等について会話した。好きな理由や特徴等を積極的に情報交換し合っていた。	ALTとJETは英語での表現方法についての質問に答え、学級全体で共有した。生徒は知らなかった表現方法をALTに質問することで伝えたいことの表現の幅が広がり、英語を使ってコミュニケーションをとることへの意欲が高まった様子がみられた。

◎明峰中学校（11 月 13 日（水）、11 月 15 日（金））

【明峰中学校　英会話科学習指導案】

１年３組３３名
指導者　JET：橘　　純　子
ALT：ｽﾃﾌｧﾆｰ･ｳﾞｨﾝｼﾄﾚ

１　テーマ　Where can I go in Kurobe?
２　本時の学習（全２時間、本時２／２）
(1)　ねらい
相手の希望に合った黒部でのおすすめの場所を提案することができる。
(2)　展 開

学　習　内　容（配時）	指導上の留意点　◆評価　＜方法＞
１　挨拶をする。　(3)	・英語で挨拶をし、学習の雰囲気作りに努める。
２　Small talk をする。　(4) ・最近の興味のあることについてペアで問答する。	・週末の出来事について話をし、Small talk の話題につなげる。　(JET、ALT) ・What are you into these days? ・I'm into _____.
３　学習課題を確認する。　(2) 黒部でおすすめの場所について相手の希望に合った提案をしよう。	
４　表現方法を全体やペアで練習する。(11)	・表現を提示し、練習のためのモデルとなる。(JET、ALT)
５　インタビュー活動を行う。 ・黒部でしたいことを一つ決め、それができるおすすめの場所をたずねるインタビューをする。相手を替え、やりとりを繰り返す。　(15) A: I want to _____. Where can I go? B: You can go to _____in Kurobe.	・インタビューシートを配る。 ・やりとりの例を示す。　(JET、ALT) ・活動に参加しながら個々の生徒の様子を把握する。(ALT) ・課題に即した発話内容になっているか、生徒のやりとりを聞き、確認する。　(JET) ・活動に対するフィードバックやコメントを述べる。(JET) ◆思考・判断・表現 相手に聞きたいことが伝わるように表現方法を工夫している。相手に質問したり自分のことについて答えたりしている。〈観察〉
６　モデル発表をする。(5)	
７　本時の学習を振り返るためにペアで発表をする。(5) ・最初にやりとりをしたペアと、インタビュー活動で得た情報をもとに、自分の希望に合った黒部のおすすめの場所を伝え合う。 ・When you want to _____in Kurobe, you can go to _____.	・ペア発表の指示をする。　(JET)
８　モデル発表をする。(3)	
９　終わりの挨拶をする。(2)	・生徒の意欲や態度に対するコメントを述べる。(ALT) ・活動に対するフィードバックやコメントを述べる。(JET)

明峰中 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　15　日　（　金　）　5　限

2　学年等・指導者　　第　1　学年　3　組
橘　純子、ステファニー･ヴィンシトレ

3　実践

(1)　テーマ　　Where can I go in Kurobe?

(2) 授業の様子

導入	展開
	
全体で挨拶を行い、ALTの週末の出来事についての話を聞いた。その後、最近の興味のあることについてペアで話をした。	本時の学習課題を確認した後、スライドを見ながら本時で取り扱うキーフレーズを全体やペアで練習した。

展開	終末
	
黒部で自分がしたいことができる場所を聞き合う活動を行った。クラスで相手を替えながら、やり取りを繰り返した。	振り返りとして、最初にペアを組んだ相手とインタビュー活動でそれぞれが得た情報を伝え合った。数名が全体で発表をした。

【明峰中学校　英会話科学習指導案】

３年３組３９名
指導者　JET：橘　　純　子
ALT：ｷｬｻﾘﾝ・ｶｳﾝﾂ

１　テーマ　My Original School Event

２　本時の学習（全１時間、本時１／１）

(1)　ねらい　アメリカのスクールイベントについて学び、自分の学校にあったらいいと思うイベントを考え、紹介することができる。

(2)　展 開

学　習　内　容（配時）	指導上の留意点　◆評価　＜方法＞
1　挨拶をする。 (2)	・英語で挨拶をし、学習の雰囲気作りに努める。
2　Small talk をする。 (3) 自分の好きな黒部のイベントについてペアで話をする。	・やりとりの例を示す。 (JET、ALT) ・What is your favorite event in Kurobe? ・My favorite event is ____.
3　学習課題を確認する。 (2)	
アメリカのスクールイベントについて学び、自分の学校にあったらいいと思うイベントを考えて相手に紹介し、質問をしながら対話を楽しもう。	
4　アメリカのスクールイベントについての紹介プレゼンテーションを聞く。 (12)	・アメリカのスクールイベントについての紹介プレゼンテーションを行う。 (ALT)
5　ワークシートのモデル文を確認し、活動の見通しを持つ。オリジナルのスクールイベントを考える。 (5) ・Let me tell you about my original school event. This is~. It is in ~. We can~. There is ~. It's ~.	・言語活動で必要となると思われる表現を提示し、練習のためのモデルとなる。 (ALT)
6　グループ内でペアを作り、自分で考えたスクールイベントについて紹介をしながら相手を替えて対話を繰り返す。次に、グループ以外の数人と対話をする。 (18)	・ペアのいない生徒がいた場合のペアとなる。（ALT） ・生徒のやりとりを聞き必要に応じて補助をする。 (JET) ・より良い表現を工夫できるように生徒の使用した表現を紹介する。 (JET) ・活動に参加しながら個々の生徒の様子を把握する。 (ALT) ◆思考・判断・表現 相手に聞きたいことを伝えられるように表現方法を工夫している。相手に質問したり、自分のことについて答えたりしている。〈観察・発表〉
7　数名の生徒がモデル発表をし、ALT とやりとりをする。 (3)	・生徒の意欲や態度に対するコメントを述べる。(ALT)
8　学習の振り返りをする。 (3)	・活動に対するフィードバックやコメントを述べる。 (JET)
9　終わりの挨拶をする。 (2)	

明峰中 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　11 月 13 日 （ 水 ） 2 限

2　学年等・指導者　第 3 学年 3 組
橘　純子、ケイティ・カウンツ

3　実践

(1)　テーマ　My original school event

(2) 授業の様子

導入



全体で挨拶を行った後、自分の好きな黒部のイベントについてペアで話をした。

展開



本時の学習課題を確認し、ALTによるアメリカのスクールイベントについての紹介プレゼンテーションを聞いた。その後、それぞれがオリジナルのスクールイベントを考えた。

展開



ペアを作り、自分で考えたスクールイベントについて紹介し合った。表現方法についてアドバイスを聞いた後、相手を替えて対話を繰り返した。

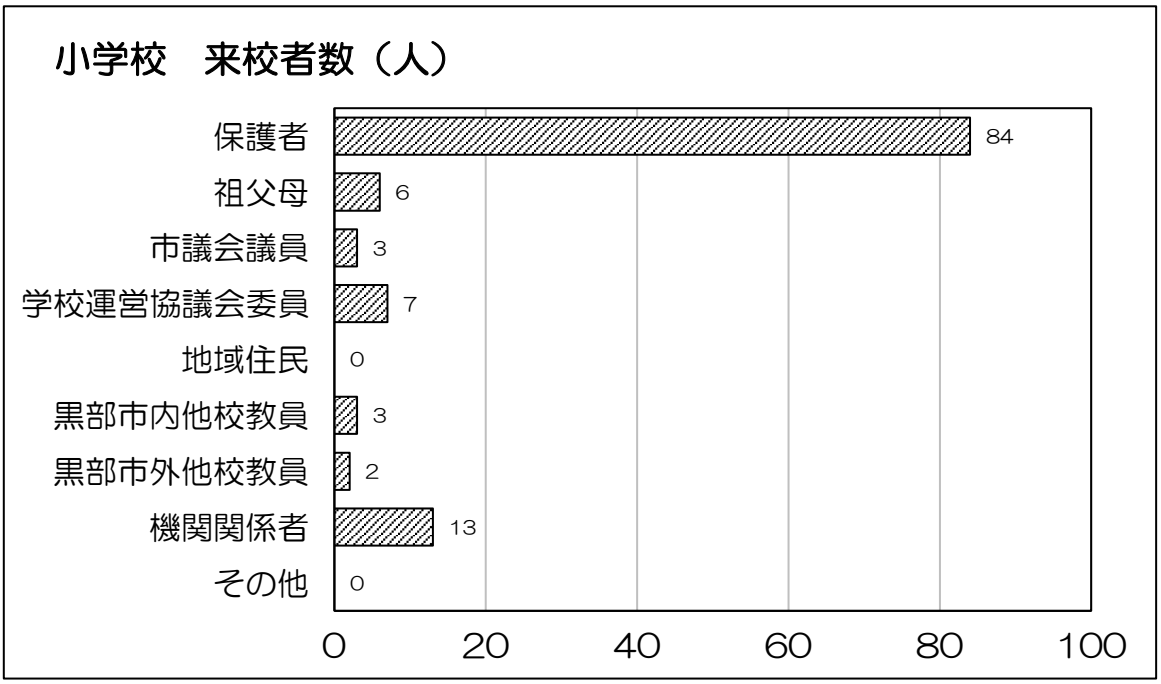
終末

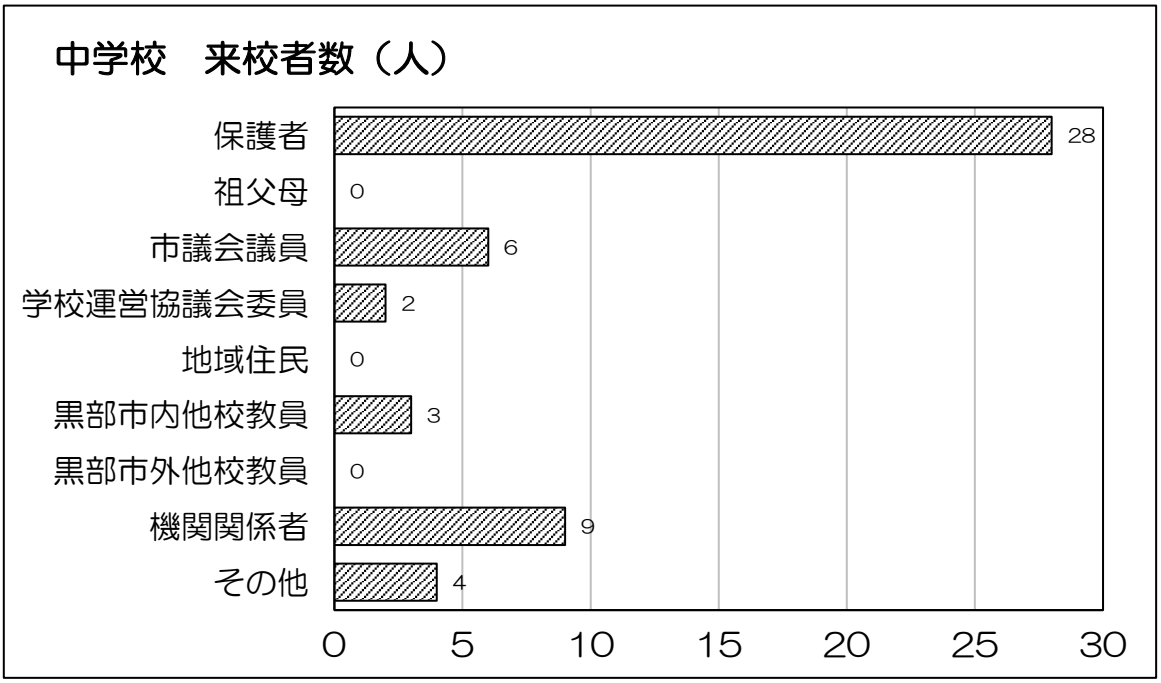


全体の前で数名の生徒同士が対話をし、それぞれのスクールイベントのアイディアについて共有した。

（４）　来校者数

今年度は、小学校の低学年で１コマ、中・高学年で１コマ、中学校は２コマ授業公開を行った。また、授業公開の参観対象を授業公開学級の保護者、市内他校教員、市外他校教員、機関関係者、学校運営協議会委員、市議会議員に加え、地域住民への一般公開も再開した。地域住民の参加はなかったが、授業参観と英会話科等授業公開日を同じ日にする等の工夫をされた学校も多くあり、小学校では保護者の参加率が 59.6%、中学校では 19.4%と前回よりも増加し、ともに英会話科等の実際を知っていただくよい機会となった。



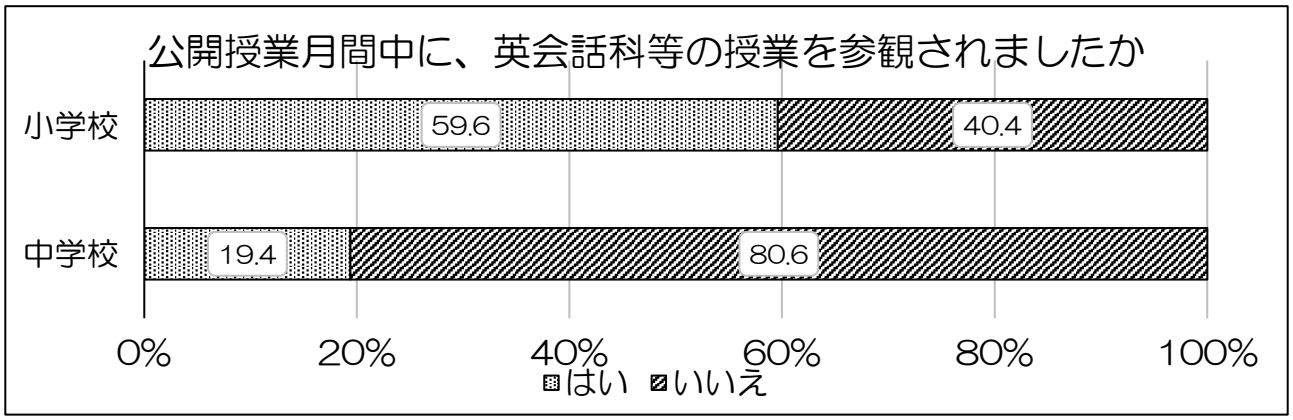


（５）　保護者アンケート

授業公開後に、授業公開を行った小・中学校の全保護者に対してアンケート調査を行った。

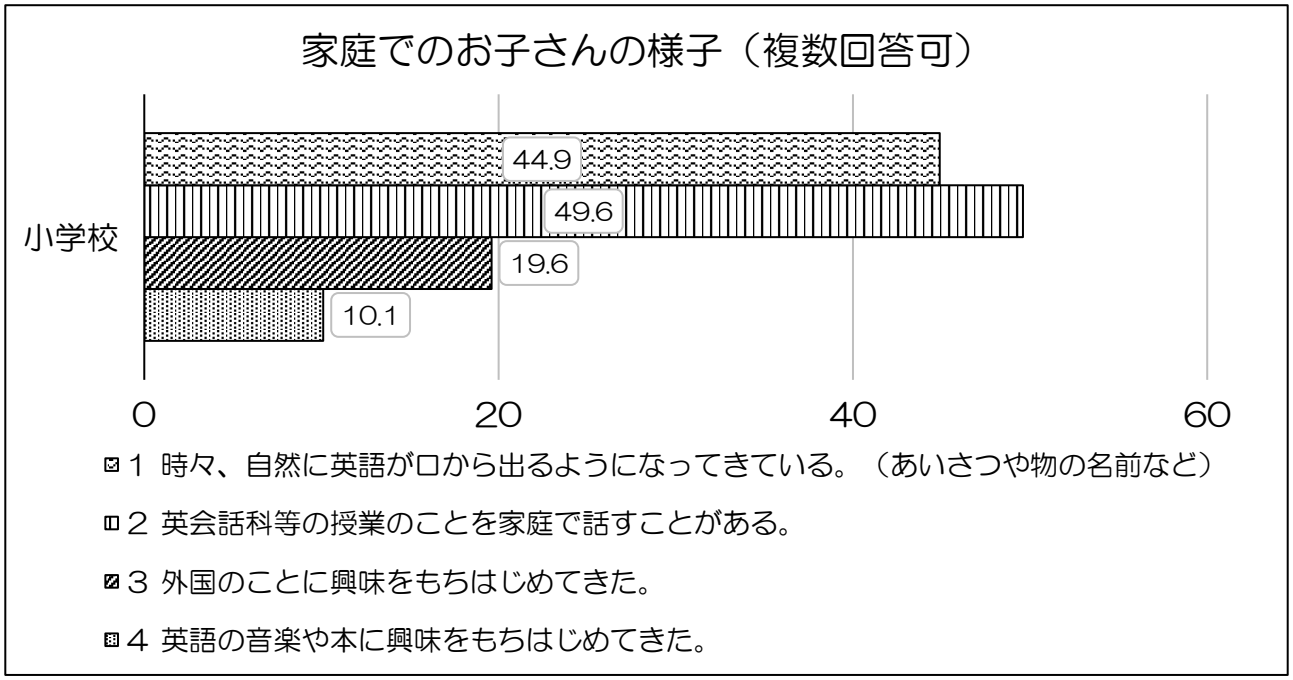
回答率は、小学校で６１％、中学校で５６％であった。英会話科等の取組に対する肯定的な意見が多くみられた。

①　公開授業月間中に、英会話科等の授業を参観されましたか。



※　上記グラフは、授業公開を行った学級（小学校６学級、中学校４学級）についての結果である。

②　家庭でのお子さんの様子について（小学校のみ）



【家庭での変化】（自由記述より）

・「英会話を用いた活動が毎回違っていて楽しい。学年が上がるごとに、英語への抵抗感がなくなってきた」と言っています。

・歌やゲームなど遊び感覚で楽しく英語を学んでいるようです。このまま楽しく英語に親しんでいってもらえたらいいなと思います。

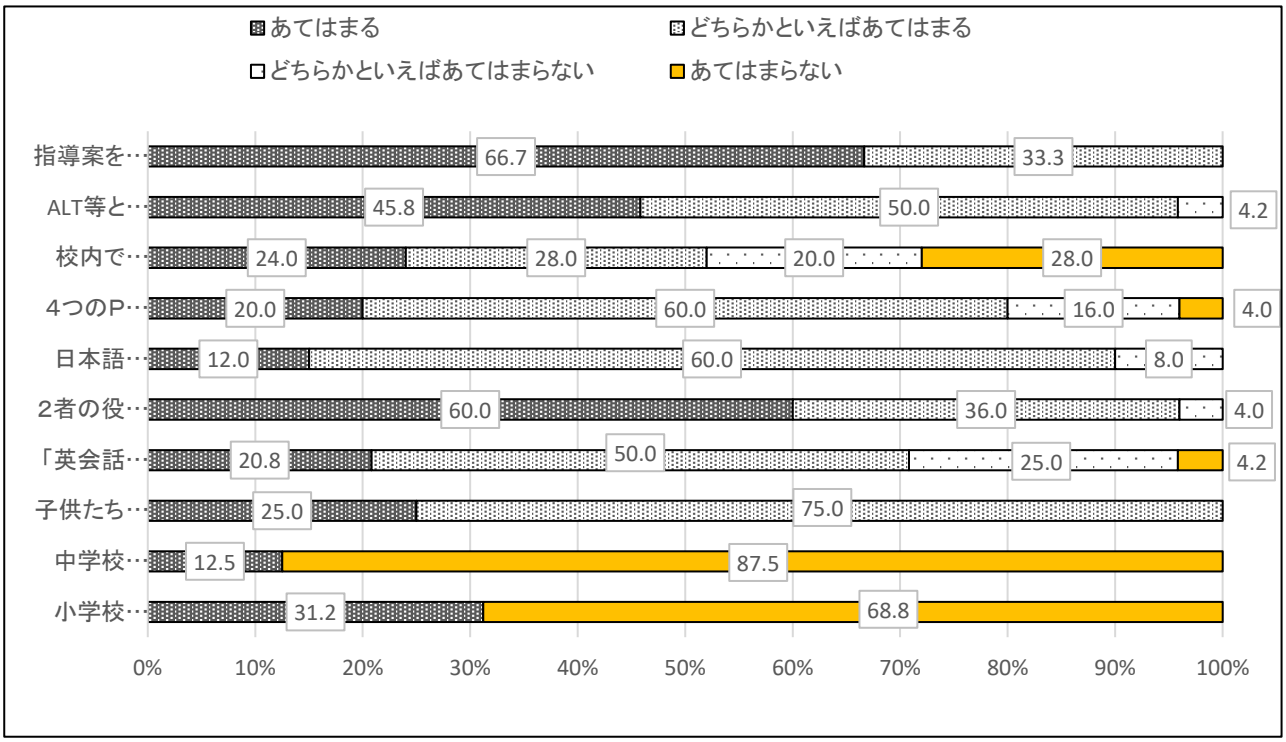
（６）　教員アンケート

授業公開月間は、公開をした教員にとって、授業についてより深く考えたり、普段の授業を見直したりするよい機会となった。教員にアンケートを実施し、下のグラフはその結果である。

※グラフは、解答数による割合であり、質問によって解答数に相違がある。

【公開授業を実施してよかったこと・向上したこと】

・指導案を書いて、単元構成や１時間の流れについて考えた。
・ALT 等との打合せをいつも以上に綿密に行うことができた。
・校内で授業を相互参観した。
・４つのＰを意識して授業を行った。または、４つのＰを意識して授業観察をした。
・日本語の使用を必要最低限にした。クラスルームイングリッシュを多く使うようになった。
・３者（または２者）の役割を意識して授業を展開した。
・「英会話科が目指すこと」※を意識して、授業に取り組んだ。
※「英語を用いたコミュニケーション能力」及び「ふるさと黒部を豊かに語れる生徒」の育成
・子供たちが今まで慣れ親しんできた英語表現を使うようになってきた。
・中学校の英会話科の授業を観察することができた。
・小学校の英会話科等の授業を観察することができた。

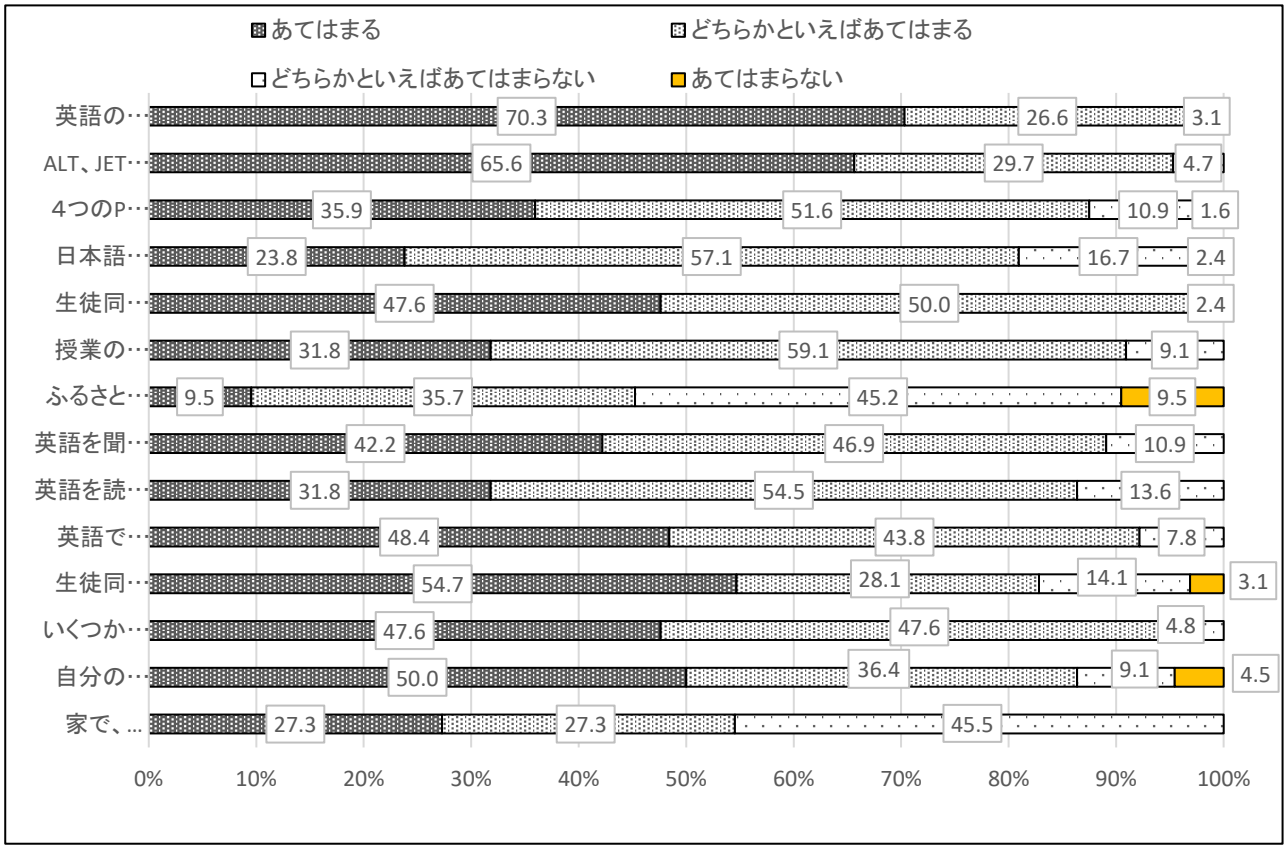


○授業公開に向けて、効果的なティームティーチングやよりよい指導法について打ち合わせが行われている。また、児童生徒の言語活動が充実している。

▲校内・校種間での互見授業があまり実施できていない。授業力向上や小中連携等に向けて、授業公開をよい機会とすることが望まれる。

【指導力向上に向けて取り組んでいること】

・英語の指導に関する年間指導計画や学習指導要領を踏まえた指導を行っている。
・HRT、ALT、JET の役割を明確にして、効果的なティームティーチングになるよう努めている。
・４つの P に基づき、創意ある展開を心がけている。
・日本語の使用は必要最低限にしている。
・生徒同士が自分の思いや考えを伝え合う活動を行っている。
・授業の終末で、成果の確認を目的とした生徒とのやり取りを行っている。
・ふるさと黒部を豊かに語るための指導を工夫している。
・英語を聞いて、(一文一文ではなく、全体の）概要や要点を捉える活動をしている。
・英語を読んで、(一文一文ではなく、全体の）概要や要点を捉える活動をしている。
・英語で質問されたことに対して、即興で(特に準備をすることなく)自分の考えや気持ちなどを英語で話す活動をしている。
・生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合う活動をしている。
・いくつかの文を合わせたスピーチなど、まとまった内容を英語で話す活動をしている。
・自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動をしている。
・家で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりするよう促している。

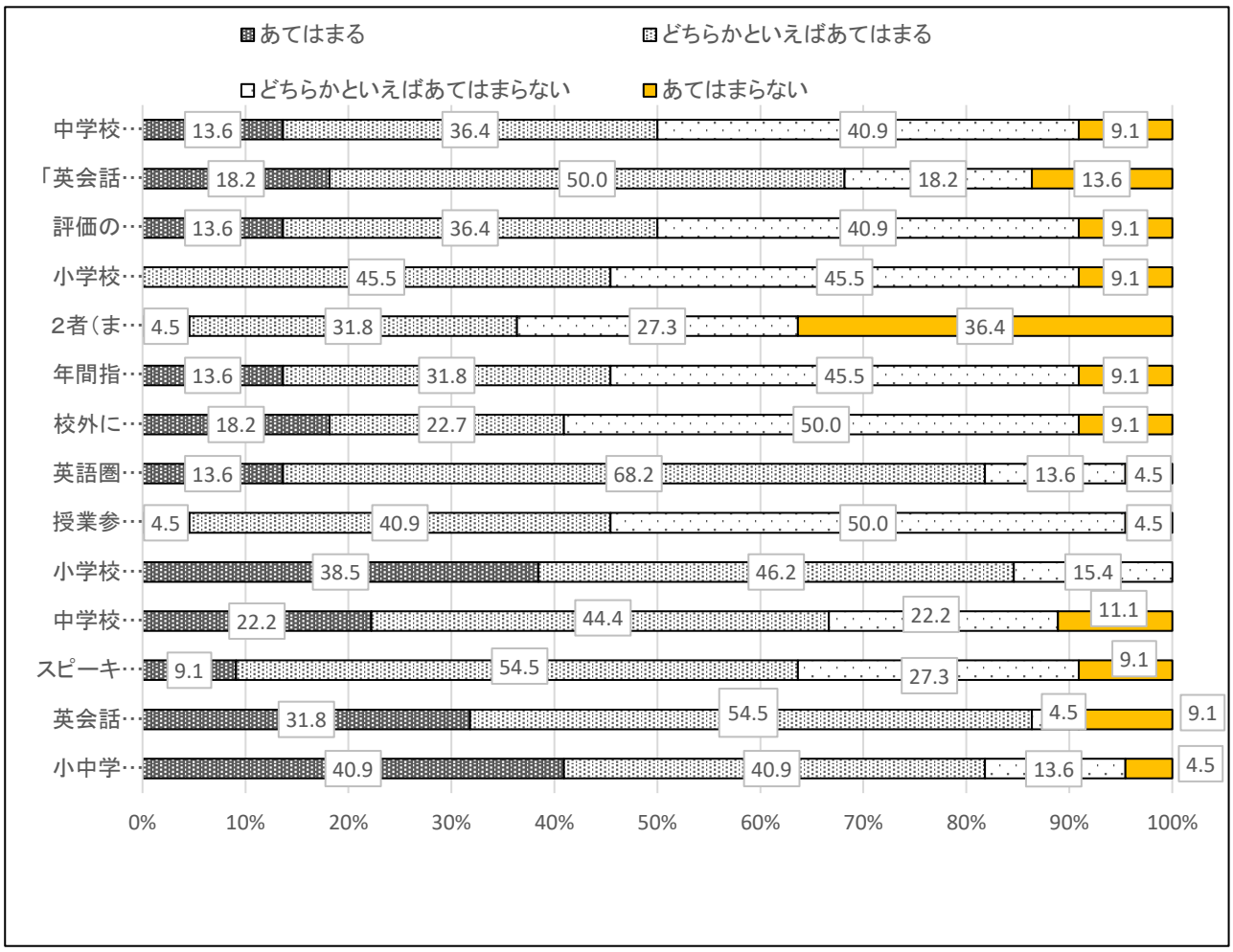


〇授業力向上に向けて、言語活動の充実や、ティームティーチングの効果的な活用が意識されている。

▲ふるさと黒部を豊かに表現しようとするような学習過程の工夫や、ICT 機器を活用した家庭学習の効果的な在り方についてさらに深めていくことが望まれる。

【今後の英会話等の授業をより充実させるために望むこと】

・中学校の生徒と小学校の児童が交流した授業（活動）を仕組む。
・「英会話科が目指すこと」※を見直す。
・評価の在り方・文言を見直す。
・小学校で、文字にふれる学習を増やす。
・２者（または３者）による授業の体制を見直す。
・年間指導計画をより使いやすいものにする。
・校外に出て英語表現を使う場を設ける。
・英語圏の雰囲気を出す環境整備に力を入れる。
・授業参観や学校行事等で、積極的に保護者に授業を公開する。
・小学校教員が指導方法や英語に触れる研修会を開催する。
・中学校英語科の教員と JET の連携を密にする。
・中学校のスピーキングテスト（例）を作成する。
・英会話科に関する研修を継続する。
・小中学校の教員の連携を図る。



○教員の研修や小中連携、、ティームティーチングで指導する大切さ、英語に関する環境づくりが重視されている。

英語に関する指導についての黒部市の環境のよさを生かして、今後もさらなる授業力向上に努めていくことが望まれる。

２　外国語教育研究部会研修会のまとめ



今年度から、「外国語教育研究部会」「英語科部会」「英会話科等定例会」を１つの部会とし、外国語教育研究部員やALT、JAT、JETも一緒に研修して、授業力の向上に努めることとした。また、日程を調整し、黒部市中学校教育研究会英語部会と合同で研修会を行い、小中連携や英語科と英会話科の連携等が円滑になるようにした。

（１）中学校英語科の授業参観と事後研修（６月３日）

〈明峰中学校　英語科学習指導案〉

２年１組
指導者　金山　文香

①　単元名　　PROGRAM２　Leave Only Footprints
②　本時の学習
ア　目標
・校外学習での班別学習のおすすめ場所について、理由を加えて提案し合うことができる。
イ　展開

学習活動(配時)	指導上の留意点　評価〈方法〉
1 あいさつ　(2) 2 歌　(5) 3 新出単語導入　(1)	・英語で話す雰囲気づくりをする。 ・音のつながり(リンキング)を楽しみ、発音力やリスニング力の向上につなげる。
校外学習の班別学習のおすすめの場所を後輩に伝えるメッセージをつくろう	
4 ディクテーション(教科書本文)　(7)	◎学習方法の工夫 ・文章の内容を理解するためという目的意識のもと、リスニング力、語彙力等、複合的な英語力を付けることが期待される。 ・生徒が自己調整できるように、ディクテーション用の教材を数種類用意した。
5 内容の確認(教科書本文)　(5) 6 3年生からのメッセージ紹介　(5)	・修学旅行について上級生が書いた作文を教師が紹介し、次は自分たちが後輩にアドバイスを送る気持ちを高めさせる。
7 ペアで話す(やりとり) 「校外学習で行ったらいいと思う所」　(10) S1:I think you should visit Kenrokuen. There is a wonderful Japanese garden. It's beautiful and you can relax. S2:I like your idea, but you should visit Kanazawa-castle.　It has a large park and there are a lot of cool gates.　You can enjoy beautiful nature.	◆ 思考・判断・表現 金沢校外学習について、提案し合っている。　<観察> ・ペアを変えて何度もやり取りをすることで、使える表現を増やす。 ・各自のやり取りに生かせるよう、活動の途中で発話内容や言語材料について全体で確認する。
8 生活班でメッセージづくり　(10)	◎ICTを活用し、タブレットでメッセージを提出する。
9 学習成果の確認　(5)	・たくさん英語を話すことで身に付いた表現や、詳しく知りたいこと、身に付けたい力を振り返らせる。

ウ　視　点

・金沢校外学習について後輩に紹介する英文を作る活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識させるために適切な活動であったか。

◎研究授業と部会協議を終えて

・金沢校外学習をテーマにして、生徒が意欲的に取り組める活動になるようにした。
・ペアトークや生活班等、コミュニケーション活動で最適な人数を設定したところ、少人数だと話しやすい雰囲気で会話が進んでいてよかった。
・生徒が実際に行った校外学習をテーマにしたことにより、生徒が意欲的に活動していた。
・ペアでのやりとりや中間評価を繰り返すことにより、メッセージビデオで言うことが固まってきた生徒が多くみられた。
・ディクテーションでは３種類のワークシートを生徒がそれぞれ選択できるようになっており、自己調整できるよう作成されていてよかった。
・生徒が後輩に伝えたいという思いを生かす活動を設定されたことが主体的に取り組むことにつながったと思います。
・中学校の授業の進め方、テンポ、雰囲気を知ることができより小中連携について考えていかなければなと思った。金山先生がたくさん英語で子供たちに話しかけていて英語が分かるとしゃべれると楽しいんだろうな！がんばりたいな！という思いを高めていたと思う。



（２）小学校外国語科の授業参観と事後研修（10月18日）

〈中央小学校　外国語科学習指導案〉

６年３組　計２９名
指導者　英語専科教員：山田　香里
ALT：ノア・リー
JAT：平野　智恵

１　単元名　Lesson ５　思い出の行事を伝え合おう

２　本時の学習（本時２／７）

(1) 目　標　思い出の学校行事を伝え、過去形を使って何をしたか伝え合うことができる。

(2) 展　開

学習内容（配時）	指導上の留意点　◆評価＜方法＞	
	英語専科	ALT/JAT
１　始めの挨拶をする。全体 (2)	・児童と挨拶し、コミュニケーション活動への意欲を高めることができるようにする。	・ALT、JAT は挨拶を交わす。 ・ALT は曜日、天気、時刻、日付を尋ねる。
２　フォニックスをする。 全体 (5)	・単語の意味を確認する。ワークシートを配り単語をなぞり確認するように指導する。	・JAT は本時のアルファベットｍから始まる単語を児童から引き出し、出た単語を板書する。 ・ALT は口の形を示し発音する。
３　教科書のリスニングで本時の英語表現を導入する。 全体 (5)	・答えとその内容を確認する。	・JAT はスクリーンに映した絵に答えを記入する。

4　学習課題を確認する。全体(3)	・学習課題と学習の流れを黒板に提示し、本時の活動内容を確認する。	・ALT と JAT は会話で本時のデモンストレーションをする。
思い出の学校行事で何をしたか伝えよう		
5　前時までの復習をする。 全体 (5)	・絵カードを使い学校行事と過去形の動詞の意味を確認する。	・ALT は、絵カードを使い発音のモデルを示す。 ・JAT は、絵カードを黒板に提示する。
6　学校行事の思い出をメモする。 個 (5)	・ワークシートを配り、メモの仕方を説明する。 ・学校行事を決められない児童にも、提示した学校行事から選ぶように伝える。	・ALT、JAT は机間指導を行い児童の支援をする。
7　インタビューゲームをする。 全体・ペア (10) ex. A: What is your best memory? B: My best memory is sports day. We had sports day in October. We saw relay races. A: Nice! I like relay races.	・児童と会話をし、アドバイスをしたり、苦手と感じている児童の支援をしたりする。 ・メモをどのように使って伝えたら良いか確認する。 ・リアクションワードを使ったり感想を伝えたりするポイントを確認する。	・ALT と JAT は、会話のデモンストレーションを行いメモの取り方を示す。 ・ALT と JAT は、多くの児童と会話をするように努める。
	◆知識・技能 学校行事の思い出を振り返り、過去形の動詞を使って何をしたか伝え合っている。＜やり取りの観察＞	
8　本時の学習の振り返りをする。 全体・個 (10)	・数名を指名し発表させる。 ・学習の成果を振り返り、発表の内容を取り上げて、ねらいに照らして称賛する。	・ALT は、クラス全体で発表者に質問する際、リードする。 ・ねらいに照らして子供たちの学習の様子を捉え評価したコメントを述べる。

◎研究授業と部会協議を終えて



・３人の先生の役割がきちんと確立されていた。先生が同時に話す事は基本的になく、指示がよく通り、児童も集中していた。そのことが、児童の中にも浸透し、学習規律がしっかりしていた。

・会話を楽しんでするためのリアクションの指導の必要性、学級経営を大事にしながら教え合いの大切さ、リスニングをしっかりして聞き取れた単語だけでもアウトプットさせることの大切さを学んだ。意欲向上に繋がるワークシートや授業研究について研修を深めたい。

・言語活動をしていく時に、すべての生徒が参加できる手立てを準備することが必要だと改めて感じた。流れをパターン化すること、デモ→練習→トライという段階もよかった。次に中学校では＋αで相手の言ったことに聞き返す、質問するということができればいい。また、単語や語句だけでもよいから即興で言わせることも必要だと思う。

・小学校での「音声で入れる」「絵などの視覚で入れる」ということがとても効果的だと思った。また、小学校のフォニックスが描くことにつながっていることがよくわかった。中学校では書くことにどうやってつなげていくかが課題であると感じた。

・小・中、そして中・高でもっと連携が必要だと思った。

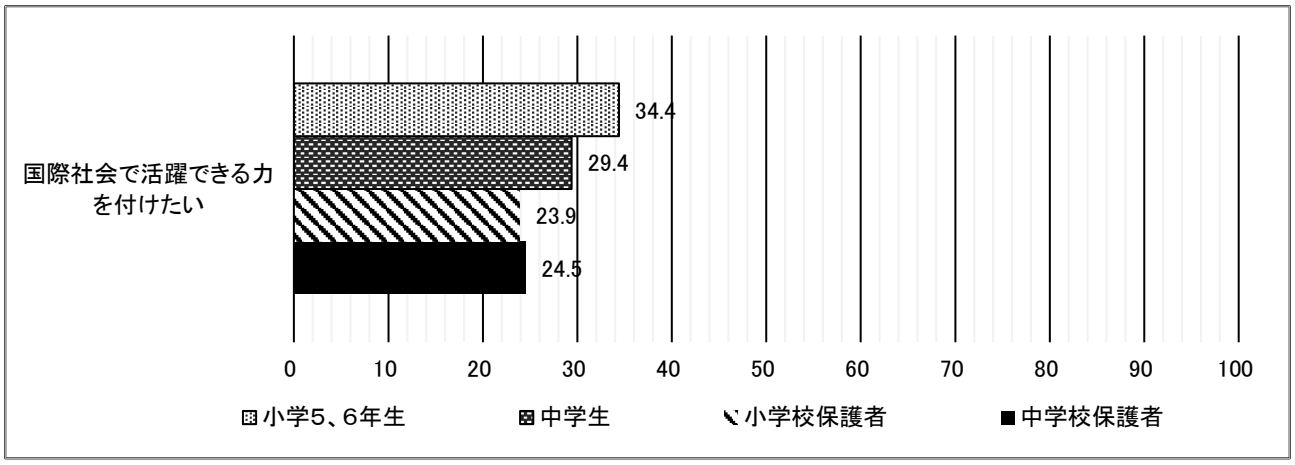
・３人の先生の役割がすごく明確で、無駄なく行われていた。TTの際の参考にしたい。授業も研修会も、先生も児童も英語を使ってコミュニケーションをしようという姿がすばらしい日だった。

３　英会話科等の学習に関するアンケート結果

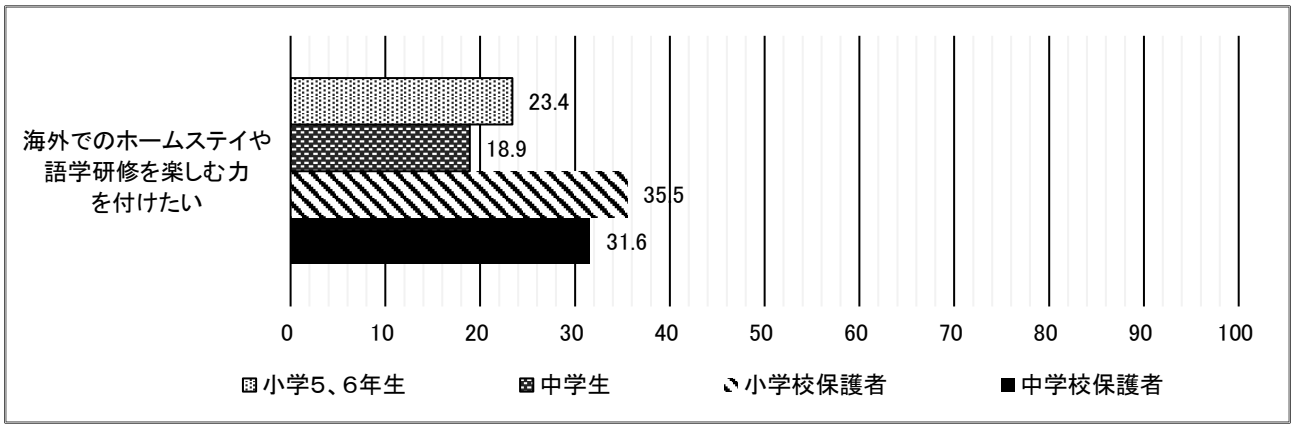
（1）　英語の学習で身に付けたい力【児童生徒アンケート（９）】

市内の小・中学校の保護者と小学５年生から中学３年生までを対象に「英語の学習で身に付けたい力」についてのアンケート調査（７項目選択式、複数回答可）を行った（保護者：1,686 人、小学５年生：305 人、小学６年生：256 人、中学１年生：280 人、中学２年生：291 人、中学３年生：316 人）。

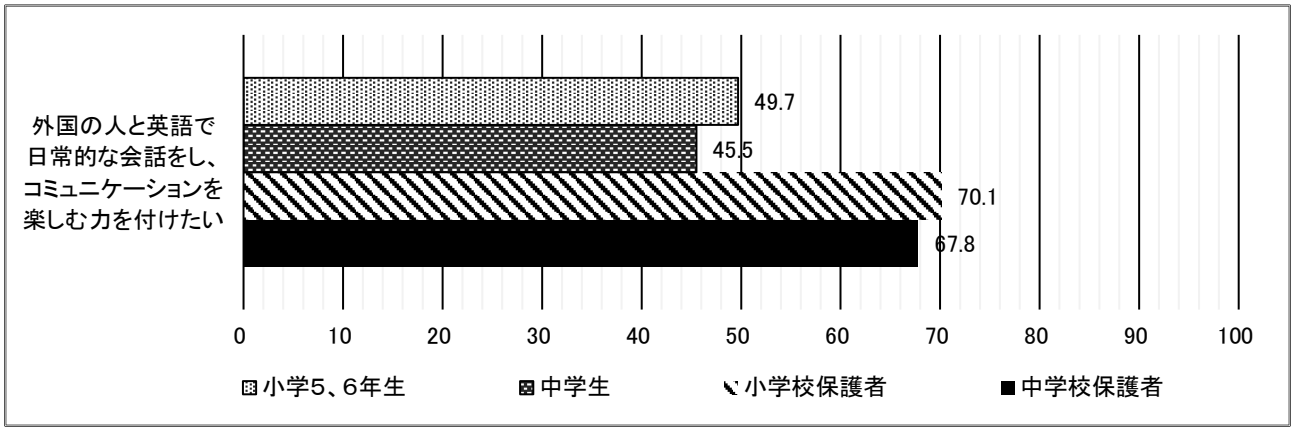
a　国際社会で活躍できる力を付けたい



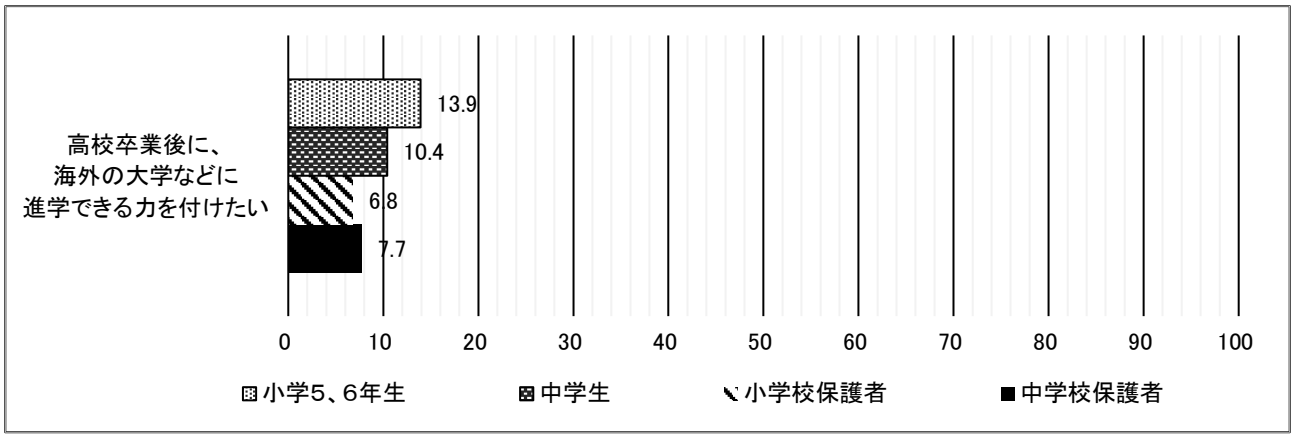
b　海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力を付けたい



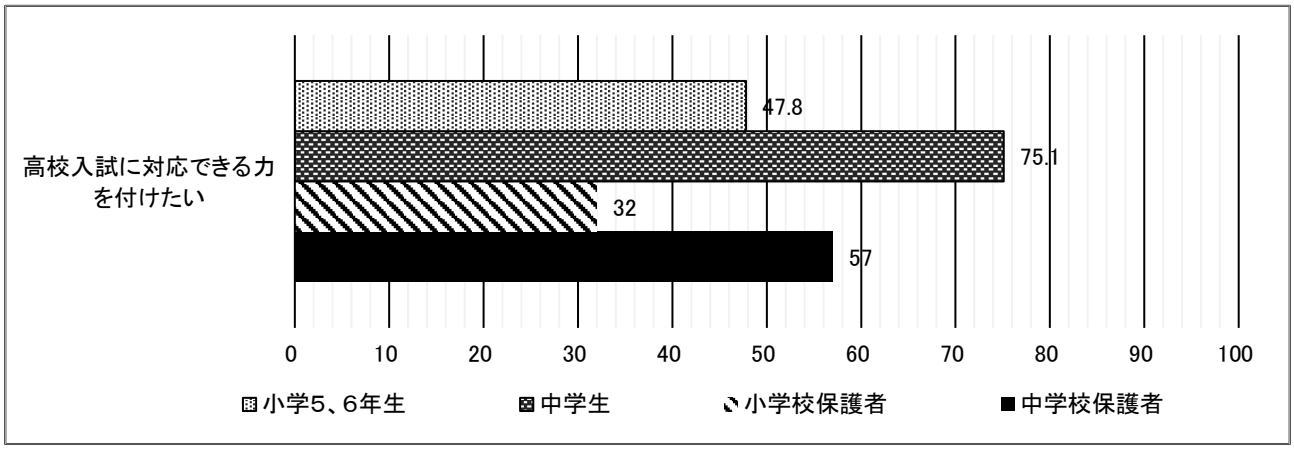
c　外国の人と、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい



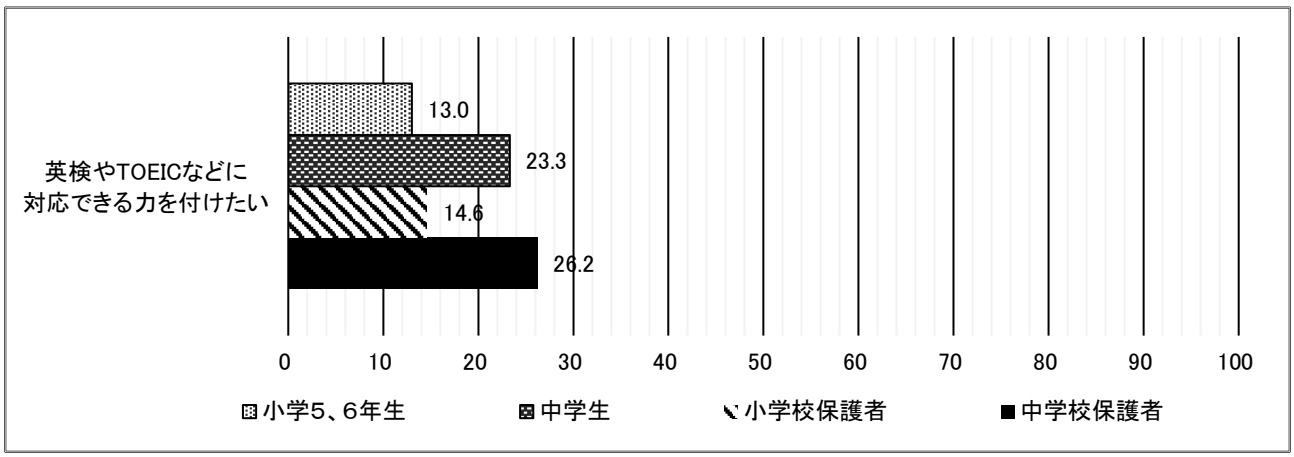
d　高校卒業後に、海外の大学等に進学できる力を付けたい



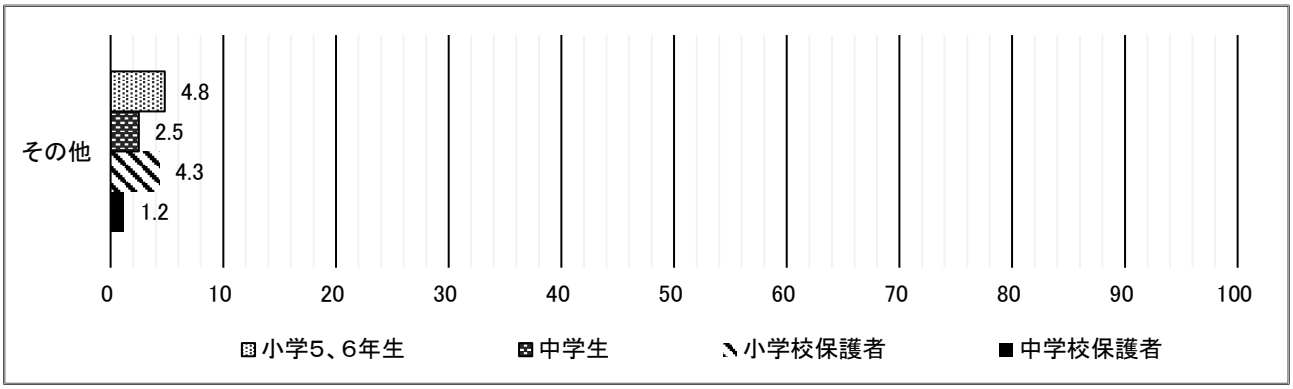
e　高校入試に対応できる力を付けたい



f　英検や TOEIC 等に対応できる力を付けたい



g　その他



〈その他の記入にあった主なもの〉

【児童生徒】

・外国人と友達になれる力を付けたい。
・メジャーリーガーになるために英語の勉強をする。
・外国の人が困っていたとき助けてあげられる力を付けたい。
・外国のアニメや漫画を読めるようにしたい。
・NBA に入るため英語を身に付けたい。
・仕事をする際に活躍できる力を付けたい。
・大学入試に対応できる力を付けたい。
・長文を読んだり書いたりできる力を付けたい。
・自分の趣味に活用したい。

【保護者】

・様々な人や文化 ・考え方に触れ、世界は広くて多種多様であることを感じてほしい。
・英語に慣れ、文法の間違いを気にせずに、コミュニケーションをとる力を付けてほしい。
・英語を通じ日本以外の国や文化に興味をもつ一翼になればいいと思う。

〈アンケート結果から〉

・全ての項目の中で一番割合が高かったのは、児童生徒、保護者ともに「c 外国の人と、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい」であった。英語を使って、外国人と会話を楽しみ、コミュニケーションを取りたいと思っている。
・中学生になると、進路を意識するようになり、生徒・保護者ともに「e 高校入試に対応できる力を付けたい」と思う割合が高まる。「聞くこと、話すこと」の言語活動と「読むこと、書くこと」の言語活動のバランスを意識した授業が望まれる。
・「b 海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力を付けたい」「f 英検や TOEIC 等に対応できる力を付けたい」の割合があまり高くない。自分のもっている力を試す利点や、黒部市の姉妹都市交流研修事業や英検検定料補助についての周知をさらに進める。

（２）　児童生徒アンケート

市内の小学校１年生から中学校３年生までを対象に、アンケート調査（自分のことを振り返って記入する、自己評価）を行った。

【実施時期】　令和６年 11 月１日～令和６年 11 月 29 日

【実施校数】　小学校９校、中学校２校　※市内全小・中学校

【回答人数】　小学校・・・　１年生　274 人、２年生　296 人、３年生　296 人
４年生　341 人、５年生　305 人、６年生　256 人
中学校・・・　１年生　280 人、２年生　291 人、３年生　316 人

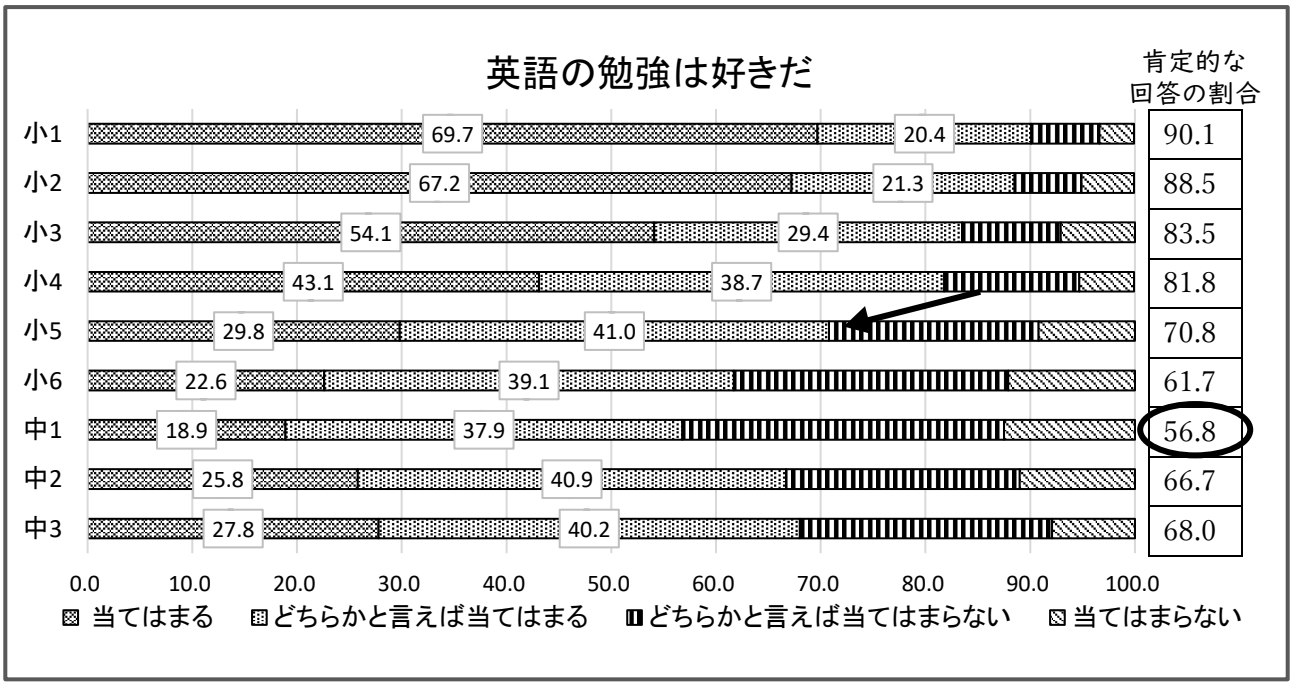
※（参考）令和５年度の回答人数
小学校・・・　１年生　278 人、２年生　248 人、３年生　315 人
４年生　279 人、５年生　263 人、６年生　297 人
中学校・・・　１年生　301 人、２年生　315 人、３年生　309 人

【質問項目】　〈英語や英会話等の学習に対する興味関心について〉
（１）「英語の勉強は好きだ」
（２）「英語の勉強は大切だ」
（３）「英語科や英会話科の授業の内容はよくわかる」
（４）「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」
（５）「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」
（６）「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」
（７）「日本や黒部、あなたがすんでいる地域のことを、外国の人にもっと知ってもらいたい」
（８）「これまで、学校の授業以外で英語を使う機会があった」
（９）英語の学習で身に付けたい力
「あなたは英語を使ってどんなことをできる力を付けたいですか（複数回答可）」

〈英語や英会話科等の学習活動について〉
（10）聞くこと「英語を聞いて、その概要や要点を捉えている」
（11）読むこと「英語を読んで、その概要や要点を捉えている」
（12）話すこと（やり取り）「英語を聞いて（即興で）英語で話している」
（13）話すこと（やり取り）
「友達同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりしている」
（14）話すこと（発表）「伝えたいことを英語で話している」
（15）書くこと「自分の考えや気持ち等を英語で書いている」
（16）家庭学習「家で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている」

※児童生徒の発達段階に応じた質問数及び質問内容とした。

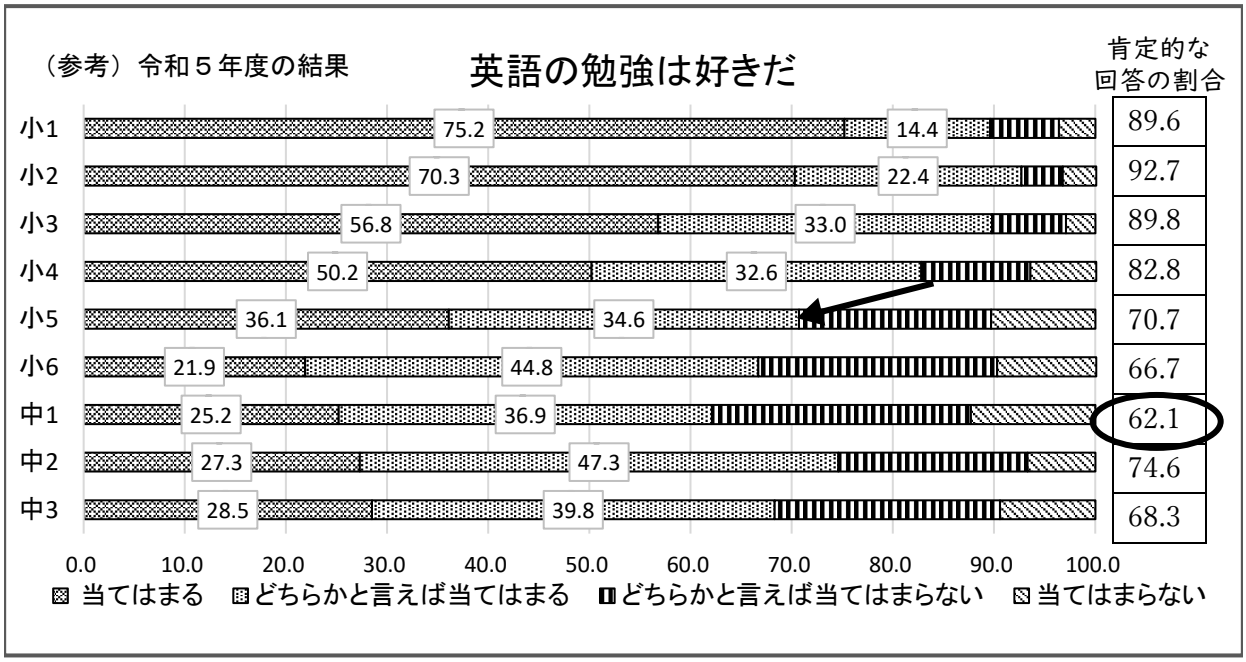
（１）「英語の勉強は好きだ」



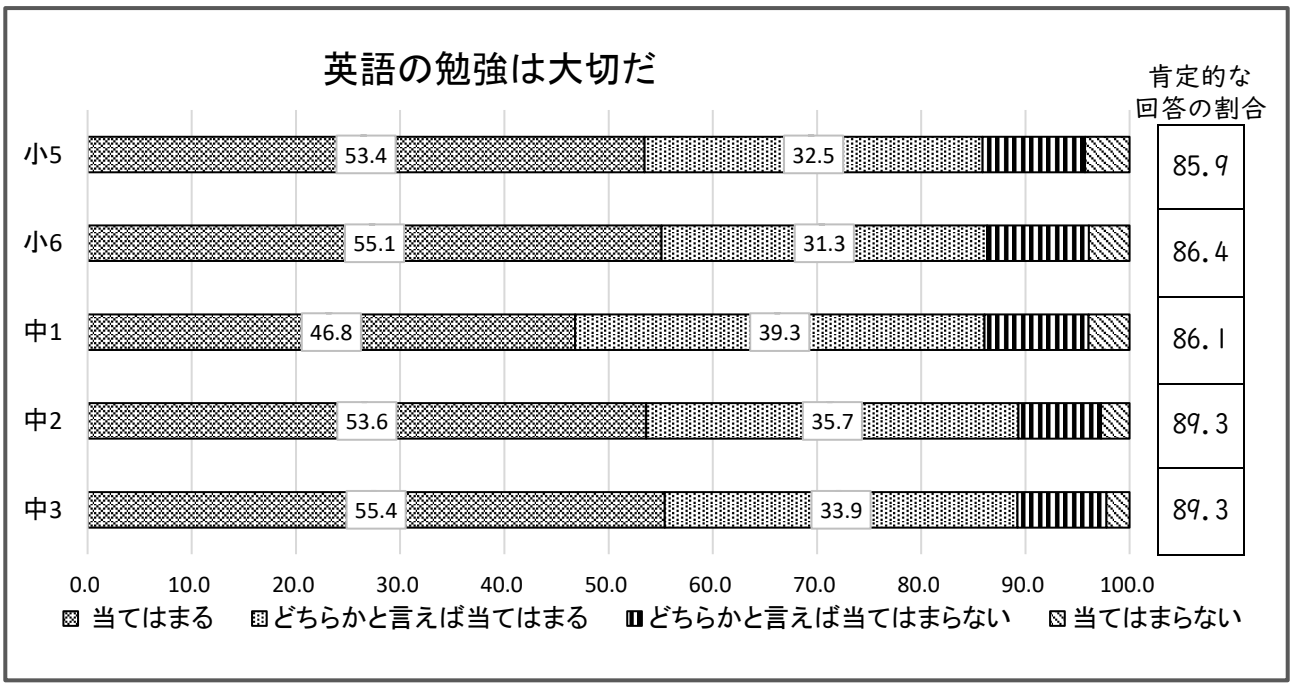
学年が上がるにつれて肯定的な意見（当てはまる、どちらかと言えば当てはまる）の割合が低くなり、中学校で少し増加傾向に転じるところは昨年度と変わらない。肯定的な意見の割合が全体的に昨年度より低くなってきている。特に、外国語科と教科に変わる小学校4年生から5年生の肯定的な意見の割合の減り方は、１１ ポイント程度と大きくなっている。

小学5年生から教科の学習として「読む」「書く」活動が加わるなど、新しい活動への苦手意識が要因と考えられるが、「読むこと」「書くこと」の学習へのスムーズな移行は、やはり音声で十分に慣れ親しませることが前提にある。HRT、ALT、JAT、JET の効果的なティーム・ティーチングにより、何度も話す聞くのやり取りを行うことが大切である。

今後も、英会話から外国語活動、外国語活動から外国語科、そして小学校から中学校への円滑な接続を意識した指導が大切である。



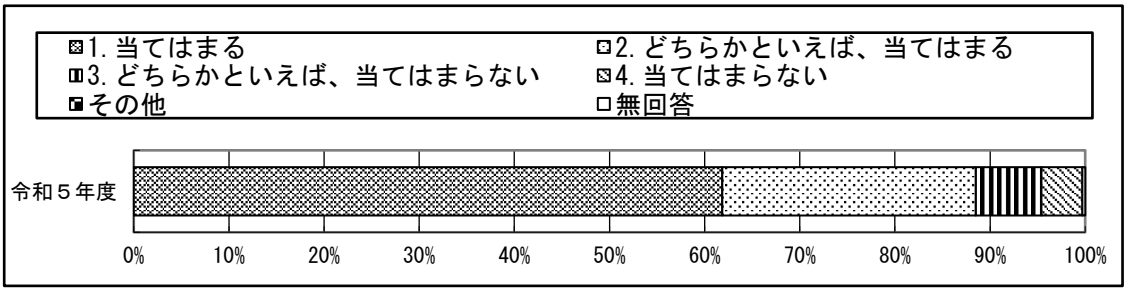
（２）「英語の勉強は大切だ」



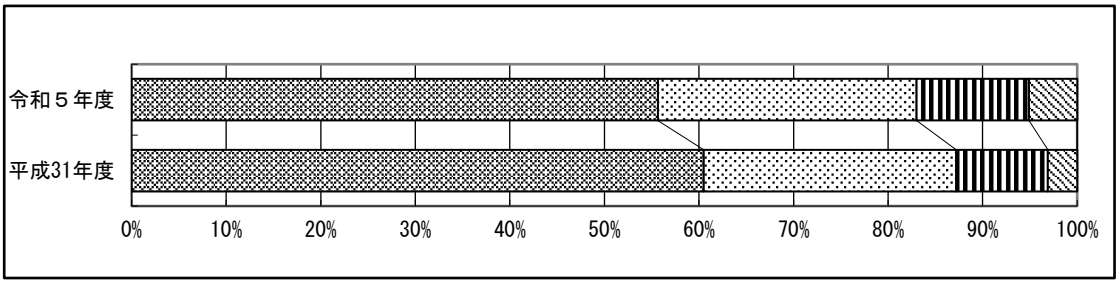
どの学年も、８ 割以上の児童生徒が「英語の授業は大切だ」と感じている。自分の意見や考えを表現するため、視野を広げ多様な意見を知るため、自分の将来の目標を達成するため、外国の人々と交流するため、趣味の世界を広げるためなど、様々な理由があると思われる。児童生徒と、英語の大切さを共有しながらコミュニケーション能力の育成に努めたい。

（参考）全国学力・学習状況調査の黒部市の結果

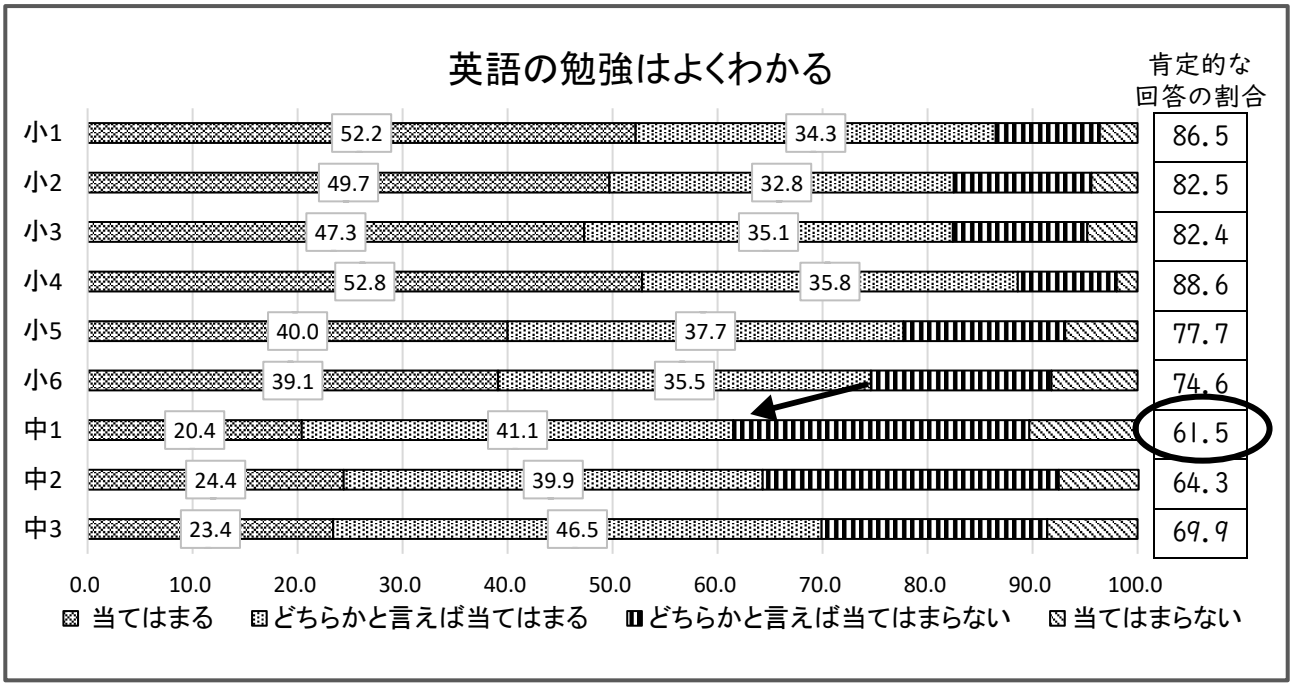
〔小 6〕



〔中 3〕

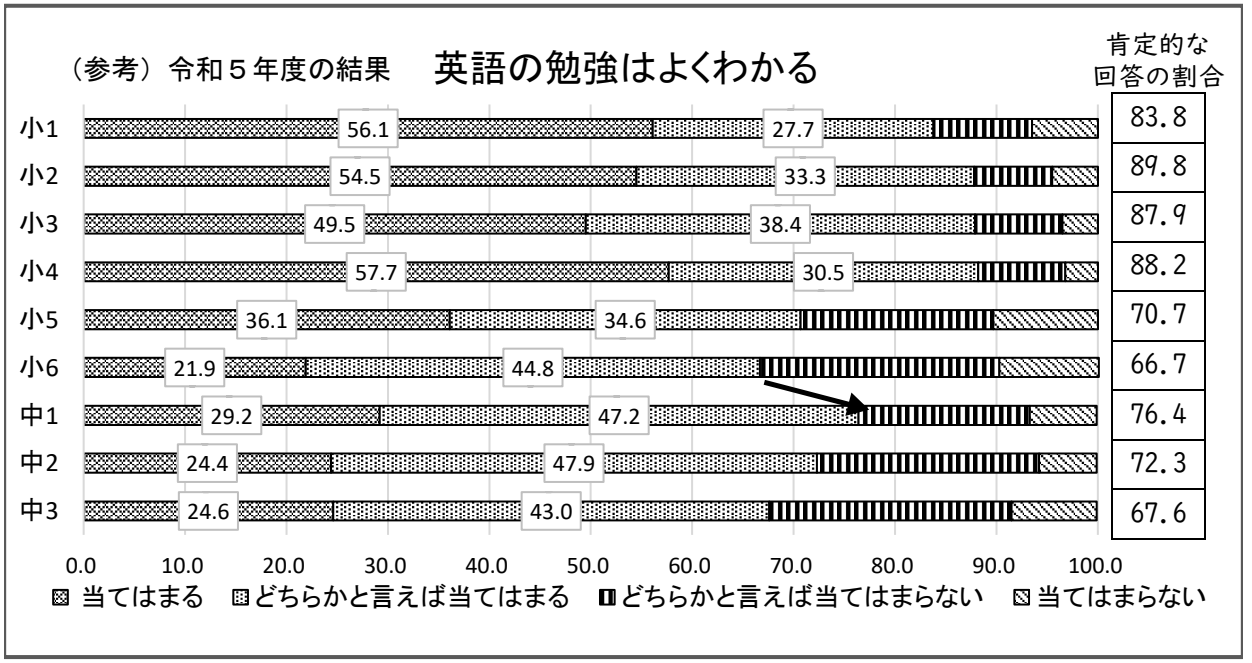


（３）「英語や英会話科の勉強はよくわかる」

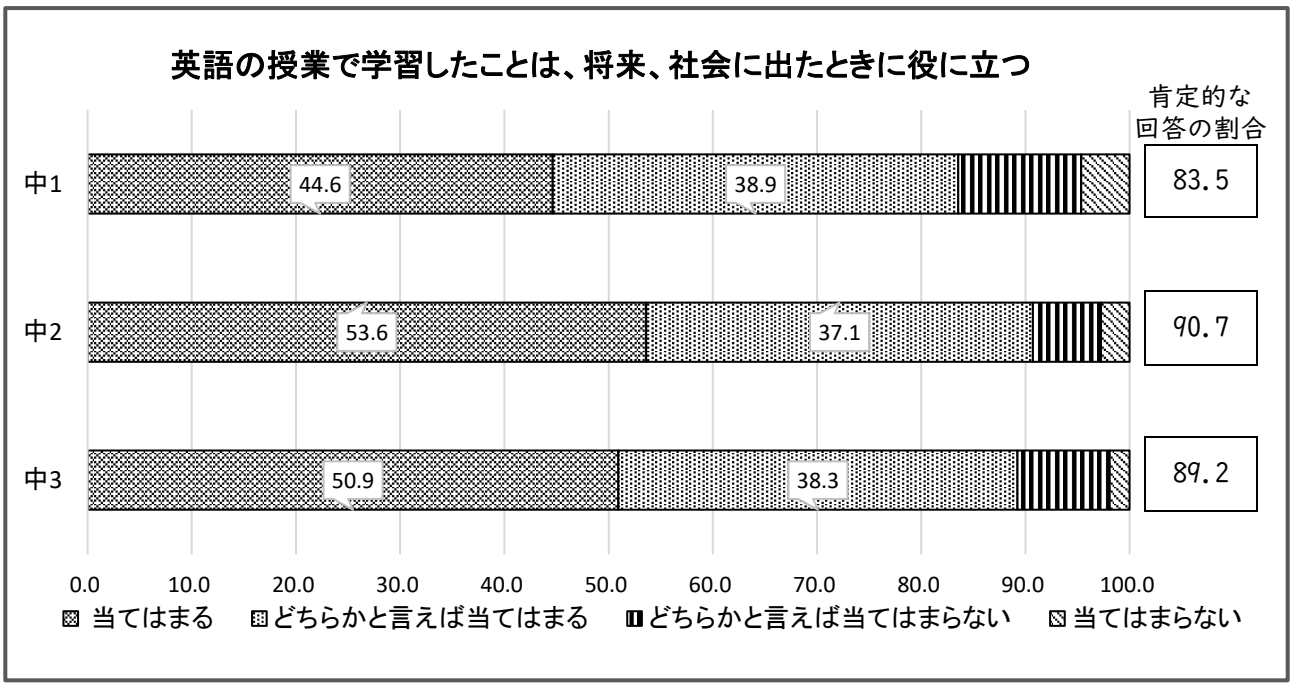


小学校は、1年生～4年生までは肯定的な意見の割合が8割を超え、5年生以降は、6～7割台となっているのは昨年同様である。しかしながら、昨年度小6→中1で肯定的な意見の割合が9.7ポイント増加していたが、今年度は13.1ポイント減少している。また、小4→小5でも10.9ポイント減少しており、児童生徒の学びの接続に大きな課題が見られる。

専科教員や HRT、ALT、JAT の T･T の在り方、英語を用いたペア、グループ活動等のコミュニケーションの場の設定の在り方、指導方法等を再確認し、児童生徒に寄り添いながら理解度を高められるようにしていきたい。



（４）「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」

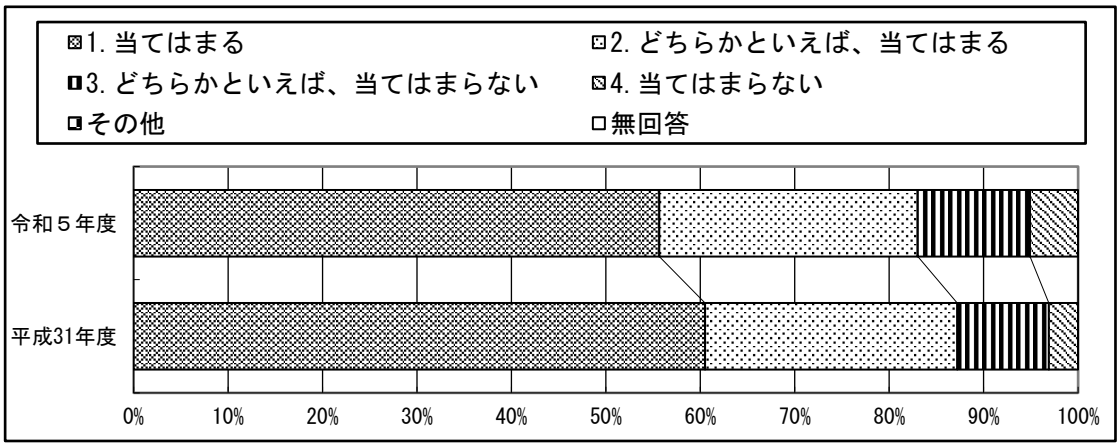


多くの中学生が英語の有用性を感じている。グローバル化が進み、英語によるコミュニケーション能力が生涯にわたる様々な場面で必要とされていることを理解していると思われる。将来、社会に出たときに英語を使ってコミュニケーションを図ることを想定しているとも言える。

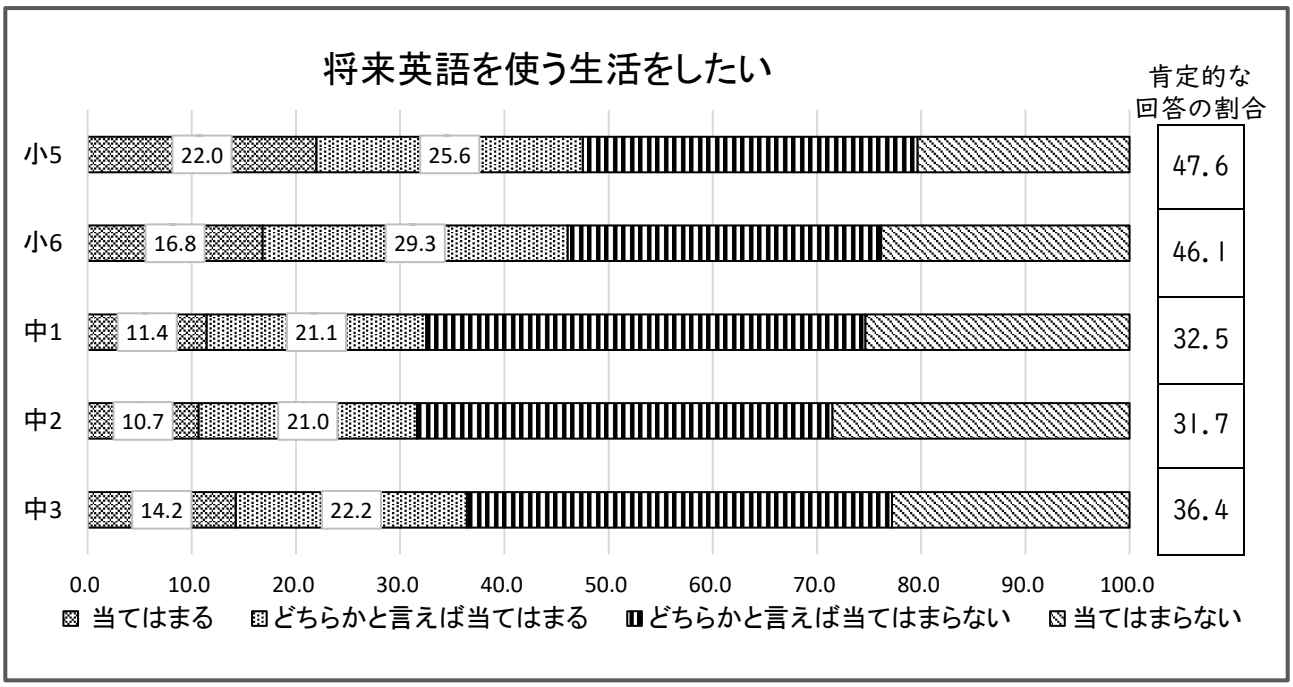
コミュニケーションを支えるための文法指導を意識しながら、言語活動が授業の中心となるような学習展開を重視していきたい

（参考）全国学力・学習状況調査の黒部市の結果

〔中 3〕



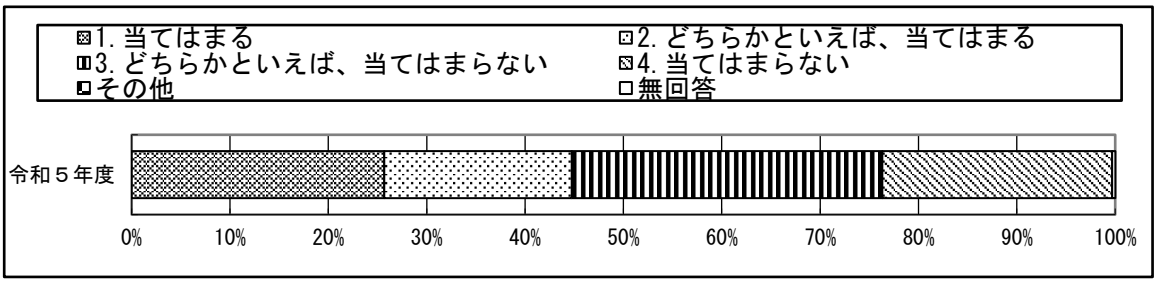
（５）「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」



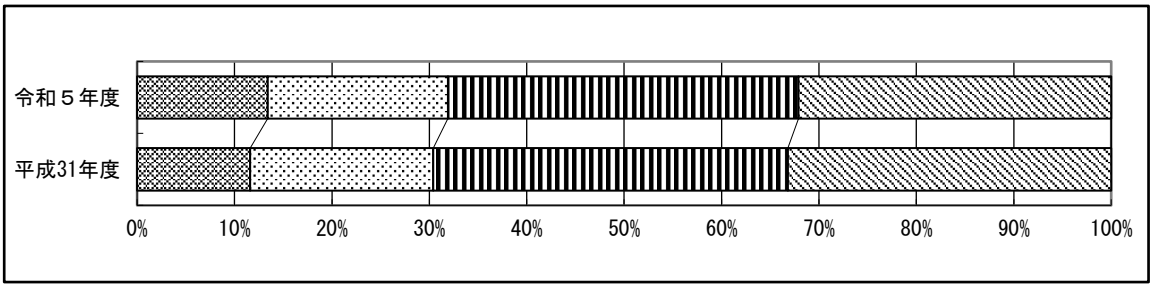
どの学年も肯定的な回答の割合は低めであり、中学生では３割程度となっている。「英語を使うような生活」「英語を使うような職業」について、どんなイメージをもっているのかによるが、児童生徒は、将来、自分から英語を使うことについてはあまり積極的ではないと言える。しかし、(2)や(4)の回答結果からも分かるとおり、児童生徒は英語の重要性や有用性を理解している。英語を使うことで自分の世界が広がり、生活が豊かになり、職業の選択肢が増えることに児童生徒が気づくことができるよう、コミュニケーション能力の育成に向けた授業改善をさらに進め、自ら積極的に英語を使う態度を養っていきたい。

（参考）全国学力・学習状況調査の黒部市の結果

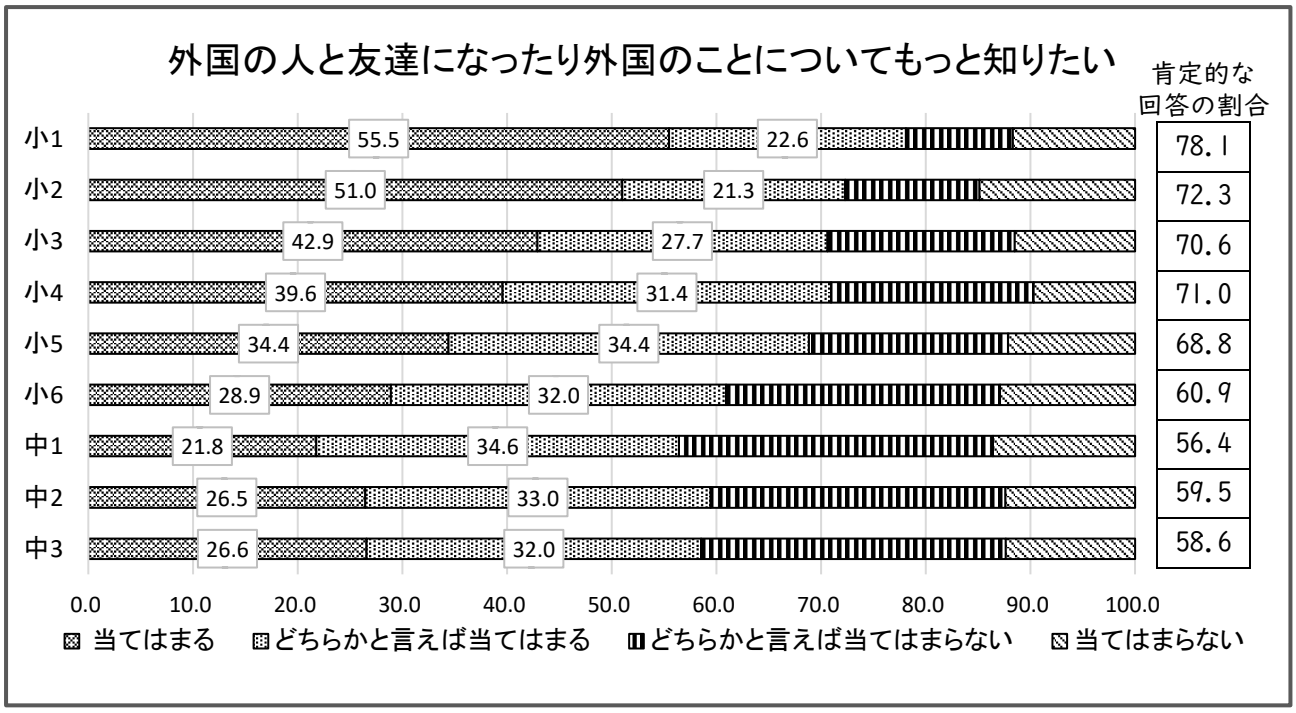
〔小 6〕



〔中 3〕



（６）「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」



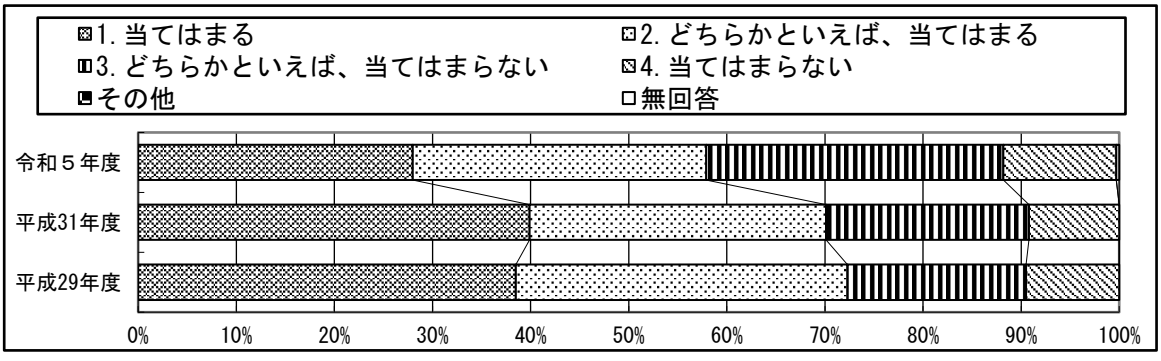
外国や異文化への興味関心については、小学校低学年の頃は 7 割以上の児童が肯定的な回答をしているが、学年が上がるにつれ、低くなる傾向にある。

また、昨年度の全国学力・学習状況調査の黒部市の結果と比較すると、小 6 では同程度の結果であるが、中 3 では昨年度より低めの結果となっている。

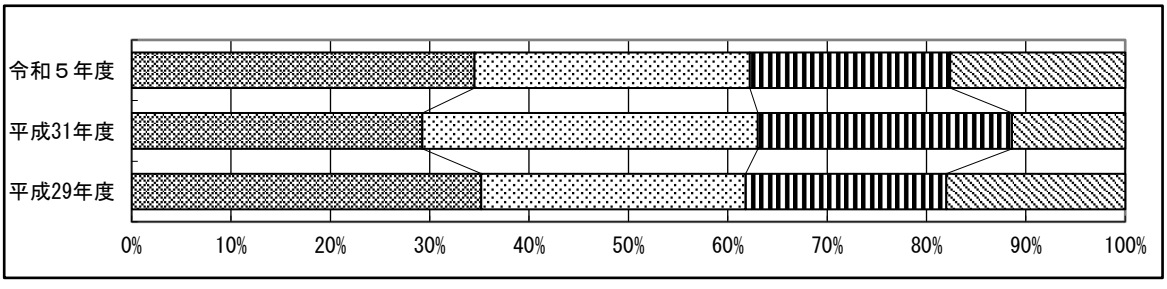
黒部国際化教育の環境を生かし、ALT が外国の文化に触れる授業を行ったり、黒部市姉妹都市交流の活動をよい機会として活用したりするなど、外国を身近に感じ、興味関心を高められるような工夫が望まれる。

（参考）全国学力・学習状況調査の黒部市の結果

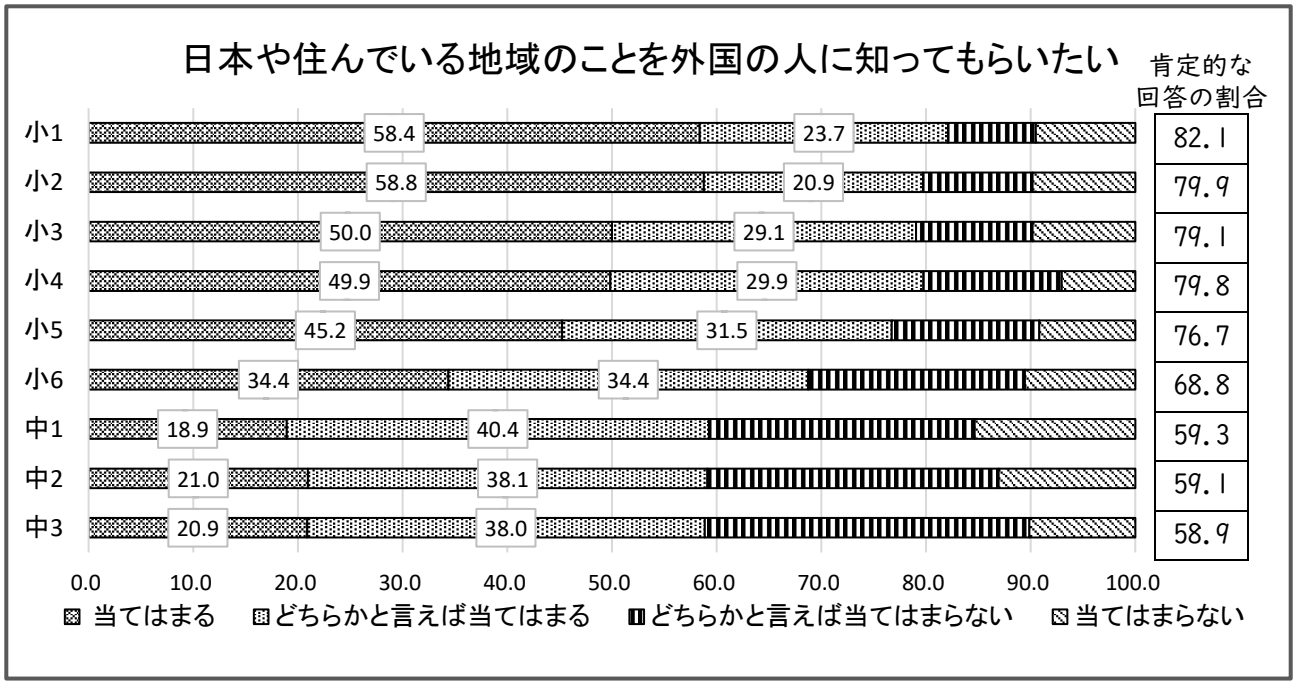
〔小 6〕



〔中 3〕



（７）「日本や黒部、あなたがすんでいる地域のことを、外国の人にもっと知ってもらいたい」



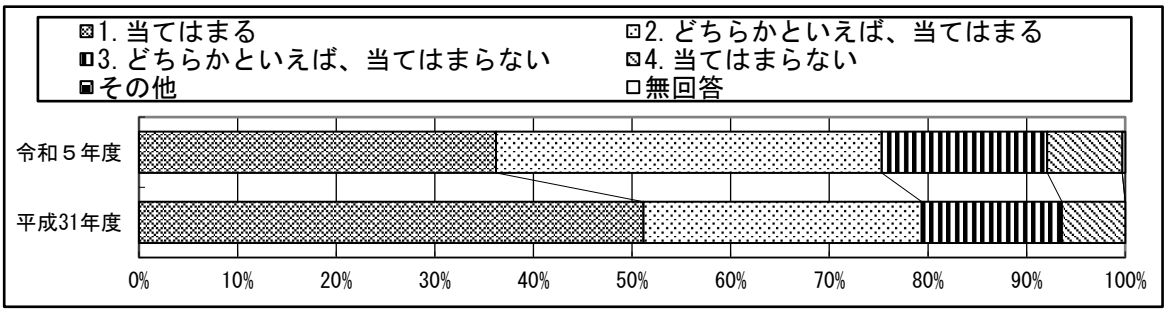
小学校低学年の頃から、日本や黒部等のことを外国の人に知ってもらいたい、という願いをもっていることが分かる。学年が上がるにつれ、その割合は低くなっていっている。

また、昨年度の全国学力・学習状況調査の黒部市の結果と比較すると、小6でも中3でも低い結果となっている。

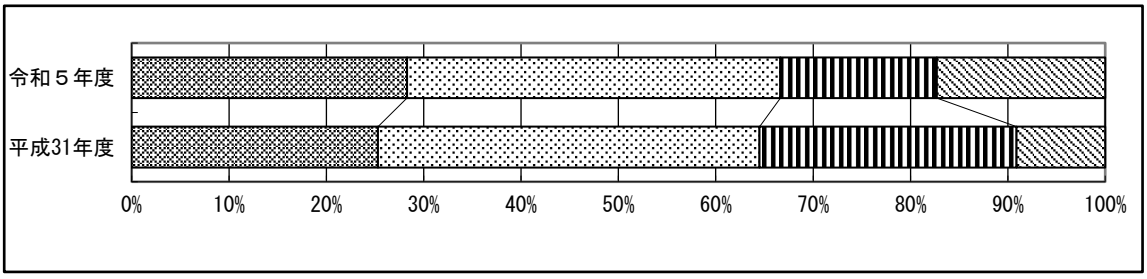
ふるさと黒部のよさを誇りに思い、愛着をもって、世界に発信しようとする意欲や態度の育成に努めたい。

（参考）全国学力・学習状況調査の黒部市の結果

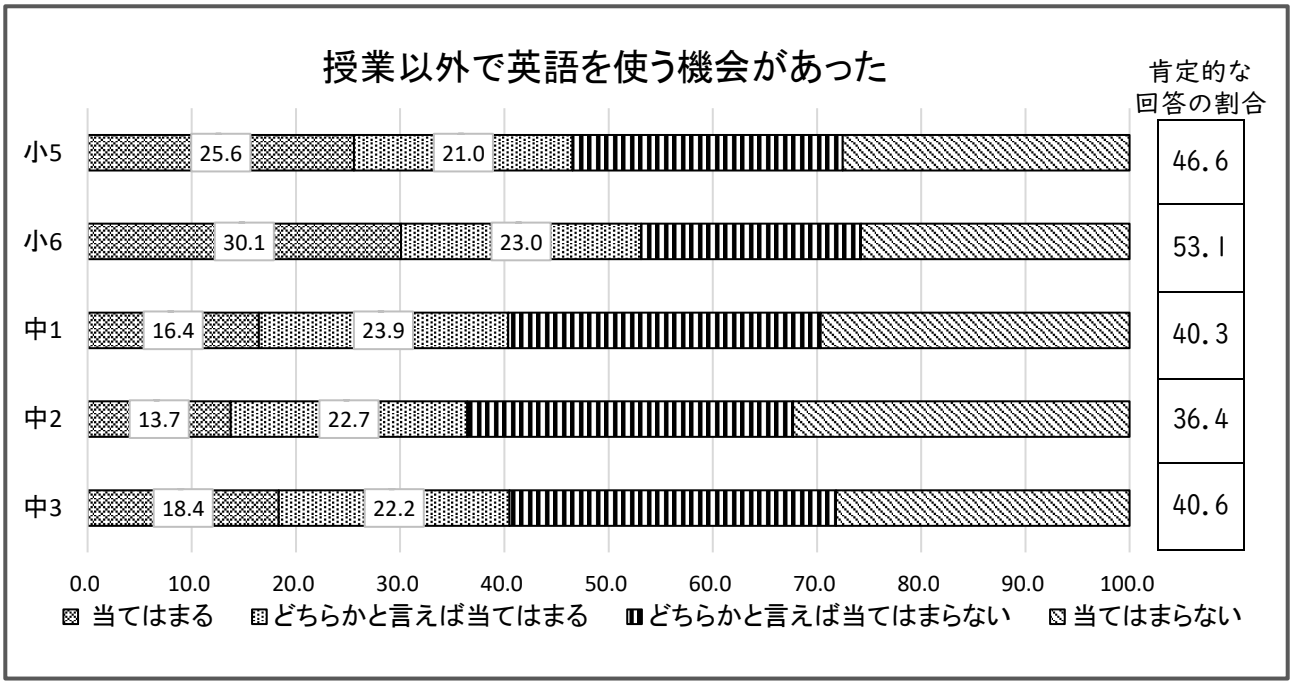
〔小 6〕



〔中 3〕



（８）「これまで、学校の授業以外で英語を使う機会があった」

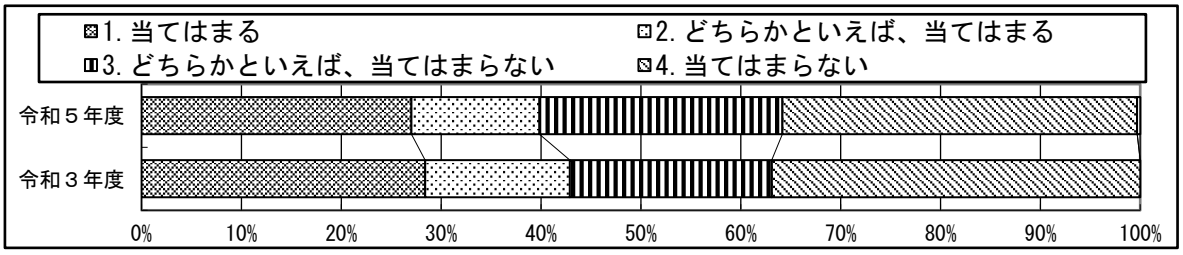


小学校ではおよそ５割、中学校ではおよそ4割の児童生徒が、授業以外で英語を使う機会があったと回答している。

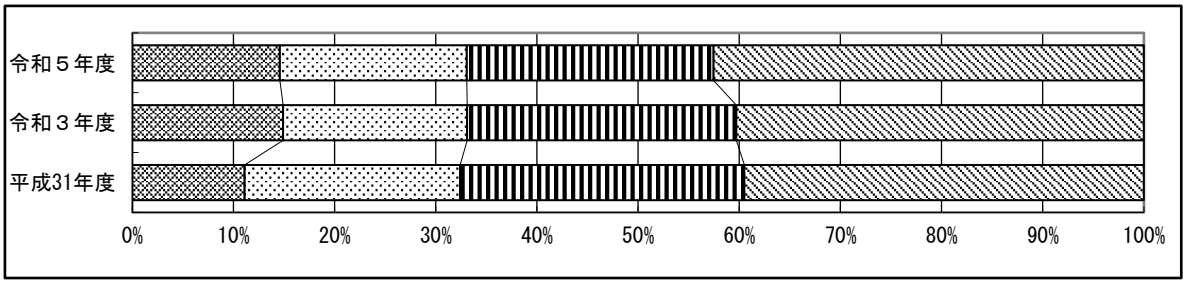
小学校では ALT と業間活動で遊んだり一緒に給食を食べたりする、中学校では ALT が部活動に参加するなど、授業以外の時間にALTとふれあうことで英語を使うよい機会となっていると思われる。また、英語による校内放送や、ALT が作成する外国の行事に関する掲示物等、英語や国際理解に関する環境づくりに関して各校が工夫を凝らしている。

（参考）全国学力・学習状況調査の黒部市の結果

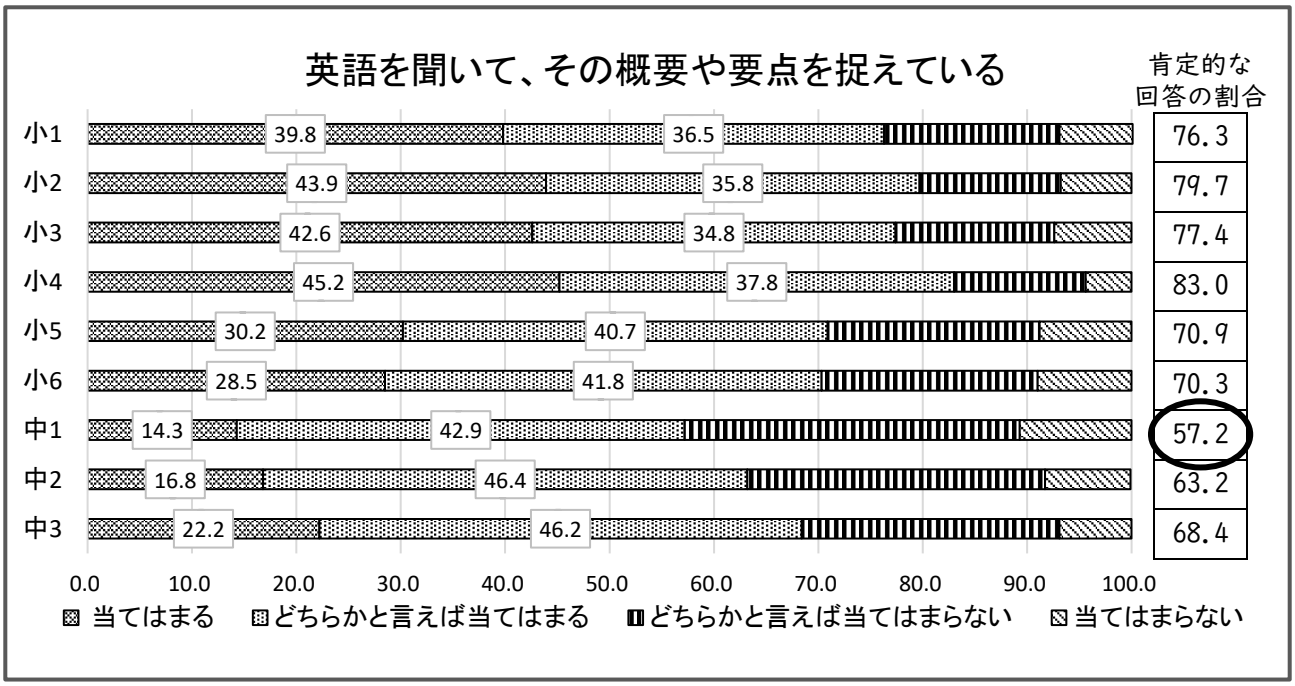
〔小６〕



〔中 3〕

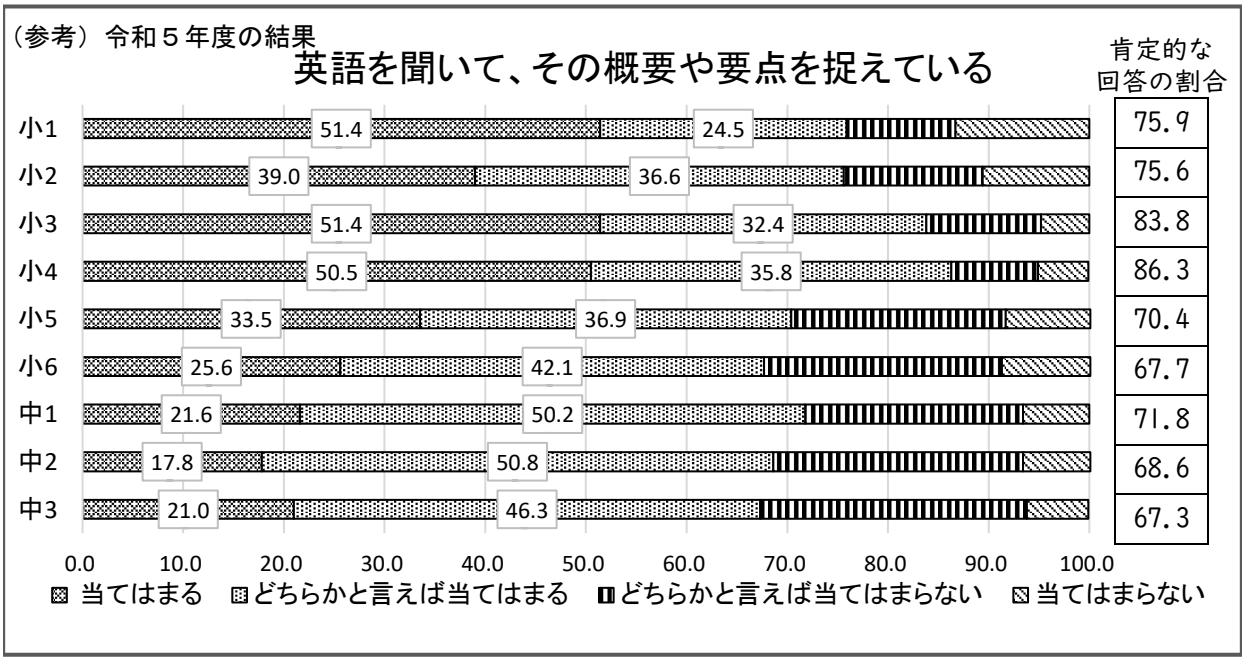


（10）聞くこと「英語を聞いて、その概要や要点を捉えている」

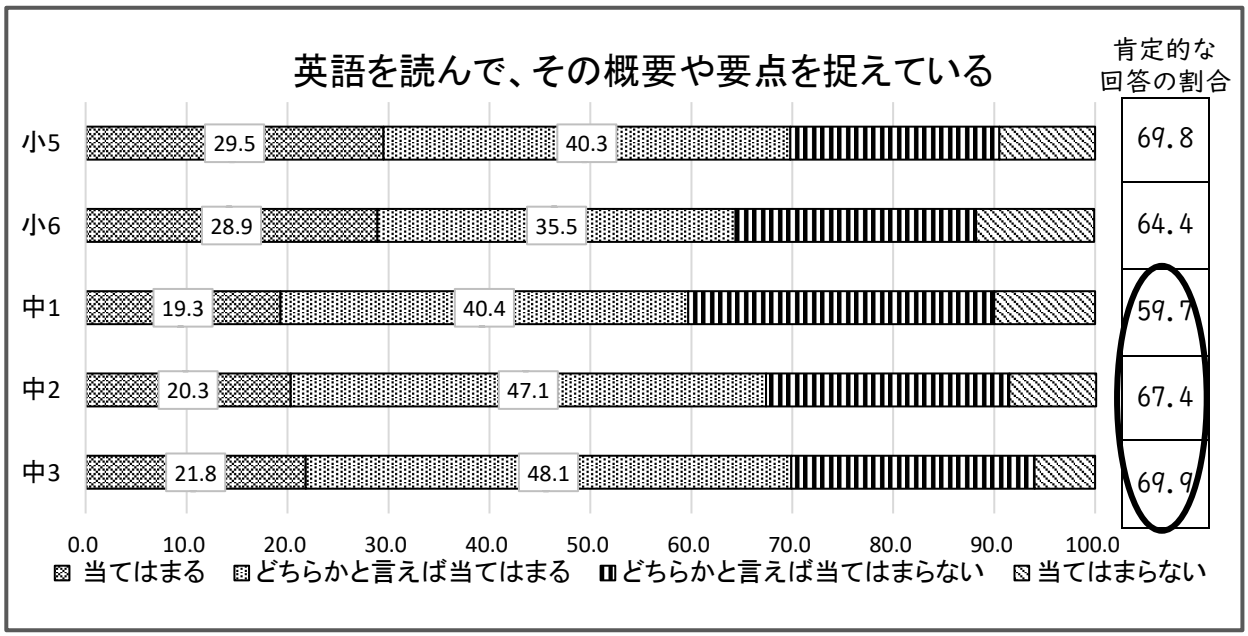


小学校の肯定的な意見の割合は7割台～8割台、中学校は6割前後となっている。特に中1では昨年度よりも肯定的な意見の割合が14.6ポイントも減少している。小学校の中学年くらいでリスニングに慣れてくるが、単語が増えセンテンスが長くなる高学年、中1で難しくなってくるようである。すぐに日本語に訳すのではなく、英語で話す速度を変化させながら複数回聞かせる、大切なワードを強調するなど、児童生徒が内容を類推しながら聞くことができるように工夫していくことで「分かった」と思えるようにしていきたい。

（参考）令和５年度の結果



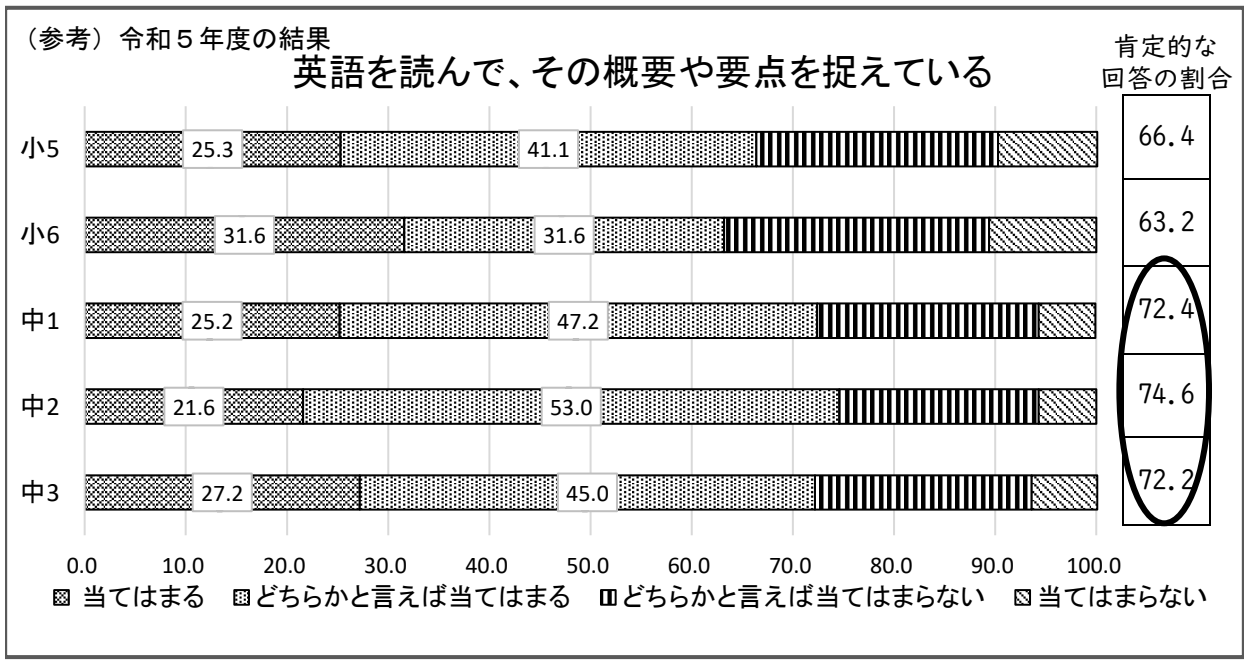
（11）読むこと「英語を読んで、その概要や要点を捉えている」



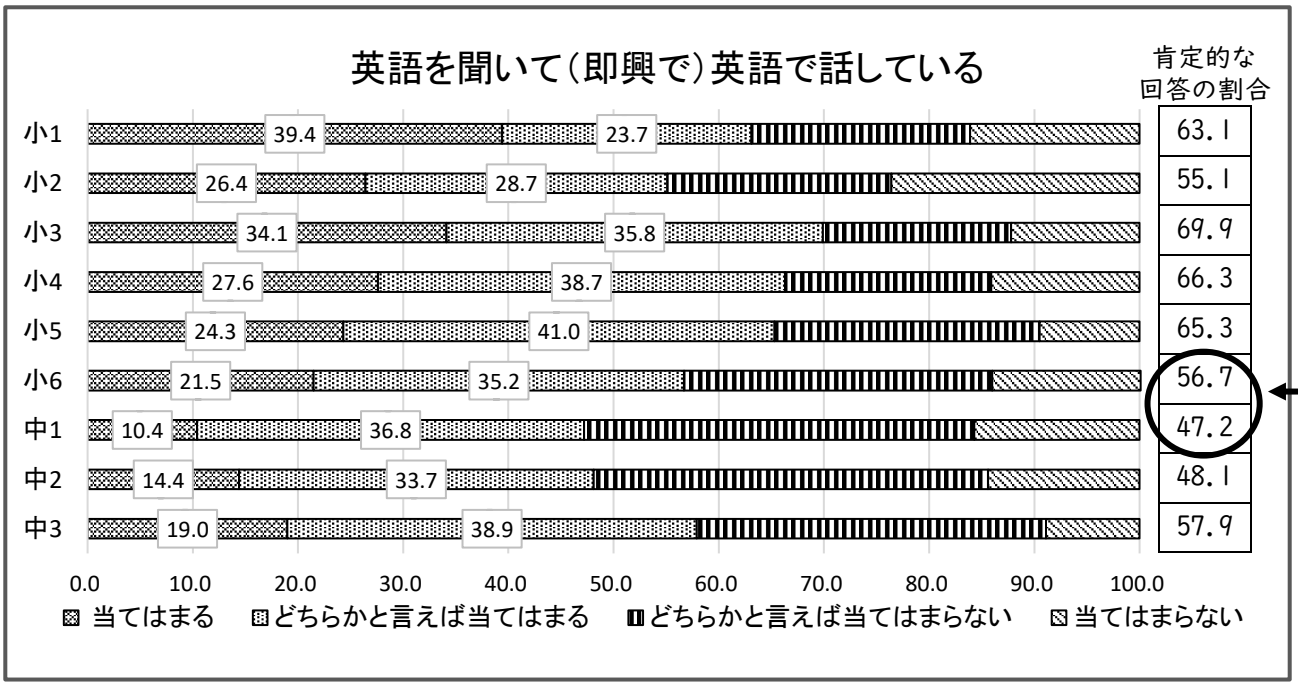
小学校の肯定的な意見の割合は6割台、中学校は6割前後となっている。

しかし、昨年度のグラフと比較すると、中学校1年生～3年生で肯定的な意見の割合が減っている。単語が増えて難しくなったり、文章が長くなったりすることで「読むこと」に抵抗が見られる児童生徒が増加しているようである。段階を追った指導を心掛け、読むことにも自然に慣れながら習得できるようにしていきたい。

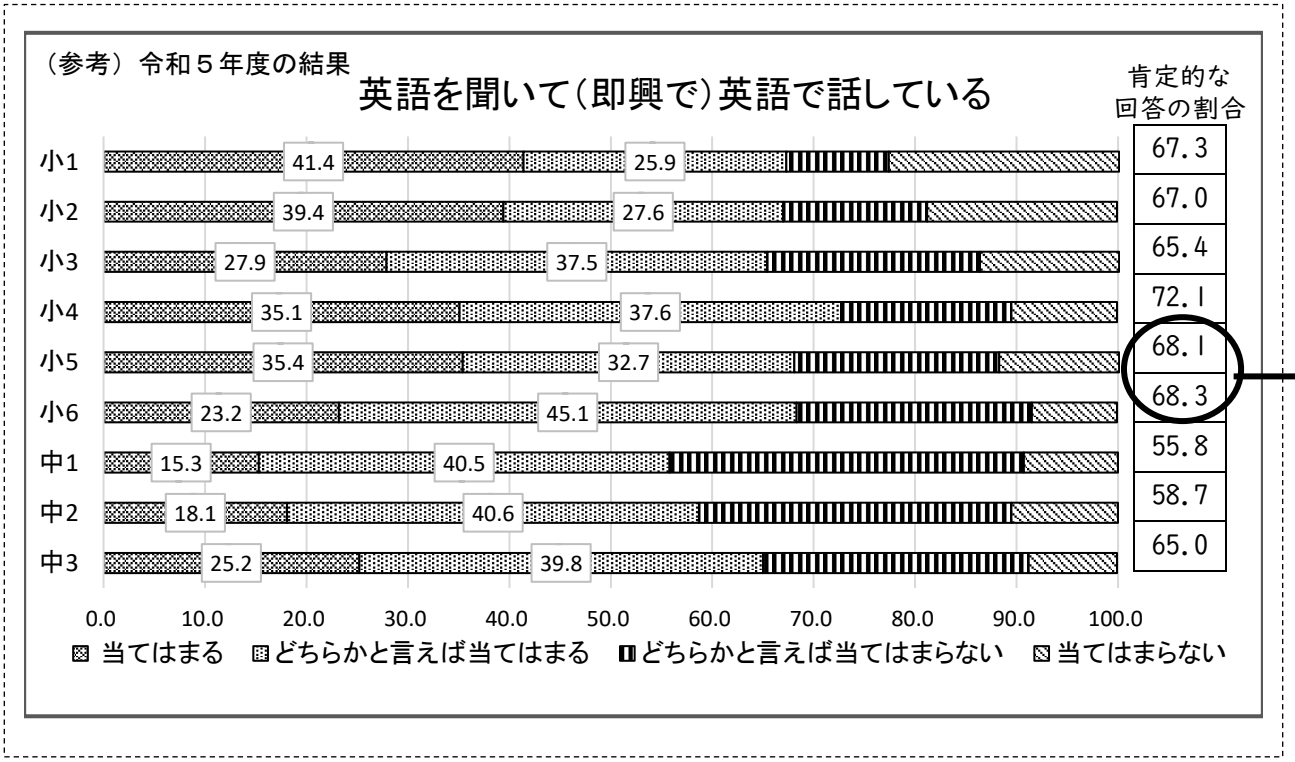
（参考）令和５年度の結果



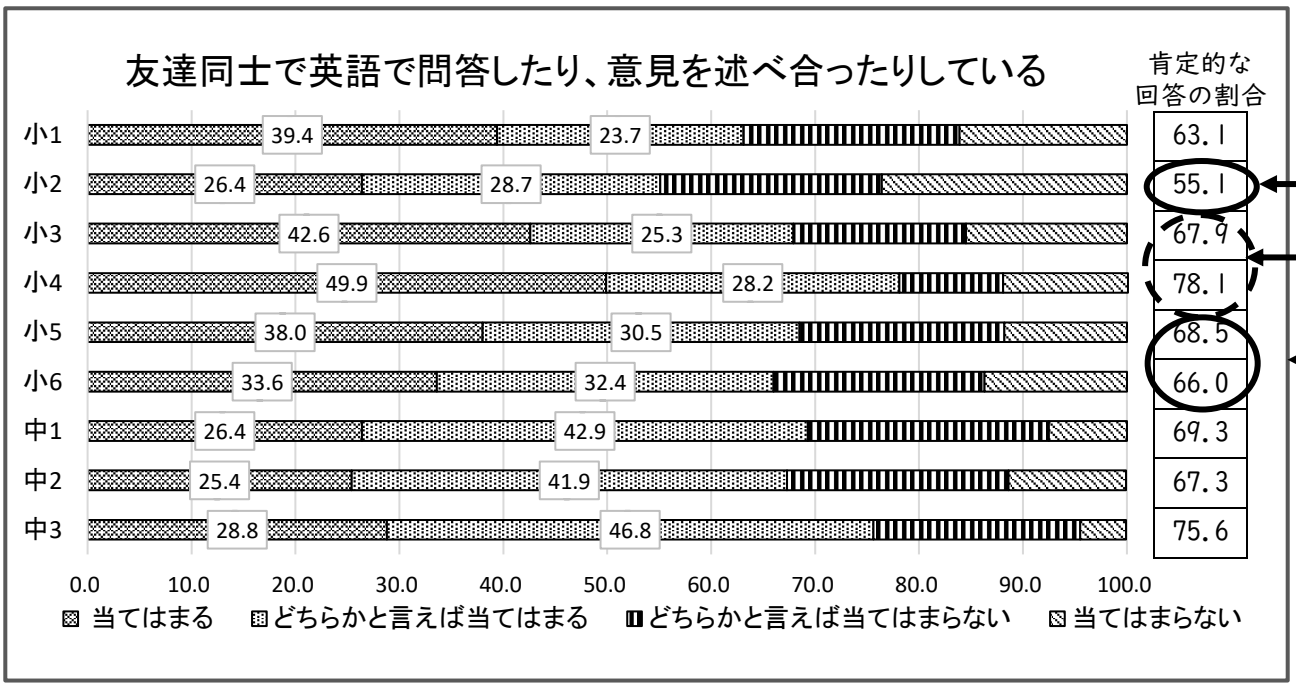
（12）話すこと（やり取り）「英語を聞いて（即興で）英語で話している」



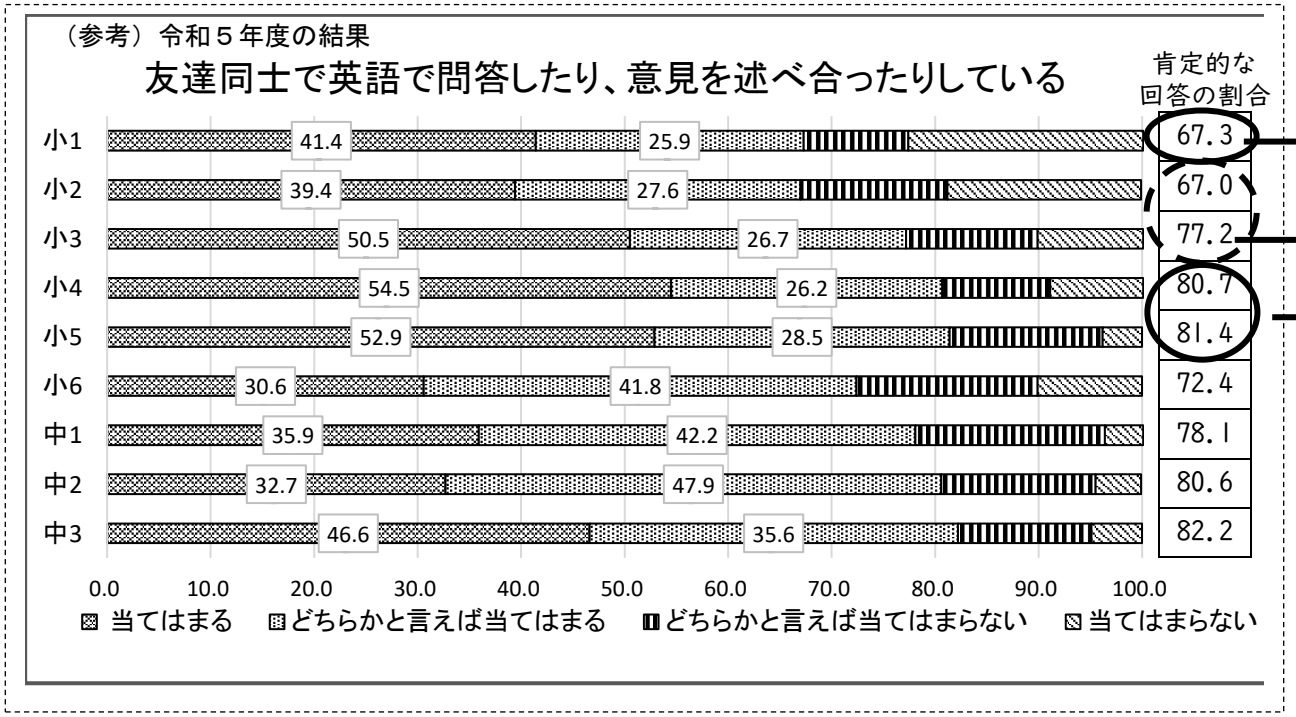
小学校の肯定的な意見の割合は５～６割台、中学校は5割前後となっている。昨年度のグラフと比べると肯定的な意見の割合が全体的に下がっている。特に、現中学校１年の生徒たちは昨年度より２１．１ポイント（小６：６８．３→中１：４７．２）減少し、現小学校６年の児童たちは、昨年度より１１．４ポイント（小５：６８．３→小６：５６．７）減少している。授業における「スモールトーク」等、学んだ英語表現を活用しながら児童生徒が即興でやり取りする場を大切にするなど、即興でのやり取りをする機会を意図的・計画的に取り入れた指導を行っていく必要がある。



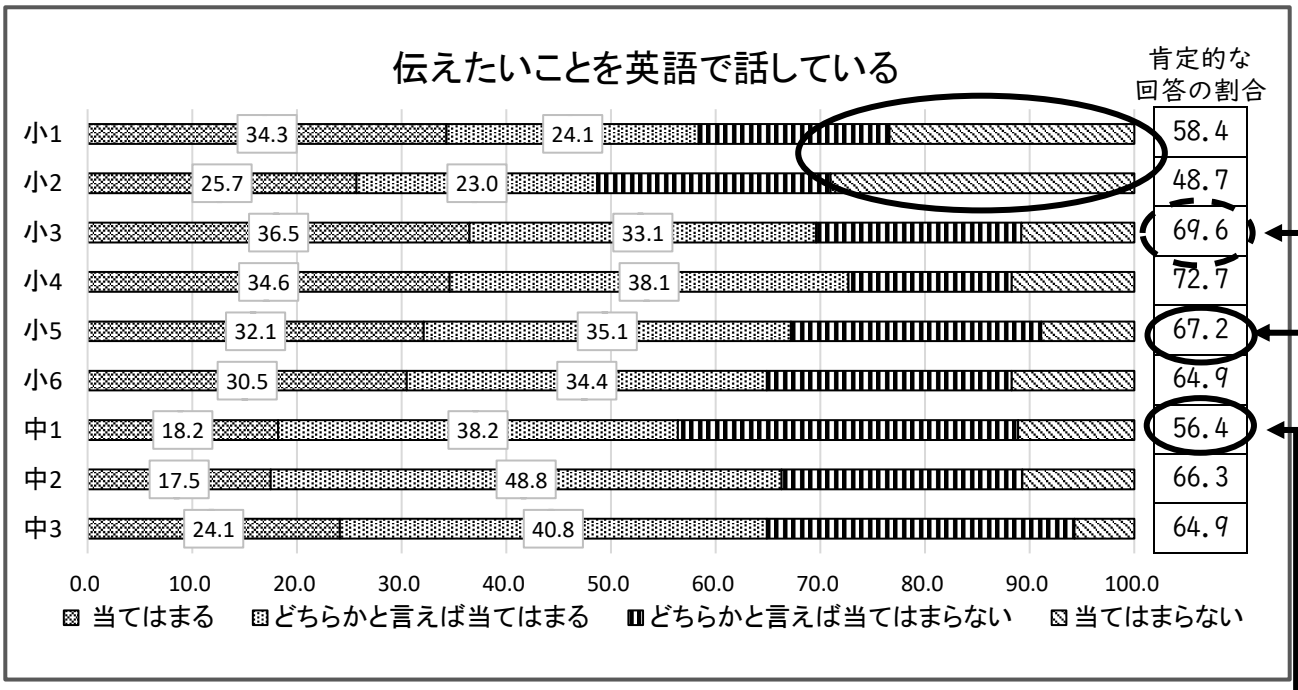
（13）話すこと（やり取り）「友達同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりしている」



小学校の肯定的な意見の割合は 5～7割台、中学校の肯定的な意見の割合は7割前後となっている。昨年度のグラフをもとに、学年が上がるにつれての変容を見ると、現小学校3年生（小2：67.0→小3：67.9）と現小学校4年生（小3：77.2→小4：78.1）は昨年度より高くなっている。これは中学年の外国語活動において、英語を使ったやり取りや発表が増えてきているためと考えられる。しかしながら、現小学校2年生が昨年度より12.2ポイント（小1：67.3→小2：55.1）、現小学校5年生が12.2ポイント（小4：80.7→68.5）、現小学校6年生が15.4ポイント（小5：81.4→小6：66.0）低くなっている。英語を用いてやり取りをする場面設定を取り入れたり、短い英語でのやり取り等の工夫をし、児童生徒が友達とのコミュニケーションを図ろうとすることの楽しさを味わえるようにしたい。



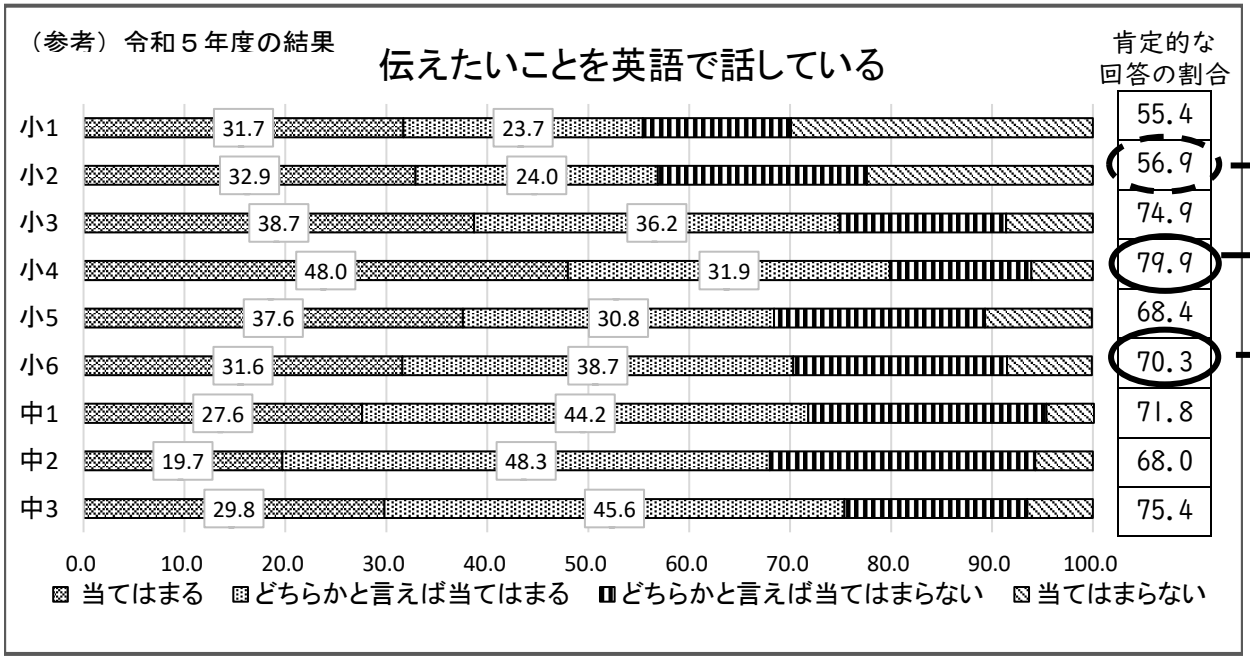
（14）話すこと（発表）「伝えたいことを英語で話している」



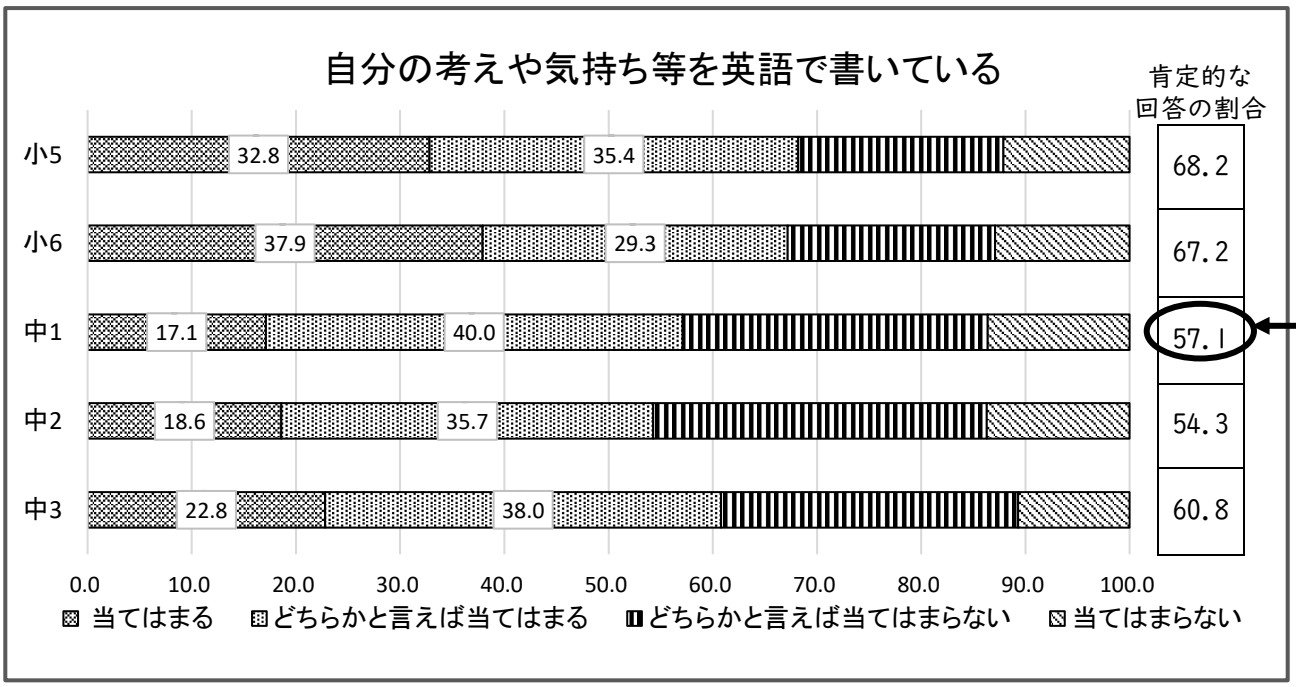
昨年度のグラフと比べて、ほとんどの学年で肯定的な意見の割合が低くなっている傾向がみられる。話せる表現が少ない小学校低学年では、「当てはまらない」の割合が2割を超えている。

一方で、学年が上がるにつれての変容を見ると、肯定的な意見の割合は現小学校3年生（小2:56.9→小3:69.6）と12.7ポイントも増加している。これは例年見られる傾向である。中学年になり外国語活動の時間が大幅に増加したことで使える英語表現が増えたと実感する児童が多いためと考えられる。

しかしながら、現小学校5年生が12.7ポイント（小4:79.9→小5:67.2）、現中学校1年生が13.9ポイント（小6:79.9→中1:67.2）減少している。単に時数を増やせば伝えたいことが表現できるようになるわけではなく、より積極的に自分の考えや思いを英語で話す機会を設定していく必要がある。

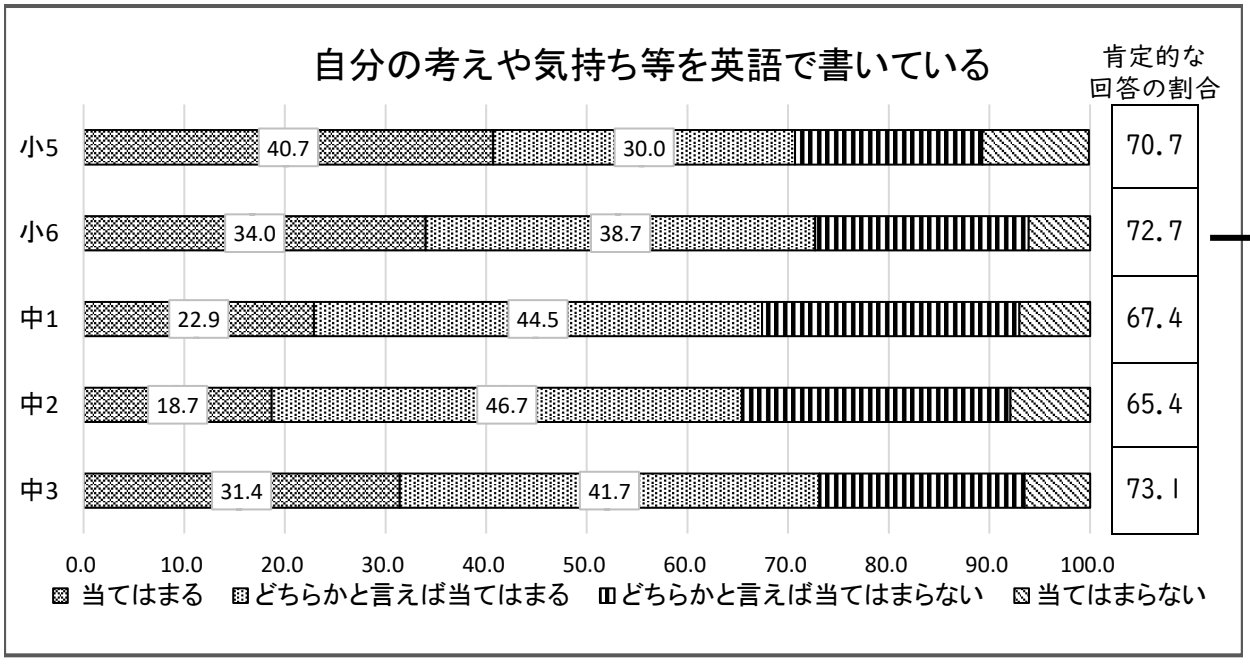


（15）書くこと「自分の考えや気持ち等を英語で書いている」

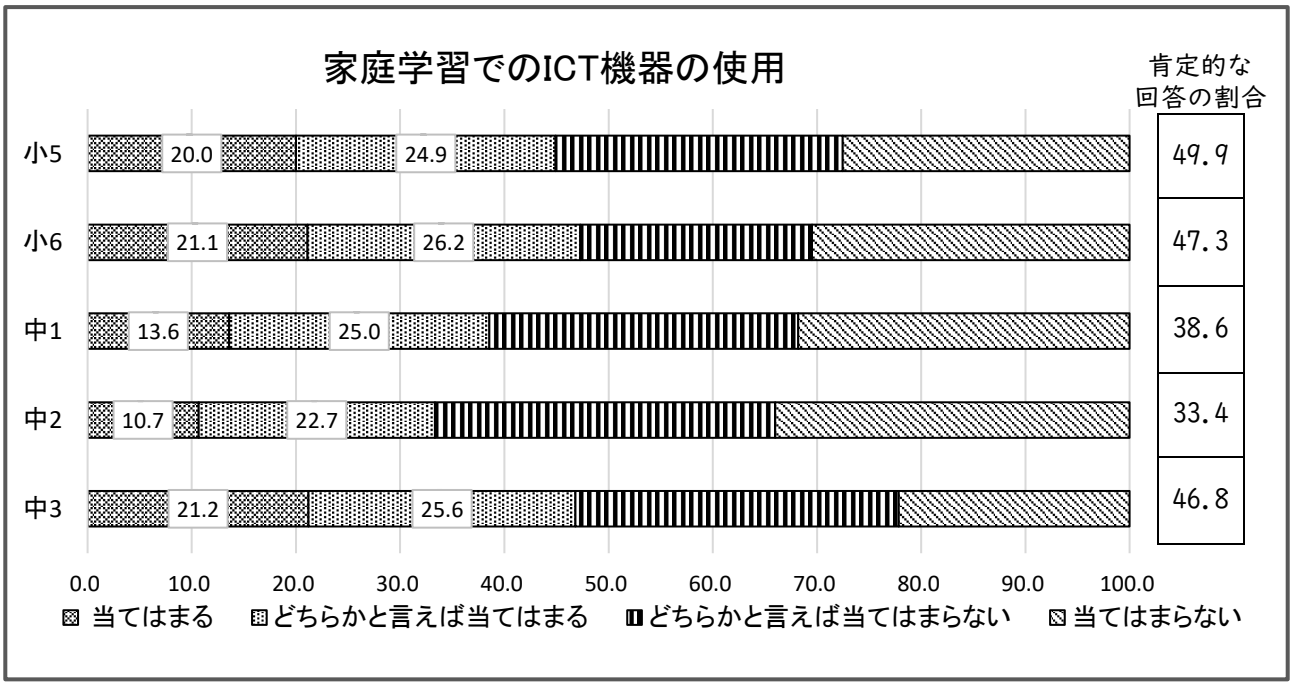


肯定的な意見の割合は 5～6 割台となっており、昨年度のグラフと比較するとどの学年も減少している。小学5年生から学習内容に「読むこと」「書くこと」の指導が入ってくるが、アンケートの①「英語の勉強は好きだ」の結果から考えられるように、5年生になると急に「英語が好きな児童」が少なくなる。中学校 1 年生でも同様な傾向が見られる。「読む」「書く」活動が急増することにより、「できる、できない」を意識する場面が増えることが要因の一つとなっているかもしれないということを考えると、小学校では、音声で十分に慣れ親しませた後に相手に伝えるなど、目的をもって書く活動に取り組むようにしていくことが大切である。中学校では、小学校とのスムーズな接続を図ることができるように、教員同士の情報交換を定期的に行い、互見授業を奨励するなど小中の連携を図っていきたい。

（参考）令和５年度の結果



（16）「家で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている」

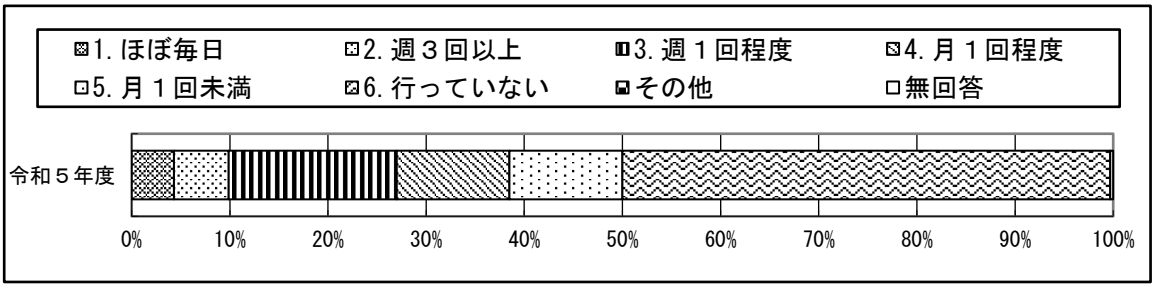


英語に関する家庭学習での ICT 機器の活用については課題があり、肯定的な回答はどの学年も半数に達していない。音声中心の指導である小学校では、外国語科の宿題をあまり出さないこと、中学校の家庭学習は書くことやワーク等によるドリル練習が多いことが理由として挙げられる。しかし、昨年度の全国学力・学習状況調査の結果と比較すると、英語の家庭学習での活用は進んでいると言える。

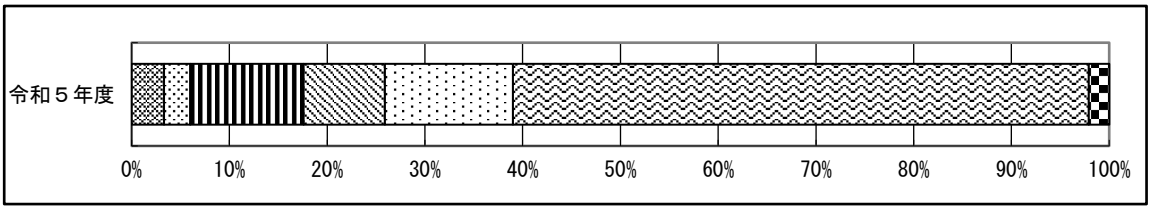
ICT 機器を活用することで、英語の学習の大きな特徴である「聞くこと、話すこと」の言語活動が容易にできることや、家庭学習で「聞くこと、話すこと」の言語活動を自分で行うことで、表現の定着が図られることを踏まえ、ICT 機器を活用した家庭学習の在り方・出し方を工夫していきたい。

（参考）全国学力・学習状況調査の黒部市の結果

〔小６〕



〔中 3〕



(3)学校質問紙

市内の小・中学校を対象に、アンケート調査を行った。

【実施時期】　令和6年11月1日～令和6年11月29日

【実施校数】　小学校9校、中学校2校 ※市内全小・中学校が回答

【質問項目】 (1)学習の工夫について※自由記述
(2)T・T についての成果と課題 ※自由記述
(3)英語の日常化に向けた環境整備についての成果と課題 ※自由記述
(4)「This is Kurobe」や「Picture card」の活用についての成果と課題 ※自由記述
(5)英語科と英会話科の連携について ※自由記述
(6)その他(日頃の授業で感じていること) ※自由記述

調査の結果、主な意見をまとめると次のようになった。

(1)　学習の工夫について

≪成果≫
・活動にゲームを交えながらも、学ぶべき英語表現を楽しく学ぶことができていた。
・JAT、ALT に助けてもらい、計画や掲示物など、しっかりとした準備で、効果的な学習を進めている。
・授業の流れが大きくパターン化されているため、児童は見通しをもって学習を進めている。
・始めの挨拶の部分に、スモールトークを取り入れ、分かる単語を頼りに内容を聞き取るよう声をかけている。
・児童の発話量を増やすため、振り返りカードを提出するときに ALT と1対1でその日に学習した表現を使ってやり取りをしている。
・1時間の見通しがもてるよう活動内容を黒板に書いている。
・ペアトークの活動を行っており、児童が英語表現に慣れ親しむ時間を増やしている。
・簡単な指示は英語を使うようにしている。
・自分の思いを伝える活動をすることで、伝えたいという意欲につながっている。
・活動を通して繰り返し大事なワードや Q&A の練習をしているので、身に付いている。
・生徒全員が英語名をもち、会話練習時にはお互いを英語名で呼び合うことで学習への意欲を高めた。

≪課題≫
・できるだけ、指示の部分を英語で伝えようにしているが、理解できない子供にとっては、苦手意識をさらに高めてしまっている。英語を習っている子供と、そうでない子の格差が広がっている。
・日本語の説明を減らすと、支援の必要な児童や英語が得意ではない児童が不安がる。
・英語を習っている子供とそうではない子供の差が大きく、両者が興味をもてる活動を考えるのに苦労している。
・ALT との会話をもっと増やしたい。（できるだけ生の英語で会話する経験をさせたい。）
・もっと繰り返して単語やフレーズを練習してもよいと感じる。
・高学年においては１人１台端末又は学習者用デジタル教科書を用いた指導の工夫（宿題で習ったワードを聞いてくるなど）
・間違うことを恐れ、本当に言いたいことを発信できない生徒が多くみられる。会話で沈黙の時間をつくらないようにするにはどうしたらよいかを考えさせながら、授業展開や発話の仕方を工夫したい。

２　Ｔ・Ｔについて
（ＡＬＴは他市町村に比べ多く配置、ＪＡＴやＪＥＴは本市独自の配置）

≪成果≫
・HRT、ALT、JAT が役割分担をしてスムーズに学習を進めている。
・打ち合わせの時間を週案に位置づけ、HLT、ALT、JAT が意見交換をしっかりと行っている。低学年でも担任の意見と ALT の意見を JAT がつないでくれて確認できている。
・HRT、ALT、JAT の 3 人で授業を行うことで、クラス全員に目を向けることができる。また、デモがしやすい。
・JAT のおかげで、３人で役割分担をしながら指導、手厚い支援を行うことができている。とても助かっているので、継続してほしい。
・ALT と JAT のデモンストレーション等、上手な発音を聞くことができ、学習に効果的である。
・英語で説明を聞くことで子供たちは推測して聞く力が身に付いてきている。
・JAT が子供の話したい言葉を分かりやすい英語に直してくれるので、助かっている。
・英語科の授業に ALT が参加し、会話から書く活動へつなげることができた。
・練習問題を解く活動では、ALT が生徒にとって興味関心の高いゲーム形式での内容を考えた。
≪課題≫
・可能な限り、専科教員の配置をお願いしたい。
・担任が主体的に計画、準備できていない。JAT、ALT に頼りすぎているところがある。
・打合せの時間の確保。放課後に HRT が手が空いた頃には、JAT は帰宅していない。
・書くことに抵抗を示す生徒や、書くことを苦手とする生徒がみられるので、楽しみながら文字としても英語を認識していける指導を模索していきたい。

３　英語の日常化に向けた環境整備について

≪成果≫

・朝の校内放送で英語での朝の挨拶を全校に流す場を設けている。
・ALT や市教セにそれぞれに国際理解に関する掲示物を作成してもらっている。児童は興味をもって見ていた。
・昼休憩時に ALT､JAT に希望参加のゲームなどでの交流の時間を設けた。参加した児童は楽しく交流していた。
・ALT を中心に、外国の文化に関する掲示物を制作してくれている。子供たちが掲示物にシールを貼って参加できるものもあり、毎回楽しみにしている子供が多い。
・給食の時間のイングリッシュタイムの際に、生の英語を聞くことができて大変ありがたい。
・廊下で ALT や JAT とすれ違う時、英語で挨拶をする児童が増えてきている。
・黒部市の紹介等を学校に掲示しているため、興味をもっている子供は見ている。
・１年生では朝の挨拶等を英語で行い、日常的に使えるようになった。
・ALT が授業以外の活動に積極的に参加してくれて、生徒と英語でやり取りをしている。

≪課題≫

・10 月から新任の ALT が赴任してきており、昼休憩時の交流はまだお願いしていない。しかし、休憩時に ALT と自然な交流ができるように働きかけている。
・子供たちがよく目にするような場所に、基本的な語句（季節や、月、数字等）などが書かれた掲示物を貼ってもよい。
・学年によって挨拶をする児童に偏りを感じるため、全学年で増やしたい。
・いろいろな子供に興味をもってもらえるように黒部市の紹介等を全体に伝える場があるとよい。

４　「This is Kurobe」や「Picture card」の活用について（小学校は活用した場面があれば記入）

≪成果≫

・６年のレッスン２「黒部の名所を紹介しよう」で活用した。
・５年生の３学期に、自分の町を紹介する単元があるので活用してみたい。
・授業では折に触れて「黒部の魅力」を話題として取り上げている。これまで作成された「This is Kurobe」から、場所や行事等を取り出し、生徒がペアで話す材料として扱っている。その結果、校区の観光スポットや地域行事について詳しく知るようになった。

≪課題≫

・6 年のレッスン２「黒部の名所を紹介しよう」の他ではほとんど活用できていない。
・This is Kurobe を有効に活用することができていないため、活用例を知りたい。

５　英語科と英会話科の連携について（中学校のみ）

≪成果≫

・英語科での既習単語や文型などの文法項目について、英会話科での会話活動の題材として取り上げたり、クイズ作成の際に盛り込んだりしながら学習内容の定着を図るようにしている。

≪課題≫

・英語科と英会話科では学習の到達目標に差があるため、それぞれの特色を活かした評価がなされるべきである。校内研修を進めながら、生徒がより高い英語力を身に付けられるような評価の工夫をしていかなければならない。

６　その他（日頃の授業で感じていること等）

≪成果≫

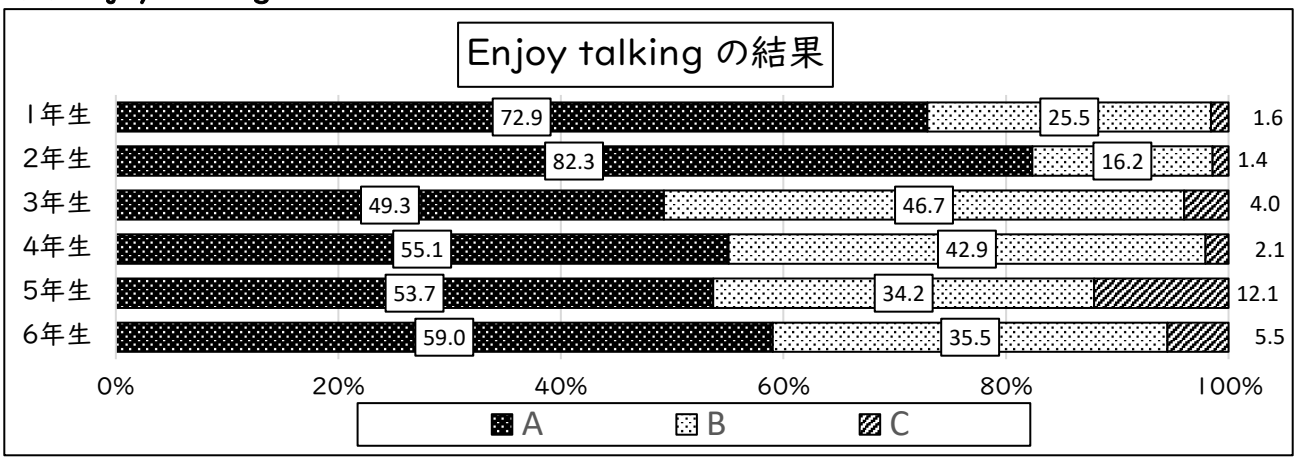
・ＡＬＴから生の英語を学ぶことができ、とても有意義であると感じている。ＡＬＴが不在の期間も、ＣＩＲを派遣していただき、とてもありがたかった。
・今年度、中教研の授業に小学校担当者が加わるなど、互いに異校種の授業を見ることができ、とても有意義だった。続けてほしい。
・低学年の英会話の評価が１回になり、以前に比べれば評価しやすくなった。
・児童が ALT とすれ違った際に「Hello!」など、自然と会話をする様子が見られ、外国語に慣れ親しむことができている。
・ICT を活用することで学習内容に興味を示したり、活動を楽しんだりしている。
・中学年以上では外国語専科と担任が連携を取りながら指導している。(授業前後の子供への対応等)

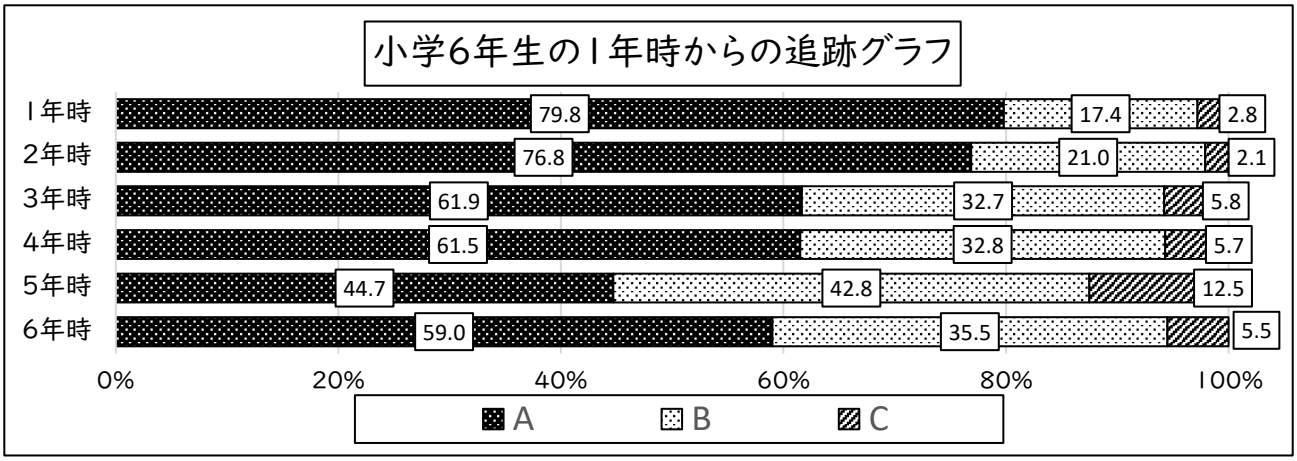
≪課題≫

・中学校の英会話科の授業を見る機会があるとよい。
・HRT が進んで英語を話すようにしていくこと。
・各校に外国語専科を配置してほしい。
・耳で単語を聞き取る力は身についてきているが、文字（綴り）を見て、既習の単語の意味とつなげることができない子供が多い。アルファベットを頼りに、読む力をどう楽しく付けていくかが課題である。
・空き教室があるので、外国語専用の教室を設けてもよいのでは。その都度電子黒板等の機材やカードをセットするのは大変である。

4 Enjoy talking の結果

(1) Enjoy talking の結果の集計結果





学年		A	B	C
1	内容	ごく簡単な質問に対して		
	程度	・1文や1,2語程度で	・1,2語程度で	・不適切な語を使ったり
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	適切な語句を使って答えることができない。
2	内容	ごく簡単な質問に対して		
	程度	・2往復程度で	・1文や1,2語程度で	・不適切な語を使ったり
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができない。
3	内容	気持ちや考え、絵カードの質問に対して		
	程度	・3往復以上で	・2往復程度で	・1文や1,2語程度以下で
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	限られた質問にしか答えることができない。
4	内容	自己紹介とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・3文以上で(自己紹介) ・3往復以上で(やり取り) ・適切な音量で	・2文程度で(自己紹介) ・2往復程度で(やり取り) ・適切な音量で	・1文以下で(自己紹介) ・1往復以下で(やり取り) ・1,2語程度以下で(やり取り)
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えるなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
5	内容	自己紹介とその内容に対する質問に応じて		
	程度	4文以上で(自己紹介) 4往復以上で(やり取り)	3文程度で(自己紹介) 3往復程度で(やり取り)	1,2文程度以下で(自己紹介) 1,2往復程度以下で(やり取り)
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
6	内容	自分の関心事や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	4文以上で(発表) 4往復以上で(やり取り)	3文程度で(発表) 3往復程度で(やり取り)	1,2文程度以下で(発表) 1,2往復程度以下で(やり取り)
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。

（2）Enjoy talking を実施してよかったと思われること（成果 主なもの）

・会話の内容を繰り返し練習してから、Enjoy talking に臨んだ。
・前時に質問と答え方を確認し、本時の最初も合わせて、何回も練習を重ねたことで、答えが分からないと不安になる様子なく、Enjoy talking に取り組むことができていた。
・授業中に学んだことが、しっかりと児童に定着していることがうかがえる。特に6学年は、昨年度（5学年時）と比べて評価Aの割合が増加しいている（48.0%→80.0%）。
・Enjoy Talking で自分の英語が伝わったことに自信をもてたのか、休み時間など ALT に自分から挨拶したり話かけたりする子が増えた。
・ALT との対話でうまく表現できなかった単語や文章について質問してくる子がいた。自分で課題を見つけ、次に生かそうとする姿勢の高まりが感じられた。
・ALT と I 対 I でコミュニケーションをとることで伝わる楽しさを感じることができた。
・外国語の学習に対して意欲的に取り組む児童が多く、ほとんどの児童が考え込むことなく答えていた。
・ Students could effectively answer and ask many questions in a natural conversational flow. I was especially happy to hear reaction phrases from students such as “Nice.” and “Me,too.” (生徒たちは自然な会話の流れで多くの質問に効果的に答えたり、質問したりすることができました。特に生徒たちから「いいね」などの反応が聞けてうれしかったです。)
・I think that the short script and list of questions were good for students. It made it easier to practice for English talking, and students were able to answer naturally and without hesitation. The students were well-prepared and were all able to finish within a timeframe.（短いスクリプトと質問リストは生徒にとって良かったと思います。英会話の練習がしやすくなり、生徒たちは迷うことなく自然に答えることができました。生徒たちはしっかりと準備を整え、全員が時間内に終えることができました。）
・5年生、6年生ともに、事前に準備することができたので、英語でのコミュニケーションに意欲的な児童は設定した数以上の文章で答えようとしていた。
・去年と比べると、児童は次々と英文を言っており、手助けをする場面が少なかったです。5、6年生とも、事前に用意できずにその場で考えて答える質問があったので、瞬間的な表現力も評価することができました。
・ほとんどの児童から会話を続けようとする態度が観られた。授業での言語活動を通して英語表現が定着していると感じた。
・子供たちが学習したことを使って会話をすることで、できたときの達成感を味わわせることができた。
・For the students who received help, most were able to say what they wanted after seeing the matching gesture for the shape they wanted. The students were able to gain more confidence in English with encouragement from the teachers. （支援を受けた児童のほとんどは、ほしい形に一致するジェスチャーを見て、自分の希望をいうことができました。児童たちは先生の励ましのおかげで英語にさらに自信を持つことができました。）

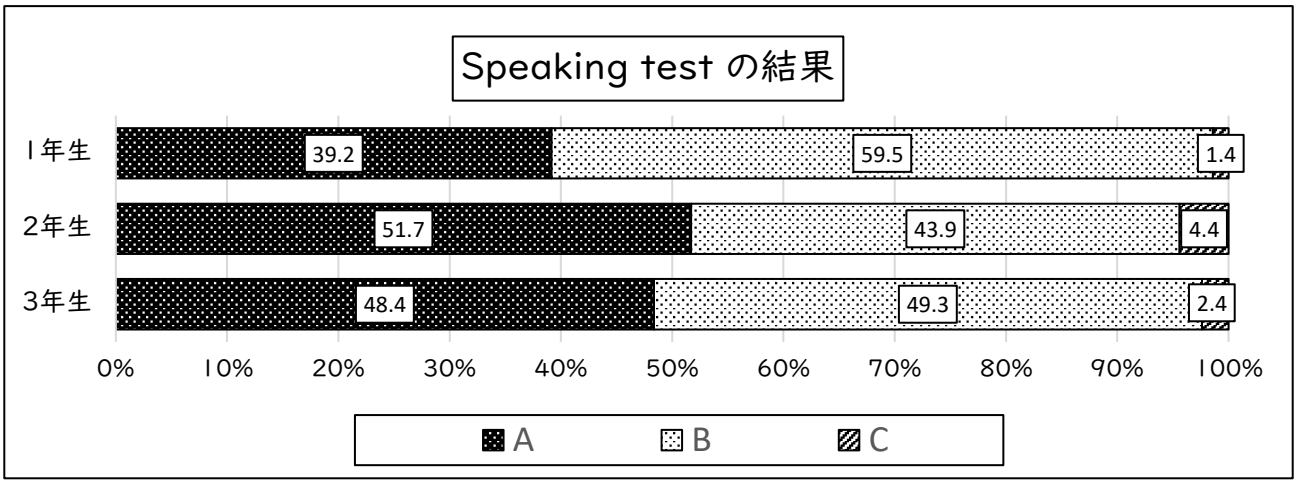
・ALT の目を見て話したり、ジェスチャーを交えて話したりする児童もいて、コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

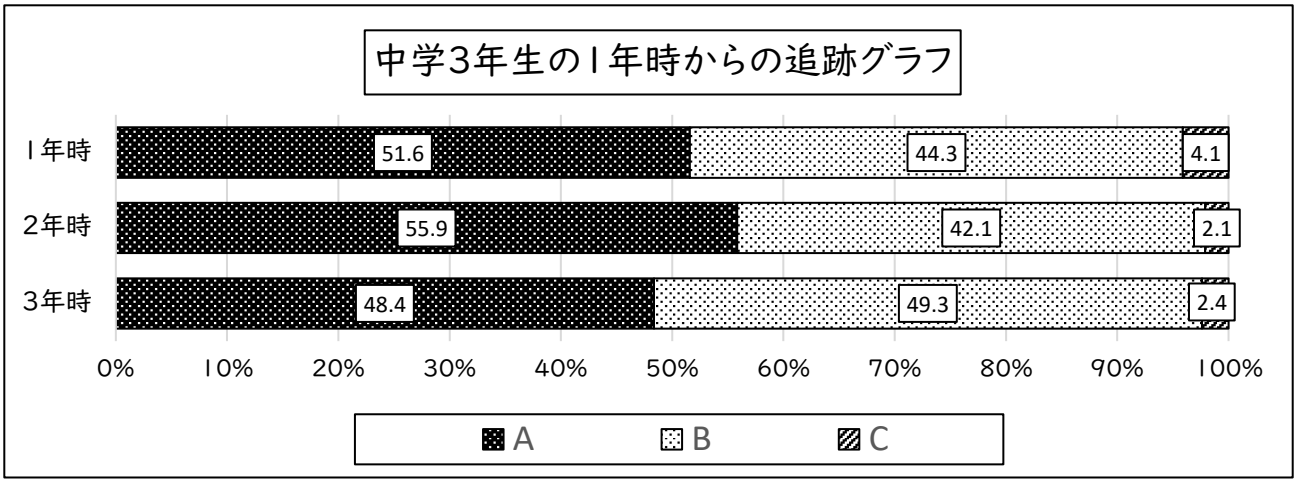
（3）今後、改善が必要だと思われること （課題 主なもの）

・「How are you?]に対する応答に苦戦する児童が多かった。何を聞かれているのか分からず、調子を答えないまま会話をする流れになっていた。ALT が例を出すと、答えられる児童もいた。
・やり取りをするときは、何らかのリアクションをするように日頃から指導しているが、Enjoy Talking で意識してリアクションできた児童は半数程度だった。
・実施前には、復習と練習をしたが準備不足であった児童と準備をしてきた児童の差が大きかった。学習した英語表現が定着するような簡単な言語活動を繰り返ししていく必要があると感じた。
・既習事項に疑問文が少ないため、Enjoy Talking に英問英答を取り入れることが難しい。普段から、Small Talk の活動を取り入れ、教科書以外の英問英答も行うなど、工夫が必要である。
・短時間に大人数と会話しなければならないので、長く会話を続けることができませんでした。
・繰り返しの練習を ALT 対児童全体だけでなく、ALT 対児童個人や児童対児童でおこなうなど練習方法を工夫することで、練習量が増え英語表現の定着にも繋がると感じた。A～C の評価の判断が難しい。
・時刻の答え方で、大きな数字 20～50 までの言い方が分からない児童が数名いた。時刻の答え方は、授業のあいさつの後に毎回たずねているが一部の答えられる児童に合わせて言っているだけなのかもしれない。
・約半数の児童が自分から ALT に挨拶しなかった。緊張もあったのだろうが、自分から積極的に話しかけるように指導していきたい。
・上手くできない子供には教師の支援が必要であったが、どの程度の支援をすればよいか、評価との関わりで判断が難しいと感じた。
・事前に暗記していればやり取りができる内容であったため、思い出しながら ALT に伝えている様子で、アイコンタクトを取れない児童が若干名いた。ジェスチャーやリアクションワード等が、自然に会話の中で出るように日ごろから指導していく必要がある。“One more time.”等の英語表現を日頃から練習する必要がある。
・暗記をすれば答えることができたためか、ALT の質問を聞く前に一方的に準備した答えを伝える児童がいた。やり取りというよりも発表のようになってしまったので会話であるということに気づかせる必要があった。

5 Speaking test の結果

(1) Speaking test の結果の集計結果





学年		A	B	C
1	内容	自分の関心事や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・５文以上で（発表） ・５往復以上で（やり取り）	・３、４文程度で（発表） ・３、４往復程度で（やり取り）	・２文以下で（自己紹介） ・２往復以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手に問い返すなどのやり取りができる。	適切な語句や文を用いて答えるなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
2	内容	日常的な話題や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・６文以上で（発表） ・６往復以上で（やり取り） ・適切な音量で※	・４、５文程度で（発表） ・４、５往復程度で（やり取り） ・適切な音量で※	・３文以下で（自己紹介） ・３往復以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちや考えを確かめるために質問をするなどのやり取りができる。	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手に問い返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。また、質問に答えても、相手に問い返すことができない。
3	内容	社会的な話題や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・６文以上で（発表） ・６往復以上で（やり取り） ・適切な音量で※	・５、６文程度で（発表） ・５、６往復程度で（やり取り） ・適切な音量で※	・３、４文程度で（発表） ・３、４往復程度で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちや考えを確かめるために質問をするなどを繰り返しながらやり取りを継続することができる。	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちを確かめるために質問をするなどしながらやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。また問い返すことができても、相手の気持ちを確かめるために質問をすることができない。

※グループにおけるやり取りの場合には、他のメンバーに聞こえる音量も基準とする。

(2) Speaking test を実施してよかったと思われること(成果 主なもの)

・自分が伝えたいことを、知っている英語や身振り手振りを使って工夫して伝えることができた生徒がいた。
・文法の誤用の傾向を把握することができた。(動詞を省いて話す、 favorite, can の誤用など。)
・ほとんどの生徒が授業内で練習した表現を使用し、素直に自分の思いや情報を伝えることができた。
・内容に合った自然な質問を自分からできた生徒もいた。
・授業で扱った身近な内容や、自己表現が必要な質問を盛り込むことで、会話にバリエーションが加えられた。
・誤った文法や語彙を使用する生徒も見られたが、自分で誤りに気がついて言い直したり、表現に困っても身振り手振りや知っている単語で話をつないだりして、伝えたいことを伝えようと挑戦することができた生徒が多くいた。
・1年生にとっては中学校で初めてのスピーキングテストであった。小学校でも普段の授業や Enjoy Talking を通して話す力を伸ばしてきているので、多くの生徒は緊張しつつも自分の言いたいことを伝えていた。
・事前に知らせたトピックの選択肢を1つではなく3つにしたことで、生徒が適度な緊張感をもって準備していた。
・3学年の生徒は1年時からJETが英会話授業を担当しており、コミュニケーション能力が向上していく様子を観察してきた。特に授業で大切にしている「完璧な文でなくてもいいから、まずは発信して、結果として通じればよい」という目標を基に指導してきた。また、他とのよりよいコミュニケーションはあいさつやお礼の言葉、アイ・コンタクト、大きな声でしっかり伝えること等でつくられると指導してきた結果、言いたいことをALTに理解してもらえる成功体験を多く積むことで、自信をもって会話活動に取り組む生徒が増えていると感じる。
・I was very impressed by the activity of students to explain many different complex topics about Japan using natural English. I was especially happy to hear students using more reaction phrases in our conversation.
(日本に関するさまざまな複雑なトピックを自然な英語を使って説明する生徒たちの活動にとても感銘を受けました。 特に、生徒たちが会話の中でより多くのリアクションワードを使っているのを聞いてうれしかったです。)
・Students demonstrated their ability to listen to and comprehend questions, and many were able to honestly express when they could not understand something. They could ask the teacher to repeat something they didn't understand.
(生徒たちは質問を聞いて理解しようとしていた。わからないことは素直に伝えることができる生徒が多かった。彼らは、わからないことを先生にもう一度話してもらうことができた。)

（3）今後、Speaking test を実施する際、改善が必要だと思われること（課題 主なもの）

・対話中に言葉に詰まった際、考え中であることを伝えられず、不自然に沈黙してしまう生徒がいた。また、相手の質問を理解することができず、適切な返答ができない場面も見られた。

・授業で聞く力と話す力を付けられるよう、ネイティヴスピーカーによる音声指導と、内容確認を伴った定着しやすい指導をしていく必要性を感じた。自然なコミュニケーションの取り方についても体得できる指導の工夫をしていきたい。

・生徒が簡単な英語を使って答えようとすることが多く、会話の情報量が少なくなりがちになった。生徒がいろいろな表現を積極的に使い、会話内容に広がりをもたせられるように指導したい。

・質問に答えることだけに集中している生徒が多かった。ALT からの質問に答えるだけではなく、生徒からも質問をしながら対話の内容を深められるような練習をしていきたい。

・They need some improvement on asking questions to their conversation partners. Few students asked a question without me prompting them “Do you have any questions for me?” It would be nice if they could ask questions connected to the natural conversation.

（相手に質問する際には、改善が必要だ。私が「何か質問はありますか？」と促さずに質問をする生徒はほとんどいなかった。自然な会話につながる質問ができればよい。）

・ 生徒が様々な話題に対し、自分の考えや意見をもてる機会を与える必要があると感じた。自分の意見を適切な英語表現で伝えることができるように指導をしていきたい。分かりやすいデモンストレーションを行ったり、既習の表現を使った例を提示したりして、自分の気持ちや考えを適切な言葉で表現することができるような手立てを考えたい。さらに、会話の中でより内容を深められる質問の仕方を提示し、練習の機会を増やしていきたい。

・普段の授業は「コミュニケーション・マインドの育成」を柱に取り組んでいる。生徒は学習者なので間違えるのは当然であり、恥ずかしいことではないという雰囲気を常につくりたいと考え、活動を工夫している。しかし、特にテストでは間違いを恐れるあまり、正しい表現を知っていても小声であったり、あるいは全く何も言えなかったりする生徒がいる。今後はできるだけ多くの成功体験をもたせ、自信につながるような活動や言葉かけを工夫していきたい。

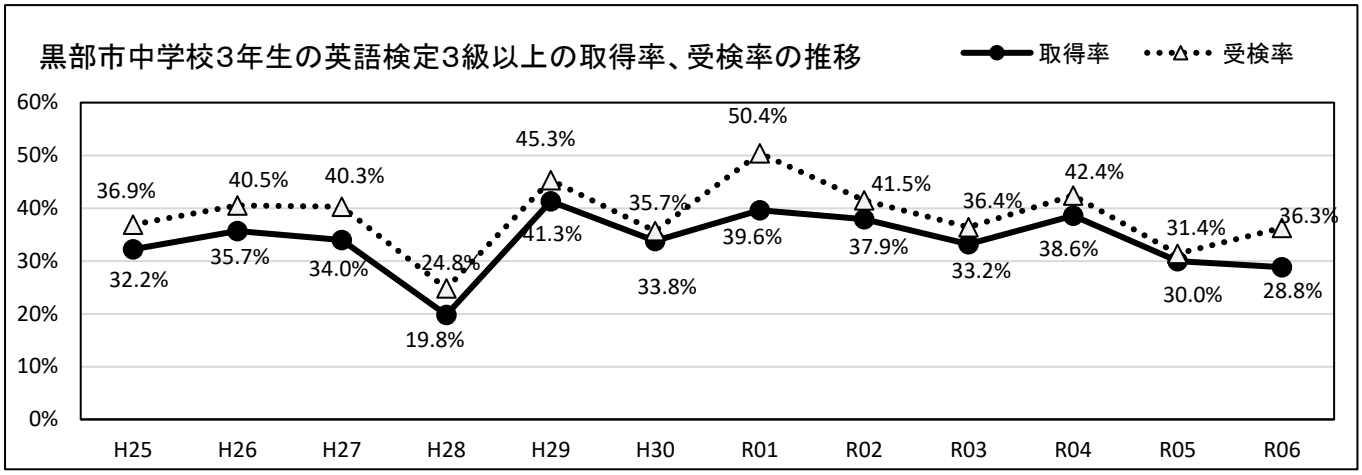
・疑問詞を理解していないためにALTの質問を理解できなくて答えられない生徒がいる。今後は疑問詞の用法を押さえながら、質問を正しく捉えられるように指導していきたい。

・It is their first speaking test, so many students were taken off guard when expected to engage in a conversation naturally. Many could not respond and remained silent even when asked simple questions like "What subject do you like?" which is taught in elementary school. Some students seem to have forgotten how to use English from elementary school.

（初めてのスピーキングテストなので、自然に会話をすることが期待されたが、緊張する生徒が多かった。「好きな科目はなんですか？」などの簡単な質問をされても、答えられずに沈黙してしまう人が多かった。小学校で習った英語の言い方を忘れてしまっている生徒もいるようだ。）

６　英語検定３級以上の取得率、受検率等

１ 黒部市中学校3年生の英語検定3級以上の取得率、受検率の推移

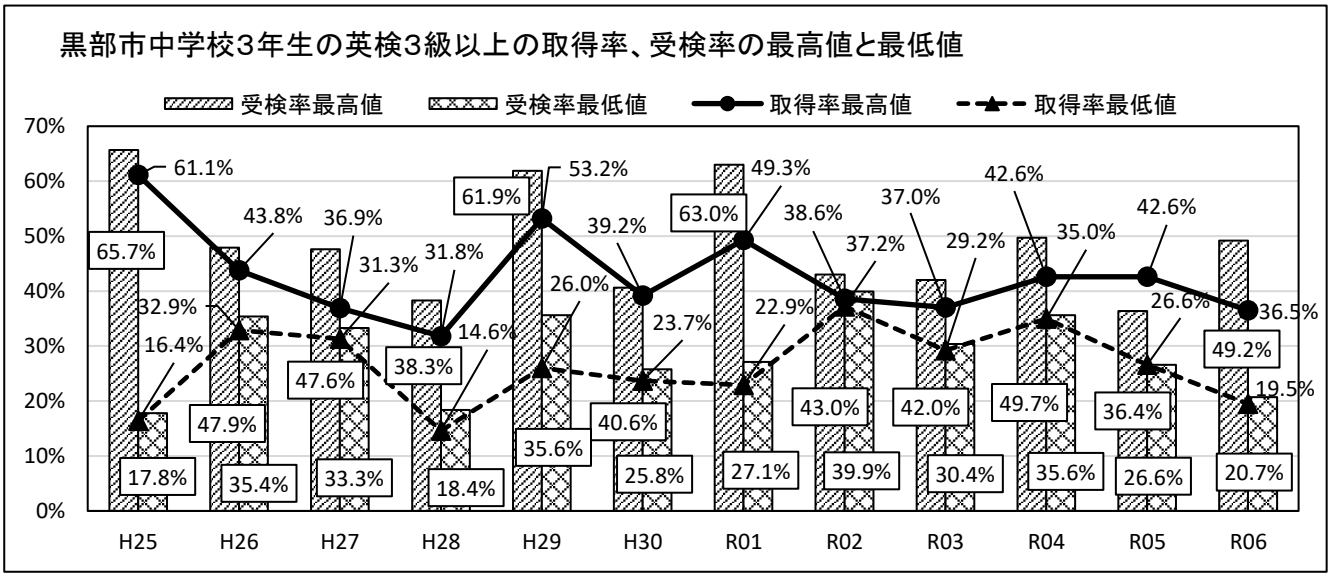


令和６年度の受検率は 36.3%であり、昨年度と比べ 4.9 ポイント高くなった。取得率は 28.8%であり昨年度と比べ 1.2 ポイント低くなった。受験率は昨年度より高くなったが、取得率は過去２番目の低さだった。合格率(取得率/受検率)は昨年度 95.6%、今年度 79.4%で 16.2 ポイント低くなった。

取得率においては、第２次黒部市総合振興計画前期基本計画の中間目標（２０２２年）として設定した取得率 45.0%を約 16.2 ポイント下回っている。黒部市総合振興計画後期の 2027 年目標値は 50%となっている。取得率 50%の達成には、受検率の更なる向上と合格率を上げることが必要である。しかしながら、児童生徒と保護者を対象に取った英会話科等の学習に関するアンケートの中の「英語の学習で身に付けたい力(P20)」の質問で「英検やTOEICに対応できる力」と答えた中学生の割合は23.3%、中学生保護者の割合は26.2%にとどまっており、関心の低さがうかがえる。

２ 市内中学校における取得率、受検率の学校間の差

（令和元年度までは４中学校、令和２年度以降は２中学校）



学校間の受検率、取得率の差が開いた。生徒への広報的な活動と個人受検者の把握を行っていく必要がある。

Ⅱ　令和6年度 英語サマーキャンプ　事業報告

1　期　日　　8/21（水）～8/23（金）　2泊3日

2　場　所　　黒部市ふれあい交流館「あこや～の」

3　参加者　　49名　　※別紙参加者名簿参照
小学5年生 25名（男子6名、女子19名）、小学6年生 16名（男子7名、女子9名）
中学1年生 8名（女子8名）

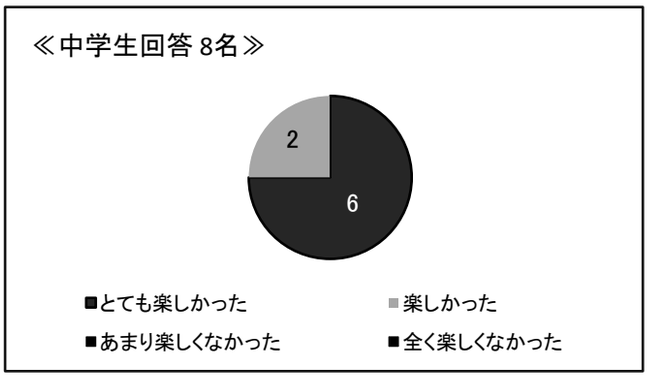
4　指導者　　ALT（7名）、英会話講師（5名）、富山大学ボランティア（2名）
学校教育課・教育センター職員、養護教諭

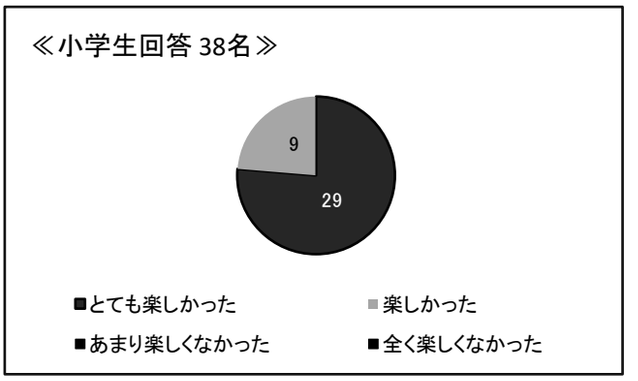
5　日　程

日	時刻	活動内容	活動の様子
21日（水）	～10:50	受付	＜アイスブレイキング＞ ＜ティームタイム＞
	11:00～11:50	開校式、ｱｲｽﾌﾞﾚｲｷﾝｸﾞ	  
	12:00～12:45	昼食	
	13:00～13:20	ALTの劇	
	13:20～14:20	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ①	
	14:30～14:50	館内利用説明	＜スポーツタイム＞ ＜キャンプファイヤー＞
	15:00～16:00	ｽﾎﾟｰﾂﾀｲﾑ①	  
	16:30～17:30	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ②	
	17:40～18:30	夕食	
	18:45～20:15	ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲﾔｰ	
	～21:30	入浴、就寝	
22日（木）	6:30	起床	＜英語ワークショップ＞ ＜ティームタイム＞
	7:20～ 8:20	朝食	  
	8:30～ 10:10	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ③	
	10:30～11:30	英語ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ①	
	11:30～12:30	昼食	＜バーベキュー＞
	12:45～13:45	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ④	  
	14:00～15:00	英語ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ②	
	15:15～16:15	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ⑤	
	16:45～20:00	ﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰ	
	～21:30	入浴、就寝	
23日（金）	6:30	起床	＜ZOOMﾐｰﾃｨﾝｸﾞ＞ ＜英語劇の発表＞
	6:30～ 8:30	朝食、清掃	  
	8:30～10:00	ZOOMﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	
	10:15～12:30	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ⑥	
	12:30～13:15	昼食	
	13:30～15:00	劇発表、閉校式	

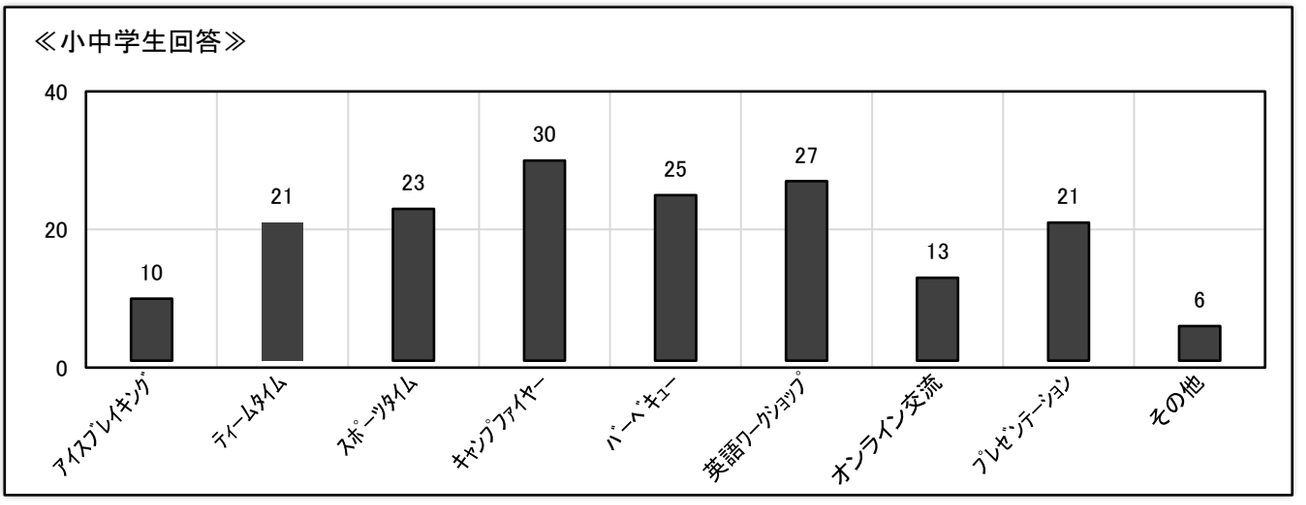
6　参加者アンケートの結果（中学生8名小学生38名、回答）

（1）英語サマーキャンプは楽しかったですか

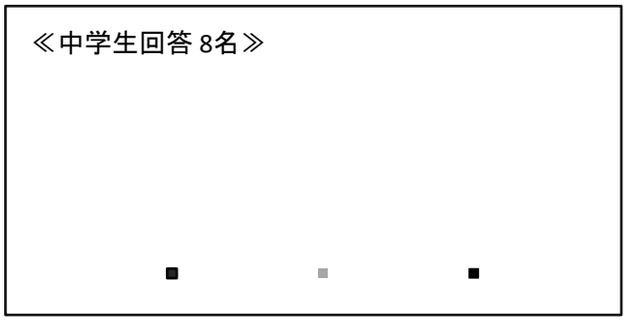


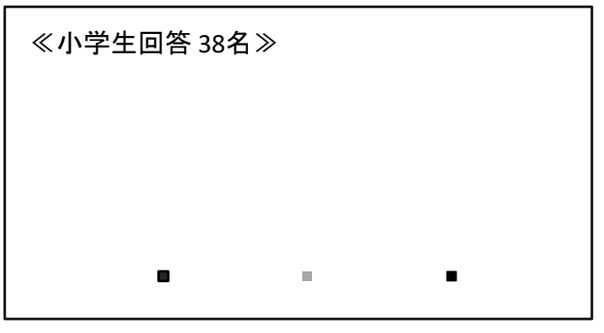


（2）楽しかった・やりがいのあった活動



（3）自分から進んで英語を使うことがありましたか





（4）自由記述

【中学生】　・学校で学べないことも学べて楽しかったです。今後生かしていこうと思います。
　　・もっと積極的に英語を使えるといいと思いました。
【小学生】　・自分から進んで英語を使うことが多くなり成長したなと思いました。
　　・「友達を作る大切さ」や「英語を話す楽しさや面白さ」が分かって良かったです。

≪令和7年度 英語サマーキャンプ（案）≫

・開催日程　　8/20(水)～8/22(金)
・開催場所　　ふれあい交流館あこや～の

Ⅲ　令和6年度 姉妹都市交流研修事業（メーコン・ビブ郡派遣） 事業報告

1 期　　日　　11/1（金） ～ 11/8（金） 7泊8日

2 参 加 者　　研修生　20名（3年生10名、2年生10名）
引率者　4名（黒部国際化推進協議会長1名、教育センター職員1名、学校教育課職員2名）

3 研修会等　　説明会（7/12）、事前研修会5回（7/29～10/22）、激励会(10/28)、報告会（12/2）

4 日 程 等

日付	時間帯	活動内容
11/1（金）	～12:50	集合（黒部宇奈月温泉駅）
	13:00～13:10	出発式
	13:34～	黒部宇奈月温泉駅 発
	～16:33	羽田空港 着
	20:00～	羽田空港 発
	～19:30	アトランタ空港 着
	20:30～21:30	アトランタ⇒メーコン・ビブ
	21:30～22:00	市役所
	22:00～	各家庭へ
	＜ホームステイ①（1泊目）＞	
11/2（土）	～11:00	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと過ごす
	10:00～12:00	ﾍｲﾊｳｽ(美術館)ﾂｱｰ、歓迎ﾚｾﾌﾟｼ
	12:00～	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと過ごす
	＜ホームステイ②（2泊目）＞	
11/3（日）	～17:00	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと過ごす
	17:00～19:00	日本・黒部紹介及び夕食会
	＜ホームステイ③（3泊目）＞	
11/4（月）	1日	学校訪問
	＜ホームステイ④（4泊目）＞	
11/5（火）	8:00～	学校訪問
	10:00～11:30	YKKツアー
	12:00～	メーコン・ビブ郡市長表敬訪問、昼食
	13:15～	学校訪問
	＜ホームステイ⑤（5泊目）＞	
11/6（水）	8:00～	学校訪問
	11:30～12:30	メーコン・ビブ⇒アトランタ
	13:00～	アトランタ市内研修
	17:15～	夕食
	＜アトランタ市内ホテル泊（6泊目）＞	
11/7（木）	6:00～ 6:30	ホテル⇒アトランタ空港
	9:23～	アトランタ空港 発
	＜機中泊（7泊目）＞	
11/8（金）	～13:30	羽田空港 着
	15:35～	羽田空港 発
	～18:59	黒部宇奈月温泉駅 着
	～19:15	解散

活動の様子


市役所にてﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと対面


ﾍｲﾊｳｽｳｽﾂｱｰ、歓迎ﾚｾﾌﾟｼｮﾝ


黒部・日本文化紹介




交流風景






学校訪問




YKK見学


市長表敬訪問


アトランタ市内研修


夕食会の様子





5　参加者の感想（抜粋）

＜3年生＞

・日本のことを知ってもらえたこと、自分から話すことで会話することが楽しくなった。
・積極的にコミュニケーションを取り、語学力と度胸が身に付いた。
・英語が通じず苦労することもあったが、英語を使っていろんな人と繋がる楽しさを実感した。
・もっと英語力を向上させ、スムーズに会話ができるよう、これまで以上に一生懸命勉強したい。
・生活や文化の違いを見て、触れて、国によって価値観が異なっていることが分かった。昨年黒部に来た生徒に再会できた。
・今回たくさんのことに挑戦したように、日本でもいろんなことに挑戦し、自分の視野を広げていきたい。
・自分にとってはすべてが初めての一週間だった。普段体験できないことを体験し、たくさん学ぶことができた。
・伝えたいという姿勢が大切。会話をするうえで大切なことを学んだ。
・日が経つにつれて自分から話しかけるようになり、人との接し方が大きく変わった。
・この経験を周りの人共有したり、これからの人生に生かしたりしていきたい。

＜2年生＞

・ホストファミリーの優しさに助けられ、笑いながら楽しくコミュニケーションがとれるようになった。
・自分から行動する勇気が大事だと思った。
・様々な人種が共存するアメリカで、多様性を尊重することの大切さを体感した。
・少しずつ自分からコミュニケーションをとれるようになり、自分の言葉で伝え、理解してもらえたときはうれしかった。
・日本との違いを実際に体験できた。慣れないことばかりで大変だったが行ってよかった。
・伝えようとする思いがあれば相手も耳を傾けてくれた。それで伝わると達成感が生まれました。
・初めは不安だったが、知っている単語をつないで会話し、最終日にはほぼ翻訳機を使わずに英語を聞き取ることができた。
・世界には多様な考え方、人、生き方があり、今の環境だけに囚われなくて良いのではないかと感じた。
・この経験を活かしてコミュニケーションの取り方や気持ち・疑問を伝える力を伸ばし、自分の可能性を広げたい。
・自分の英語が伝わって会話が成り立つのがうれしかった。学校でみんなと話していること自体が新鮮で面白かった。

令和7年度 姉妹都市交流研修事業（メーコン・ビブ郡受入）

年度	区分	都　市	時　期	対象人数
H19	派遣	スネーク	9/30～10/8	生徒8人、引率2人
H20	派遣	メーコン	10/26～11/3	生徒8人、引率2人
	受入	スネーク	9/22～9/30	生徒8人、引率4人
H21	派遣	スネーク	9/13～9/21	生徒8人、引率2人
	受入	メーコン	11/22～11/29	生徒5人、引率2人
H22	派遣	メーコン	10/31～11/8	生徒8人、引率2人
	受入	スネーク	9/26～10/2	生徒8人、引率3人 市長夫妻他6名と
H24	派遣	メーコン	10/28～11/5	生徒8人、引率2人
H25	受入	メーコン	2/14～2/22	生徒7人、引率3人
H26	派遣	メーコン・ビブ	11/2～11/9	生徒8人、引率2人
H27	受入	メーコン・ビブ	10/2～10/9	生徒9人、引率3人
H28	派遣	メーコン・ビブ	11/7～11/14	生徒16人、引率3人
H29	受入	メーコン・ビブ	10/6～10/14	生徒15人、引率3人
H30	派遣	メーコン・ビブ	11/4～11/11	生徒16人、引率3人
R元	受入	メーコン・ビブ	10/4～10/15 台風のため帰国日変更 （10/12）	生徒16人、引率3人
R4	派遣	メーコン・ビブ	11/4～11/11	生徒16人、引率3人
R5	受入	メーコン・ビブ	10/15～10/22 （予定） 7泊8日	生徒16人、引率4人
R6	派遣	メーコン・ビブ	11/1～11/8	生徒20人、引率4人
R7	受入	メーコン・ビブ	10月 （予定） 7泊8日	生徒20人、引率4人

※4～5泊程度、主に今年度研修生宅でホームステイしてもらう方向で調整予定

Ⅳ　付録　　英会話科等 19 年間のあゆみ（主な取組）

１　平成 18 年度（黒部国際化教育特区として、平成 18～20 年度）

（１）英会話科の推進に関すること

①　市教委、市教セ、学校の役割分担

ア　市教委の役割＝ハード面の整備

・研修会・情報交換会の計画・実施（予算、場所等の確保）、ＡＬＴ、ＪＡＴの給与、服務関係等

イ　センターの役割＝ソフト面の整備

・学校訪問（授業参観、助言等）、研修会・情報交換会における助言、新たな教材開発等

ウ　学校・指導者の役割＝指導面の推進

・有効な打ち合わせ方法の開発、授業実践・振り返り・改善（年間計画へのメモ）、保護者への情報提供

②　英会話科授業時数

ア　小学校

・１、２年・・・標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間 10 時間）

・３～６年・・・「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

イ　中学校

・１～３年・・・「総合的な学習の時間」＋「選択」の一部を割当て（年間 35 時間）

③　英会話科指導案集の作成（カリキュラム評価部会）

・黒部市小学校中学校教科「英会話指導計画」の見直し、作成

④　教材・教具の購入

・ランダム機能付きＣＤプレーヤー、ポータブルＤＶＤプレーヤー、ビッグブック、スターターズパック（英語活動指導用教材）

⑤　ＤＶＤ作成、学校への配布

・ねらい　子供たちが日常生活でよく使用される英語表現に慣れる機会を提供する。

・内容　　あいさつ／レッツゴーたんけん／道案内をしよう／約束する／部活動／
レストランへ行こう／買い物をしよう／旅行に行こう／
黒部の名所・施設を紹介しよう

⑥　授業公開

・各校の実情に合わせて実施。

⑦　国際化教育特区報告会とディスカッション（２月）

・参加者　　市内小中学校全職員

・内容　　英会話科アンケート調査の結果報告、英会話委員会からの報告、
パネルディスカッション
指導助言者　文京学院大学教授　渡邉寛治先生

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話指導研修会（６月に２回実施）

・ねらい　　英会話科の指導の実際を振り返り、指導の改善を図る。

・参加者　　ＨＲＴ、ＪＡＴ

・内　容　　英会話科授業のビデオ視聴、グループ討議。三者による授業の進め方、効果的な役割分担、興味関心を高める指導方法

② 英会話実技研修会（市小教研協業）（８月）
・参加者　　市内小中学校教員希望者
・内　容　　リスニング、スピーキングの具体的なアクティビティー
・講　師　　富山国際大学助教授　福島美枝子先生
③ 英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　互見授業や授業実践に基づく情報交換、ＤＶＤやカリキュラム作成の補助
④ 黒部市小学校教育研究会による学年別研修会
・参加者　　市内小学校全教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ
・内　容　　模擬授業を通した実践的指導力の向上
⑤ 英会話科実態調査
・ねらい　　アンケートを通して、子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。
・対　象　　小学校６年生、中学校３年生、小学校担任教諭

２　平成 19 年度

（１）英会話科の推進に関すること
① カリキュラムの見直し
・視　点　　トピック精選､児童の実態に合わせた言語活動の展開､英語と日本語で整理
・進め方　　第１回～第７回の 20 年度版カリキュラムを作成、ＨＲＴによる勉強会
② 国際化教育特区成果検証事業（２月）
・趣　旨　　英会話科で慣れ親しんだ英語表現を用いて、１対１による面接を実施し、児童の英会話力を検証し、今後の英会話科の指導に生かす。
・対　象　　田家小学校６年児童
③ ＤＶＤの作成
・ねらい　　日常生活でよく使用される英語表現に対し、子供たちが慣れる機会を提供し、話すこと、聞くことの指導の充実に生かす。
・内　容　　何て言うのかな？／体の調子は？／お天気は？／教室英語／
あいさつ状をつくろう／私・あなた・彼・彼女／様子を表す言葉／
言えるかな？／どこにあるかな？／ジャックはどこだ？

（２）教員の研修や調査に関すること
① 英会話指導研修会（７月、８月）
・形　態　　各校へ出向いて行う研修
・内　容　　基本的な発音練習、クラスルームイングリッシュの練習、子供の興味・関心、意欲を高める実技指導等。
② 英会話実技研修会（市小教研協業）（７月）
・内　容　　講演「どうする、どうなる、小学校英語」とワークショップ
・講　師　　京都市総合教育センター　直山木綿子　先生
③ 英会話科担当者定例会（計 13 回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　作業部会、ＤＶＤ作成、サマーキャンプ打ち合わせ、「英会話指導のポイント」作成、授業研究

④　文部科学省委託富山県小学校英語活動推進事業拠点校（田家小学校）との協業研修
（６月、２月）

・参加者　　市内小学校全職員
・内　容　　英会話科における教材やアクティビティーの開発、ＡＬＴ、ＪＡＴや地域人材の活用
・講　師　　東京国際大学教授　新里眞男先生

⑤　黒部市小学校教育研究会による学年別研修会（７月）

・参加者　　市内小学校全教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ
・内　容　　模擬授業を通した実践的指導力の向上

⑥　英会話科実態調査

・目　的　　アンケートを通して、子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。また、前年度と比較しながら英会話科の成果と課題を探る。
・対　象　　小学校６年生、中学校３年生、小学校担任教諭

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　オランダ・スネーク市訪問（中学生姉妹都市研修）（新規、Ｈ２１にも実施）

・目　的　　姉妹都市のオランダ・スネーク市を訪問し、ホームステイや学校訪問を体験し、現地中学生との交流を図る。
・期　間　　９月 30 日から 10 月８日（ホームステイ４泊）
・事前研修　５回（活動内容説明、英会話レッスン、交流活動練習、他）

②　英語サマーキャンプ（新規、以降、毎年継続）

・目　的　　市内小学生がＡＬＴ等と生活をともにし、友情を深めるとともに、様々な活動を通して、楽しみながら英語に親しむ。
・期　間　　７月 31 日～８月２日（２泊３日）
・場　所　　あこや～の

③　児童センター英語活動（新規、以降、毎年継続）

・目　的　　小学生がＡＬＴ、英会話講師と一緒に遊び、英語や外国の文化に触れる。
・期　間　　夏休み中の平日、午前 10 時～12 時
・場　所　　中央児童センター、東部児童センター

３　平成 20 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　黒部国際化教育推進協議会の開催（新規）

・趣　旨　　国際感覚と実践的なコミュニケーション能力を有し、社会に貢献できる人材を育成すること。

②　黒部国際化教育研究発表会

・趣　旨　　黒部国際化教育３年間の取組を振り返り、今後の事業展開の在り方について検討すると共に、小中一貫の英会話科など黒部の取組を市内外にＰＲし、ノウハウを提供するとともに多方面からアドバイスをもらいながら今後の発展に生かす。
・対　象　　黒部市小中学校全教員、市内外参観者
・期　日　　11 月 14 日
・会　場　　三日市小学校

・内　容　　公開授業、部会協議会、公開活動、全体会（研究経過、実践報告、講演）
演題　「これからの黒部の英語教育　－新学習指導要領のもとで－」
講師　東京国際大学教授　新里眞男先生

③　カリキュラムの見直し

・視　点　　中学校のトピックの精選、活動内容と評価の整合性、評価規準の検討、英語と日本語で整理

・進め方　　英会話科定例会において検討した 21 年度版カリキュラム（定例会案）を５回のカリキュラム評価部会において、検討、見直しをする。第４回カリキュラム評価部会で新里眞男教授から指導助言を受ける。

④　国際化教育特区成果検証事業（12 月）

・趣　旨　　英会話科で慣れ親しんだ英語表現を用いて、１対１による面接を実施し、児童の英会話力を検証し、今後の英会話科の指導に生かす。

・対　象　　田家小学校６年児童

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（８月）

・内　容　　「聞いて分かる」小学校英語活動（模擬授業、ワークショップ）

・講　師　　新潟市立新潟小学校教諭　渋谷　徹先生

②　黒部市小学校教育研究会による学年別研修会（７月）

・参加者　　市内小学校全教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ

・内　容　　年間指導計画改善のポイントの共通理解、実技研修

③　文部科学省委託富山県小学校英語活動推進事業拠点校（田家小学校）との協業研修（10 月）

・内　容　　公開授業（効果的なティームティーチングの在り方、ＤＶＤやカード等の視聴覚教材や英語ノート等を活用した指導法の改善、小中の連携）

・講　師　　富山大学　岡崎浩幸　准教授

④　英会話科担当者定例会（計８回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　ＤＶＤの使用法､カリキュラム検討､サマーキャンプ打合せ｢英会話指導｣

⑤　ＤＶＤ指導法研修会

・目　的　　平成 19 年度作成のＤＶＤの活用に関する研修

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師、ＨＲＴ各校１名

⑥　英会話科実態調査

・目　的　　アンケートを通して、子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。また、前年度と比較しながら英会話科の成果と課題を探る。前年度６年生の追跡調査を行い、今後の英会話科の指導に生かす。

・対　象　　小学校６年生、中学校１年生、中学校３年生、小学校担任教諭

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　オランダ・スネーク市の中学生受け入れ（新規、Ｈ２２にも実施）

・目　的　　姉妹都市のオランダ・スネーク市の中学生８人を受け入れ、ホームステイや学校訪問を通して、本市中学生との交流を深める。

・期　間　　９月 24 日から９月 30 日（ホームステイ４泊）

②　アメリカ・メーコン市訪問（新規、以降、隔年で実施）

・目　的　　本市の中学生８名が姉妹都市のメーコン市を訪問し、ホームステイや現地生徒との交流を通して、外国文化に触、実践的な英語コミュニケーション能力の習得と国際理解に資する。・期間　10 月 26 日から 11 月３日（ホームステイ５泊）

・事前研修　６回（活動内容説明、英会話レッスン、交流活動練習、他）

４　平成 21 年度（教育課程特例校として、平成 21～26 年度）

（１）英会話科の推進に関すること

①　教育課程特例校に認定（英会話科の授業時数は以下の通り）

ア　小学校

・１、２年　標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間 10 時間）

・３～６年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

イ　中学校

・１年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

・２、３年　「選択教科」の一部を割当て（年間 35 時間）

②　黒部国際化教育推進協議会（７、11、３月）

・参加者　　教育長、小中校長会長、小中教研会長、帰国児童生徒教育研究会長、県小教研外国語活動部会長、学識経験者、保護者代表、国際企業、市教委、市教セ

・内　容　　協議会組織、英会話科指導体制、国際交流事業、黒部国際化教育の予算、ＡＬＴ等の配置・勤務、規定一部改正、客観テストの利用

・その他　　専門委員会として、英会話委員会（カリキュラム評価部会、研修部会）、日本語委員会、地域委員会、予算・人員配置委員会、事業評価委員会を置く。

③　国際化教育の成果の検証事業（２月）

・趣　旨　　英会話科で慣れ親しんだ英語表現を用いて１対１による面接を実施し、児童の英会話力を検証し、今後の英会話科の指導に生かす。

・対　象　　田家小学校６年生

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（８月）

・参加者　　推進校教員及び市内小中学校教員希望者

・内　容　　実技研修「知的好奇心発　聞く力経由　コミュニケーション能力行きの提案」

・講　師　　新潟市立白根小学校教諭　佐藤貴子先生

②　外国語活動研修会（センター協との協業）（７月）

・参加者　　魚津地区小中学校教員希望者

・講　演　　「外国語活動を考える」

・講　師　　関西大学外国語学部教授　田尻悟郎先生

③　中学校英会話科スキルアップ講習会（12 月）

・内　容　　授業に取り入れたい学習活動、ＤＶＤによる授業研究

④　英会話科担当者定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　授業実践に基づく情報交換、研究授業、サマーキャンプへの協力

⑤　英会話科カリキュラム評価研修会（11 月）

・参加者　　市内各校英会話科担当教員

・内　容　　英会話科カリキュラム、評価規準の見直し、他

⑥　英会話科実態調査（11～12 月）

・趣　旨　　子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。

・対　象　　小学校６年生、中学校３年生、小学校担任及び英会話科担当者

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　アメリカ・メーコン市の生徒受け入れ（新規、以降、隔年で実施）

・目　的　　姉妹都市のアメリカ・メーコン市の生徒５人を受け入れ、ホームステイや学校訪問を通して、本市中学生との交流を深める。

・期　間　　11 月 22 日から 11 月 29 日（ホームステイ５泊）

５　平成 22 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　黒部国際化教育推進協議会（３月）

・内　容　　平成 22 年度事業の報告、ＡＬＴ等の配置、平成 23 年度予算

②　英会話科授業時数

・小中学校ともに、平成 21 年度に同じ。

③　英会話科実態調査（11～12 月）

ア　中学校１年対象　（７月）
　小学校英会話科が中学校英語へ与える影響と効果についての調査（アンケート）

イ　小学校６年、中学校３年、小学校学級担任
　英会話科実態調査（アンケート）

ウ　小学校６年（抽出校）
　児童の英会話力の検証と授業改善を目的とした調査（面接）

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（７～８月に４回開催）

・参加者　　市内小学校教員希望者

・目　標　　小学校教員の英語運用能力を高める

・講　師　　ＡＬＴ、教育センター研究主事

②　外国語活動研修会（センター協との協業）（７月）

・参加者　　魚津地区小中学校教員希望者

・講　演　　「小学校外国語活動の考え方、捉え方」

・講　師　　麗澤大学　非常勤講師　トム・マーナー　先生

③　英会話科担当者定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　英会話科の授業改善、授業研究

④　英会話科カリキュラム評価研修会（８月）

・参加者　　市内各校英会話科担当教員

・講　話　　「効果的な英会話科の授業展開」

・講　師　　富山大学　准教授　岡崎浩幸　先生

６　平成 23 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

ア　小学校
・１、２年　標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間 10 時間）
・３、４年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）
・５、６年　「外国語活動」の一部を割当て（年間 35 時間）
イ　中学校
・１年　　「総合的な学習の時間」＋「選択」の一部を割当て（年間 35 時間）
・２、３年　「選択教科」の一部を割当て（年間 35 時間）

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（７～８月に４回開催）
・参加者　　市内小中学校教員希望者
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める
・講　師　　ＡＬＴ、英会話講師、教育センター研究主事

②　英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業実践に基づく情報交換、研究授業、サマーキャンプへの協力

③　英会話科カリキュラム評価研修会（７、８、10、１月）
・参加者　　市内各校英会話科担当教員
・内　容　　英会話科授業改善、カリキュラムの改善、評価規準の見直し、各校の取組の情報交換、各種調査の分析・考察
講演　「英会話科における効果的な小中連携の在り方」
講師　富山大学准教授　岡崎浩幸　先生

④　英会話科の成果の検証
ア　中学校１年対象（７月）
・小学校英会話科が中学校英語に与える影響と効果
イ　小学校６年、中学校３年、学級担任、ＡＬＴ、英会話講師対象
・英会話科に対する児童生徒の意識、態度、姿勢を把握し、授業改善につなげる。
ウ　ＡＬＴとの面接調査（Enjoy talking）（新規）
・対象小学校６年、中学校１～３年
・教員が児童のコミュニケーション面での実態を把握し、授業改善につなげる。
・児童が少人数でＡＬＴと会話することを通して、コミュニケーションの楽しさを味わう。

７　平成 24 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数
ア　小学校
・平成 23 年度に同じ。
イ　中学校
・１年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 15 時間）
・２、３年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

②　黒部国際化教育推進協議会（５、７、１月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　黒部国際化教育の将来構想、平成 24 年度事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　英会話科企画・運営・評価部会研修会（５、６、９、１月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

④　英会話科授業公開月間（11 月）

・英会話科の授業を保護者や地区住民に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小中学校の全学級で英会話科の授業を公開）

・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・「黒部の英語教育」リーフレットの作成、配布

・英会話科授業公開月間のまとめの作成、配布

・英会話科公開月間、英語サマーキャンプ、メーコン市派遣をみらーれテレビで放映

・英会話科の取組を広報「くろべ」で紹介

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話指導者研修会（８月２回）

・参加者　　小学校教員悉皆

・内　容　　学年の最終ゴールについて、学習指導案作成や実践のまとめ作成の説明

・講　師　　東部教育事務所　指導主事　上野郁行先生

②　英会話実技研修会（７月２回）

・参加者　　市内小中学校教員希望者

・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める

・講　師　　東部教育事務所　小学校外国語活動指導員　庭田順子先生

③　英会話科担当者定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　服務、授業力向上、役割分担にかかわる研修、各校の取組の情報交換

④　英会話科カリキュラム評価部会研修会（７、８、１月）

・参加者　　市内各校カリキュラム部員（※中学校からも各校１名）

・内　容　　英会話科授業改善、カリキュラムの改善、実態調査、他

８　平成 25 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

ア　小学校

・平成 23 年度に同じ。

イ　中学校

・１年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 25 時間）

・２、３年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

②　黒部国際化教育推進協議会（６、３月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　平成 25 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部の英語教育組織部会（６、11、２月）（新規）
・参加者　　小中校長会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、副部長、市教委・市教セ
・内　容　　平成 25 年度英語教育、26 年度の重点、公開授業についての協議、共通理解等
④　英会話科企画・運営・評価部会研修会（１、８月）
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の充実（平成 25 年度の重点、英会話科に係るアンケート実施、平成 26 年度の重点と授業公開月間の実施）、情報交換
⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動
・ふるさと黒部を豊かに語れる生徒の育成を目指して、ピクチャーカード、This is Kurobe、デジタル教材、黒部マップを作成し各校に配布する。

（２）教員の研修や調査に関すること
①　英会話科指導者研修会
ア　第１回（５月）
・初任者や臨任講師に英会話科についての研修を行う。
イ　第２、３回（８月）
・参加者　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・英会話科の授業充実を目指し、講話と学習指導案作成のワークショップを行う。
・講　師　東部教育事務所　外国語活動指導員　庭田順子先生
②　英会話実技研修会（２回）
・参加者　　市内小中学校教員希望者（魚津地区も参加可）
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める
・講　師　　東部教育事務所　外国語活動指導員　庭田順子先生
③　英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　服務、授業改善、研究授業、情報交換
④　英会話科カリキュラム部会研修会（５、８、12 月）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員（小中各１名、12 月はＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴも参加）
・内　容　　平成 25 年度の重点、英会話科の授業改善、カリキュラム改善

（３）国際化教育に関するその他の事業
①　英語サマーキャンプ
・中学校１年生も参加する。

９　平成 26 年度

（１）英会話科の推進に関すること
①　英会話科授業時数
・小学校は平成 23 年度に同じ。
・中学校は平成 25 年度に同じ。
②　黒部国際化教育推進協議会（６、３月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　平成 26 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（５、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　平成 26 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（４、７、９、２月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科授業公開月間（10～11 月）

・英会話科の授業を保護者や地区住民に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小中学校の全学級で英会話科の授業を公開）

・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑥　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・ピクチャーカード、This is Kurobe、デジタル教材の一部改訂、追加

・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

・英会話科授業公開月間のまとめの作成、配布

・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」で紹介

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会

ア　第１回（５月）

・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

イ　第２、３回（７、８月）

・参加者　　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　英会話科の授業充実を目指し、講話と指導案作成のワークショップを行う。

・講　師　　東部教育事務所　指導主事　庭田順子先生

②　英会話実技研修会（市小教研協業）（７月）

・参加者　　市内小中学校教員希望者（魚津地区も参加可）

・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める

・講　師　　東部教育事務所　指導主事　庭田順子先生

③　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

④　カリキュラム部会（８、12 月（12 月はＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴも参加））

・参加者　　市内各校カリキュラム部員

・内　容　　ピクチャーカードの活用や学期末の復習、授業の質的向上について情報交換、平成 27 年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約 50 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11 月）

・メーコン・ビブ郡へ中学校３年生８名派遣

10　平成 27 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

・小学校は平成 23 年度に同じ。
・中学校は平成 25 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、２月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成 27 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成 27 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（８、２月）

・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点に関する共通理解、情報交換

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの配布
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会

ア　第１回（５月）
・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

イ　第２、３回（８月）
・参加者　　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　　英会話科の授業充実を目指し、講話とクラスルームイングリッシュのワークショップを行う。
・講　師　　東部教育事務所　指導主事　浦田栄信　先生

②　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、サマーキャンプへの協力、他

③　カリキュラム部会（８、12 月（12 月はＪＡＴ、ＪＥＴも参加））

・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　文字（アルファベット）の指導に関する協議、授業の質的向上について情報交換、平成 28 年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約 50 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業

・メーコン・ビブ郡より高校生が９名来市、ホームスティ。

11　平成 28 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

・小学校は平成 23 年度に同じ。
・中学校は平成 25 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成 28 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成 28 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（５、７、９、２月）

・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科授業公開月間（10～11 月）

・英会話科の授業を保護者や地区住民に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小中学校の全学級で英会話科の授業を公開）
・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑥　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成
・英会話科授業公開月間のまとめの作成、配布
・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」や「みら～れＴＶ」で紹介
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会

ア　第１回（５月）
・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

イ　第２、３回（８月）
・参加者　　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　　英会話科の授業充実を目指し、講話と模擬授業、指導案作成のワークショップを行う。
・講　師　　東部教育事務所　指導主事　浦田栄信　先生

②　英会話実技研修会（７月）

・参加者　　市内小中学校教員希望者（魚津地区も参加可）
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める。
・講　師　　小学校英語専科講師　杉原栄子　先生
　　ＡＬＴ　ヘンリー・プロサクⅢ　先生

③　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

④　**カリキュラム部会（８、12 月、**12 月はＪＡＴ、ＪＥＴも参加）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　平成 29 年度の年間指導計画の作成、授業の質的向上についての情報交換、This is Kurobe の活用、英検取得状況、他

（３）国際化教育に関するその他の事業
①　**英語サマーキャンプ（８月）**
・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約 50 名参加）
②　**姉妹都市交流研修事業（11 月）**
・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生１６名派遣

12　平成 29 年度

（１）英会話科の推進に関すること
①　**英会話科授業時数**
・小学校は平成 23 年度に同じ。
・中学校は平成 25 年度に同じ。
②　**黒部国際化教育推進協議会（７、３月）**
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成 29 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。
③　**黒部国際化教育組織部会（５、12、３月）**
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成 29 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。
④　**企画・運営・評価部会（３月）**
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点に関する共通理解、情報交換
⑤　**英会話科事業の充実、環境整備、広報活動**
・This is Kurobe の作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること
①　**英会話科指導者研修会（５月）**
・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。
②　**外国語活動講演会（魚津地区教育センター協業）（７月）**
・参加者　　魚津地区小・中学校　教員
・講　師　　文教大学教育学部　教授　金森強先生
・演　題　　新学習指導要領に応じた英語指導の在り方－主体的な学びを促す授業づくり－
③　**英会話科定例会（月１回）**
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、サマーキャンプへの協力、他

④　カリキュラム部会（８、12 月）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　平成 29 年度の指導の重点の確認、授業について情報交換、
平成 30 年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）
・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約 50 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（10 月）
・メーコン・ビブ郡より高校生が 15 名来市、ホームステイ。

13　平成 30 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数等

ア　小学校
・１、２年　標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間 10 時間）
・３、４年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）
新学習指導要領対応小学校外国語活動教材「Let's Try!」（文部科学省発行）を活用
・５、６年　「外国語活動」及び「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 50 時間）
新学習指導要領対応小学校外国語教材「We Can!」（文部科学省発行）を活用

イ　中学校
・１、２年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 25 時間）
・３年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

ウ　年間指導計画
・新学習指導要領に準拠して内容を変更

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成 30 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（５、３月）
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成 30 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、３月）
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点に関する共通理解、情報交換

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動
・This is Kurobe の作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科研修会（４月）

・参加者　　市内小学校第５・６学年英会話科担当教員、ＡＬＴ、英会話科講師

・内　容　　模擬授業の実践及び協議を通して、授業力向上を図る。

②　英会話科指導者研修会（８月）

・参加者　　市内小学校教員（悉皆）

・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生

・演　題　　「小学校外国語科の同校と授業への関わり方」

・内　容　　講演及び演習（指導案例の作成）

③　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　授業の充実、サマーキャンプへの協力、他

④　カリキュラム部会（10、12 月）

・参加者　　市内各校カリキュラム部員

・内　容　　平成 30 年度の指導の重点の確認、授業について情報交換、
平成 31 年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が 69 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11 月）

・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生１６名派遣

14　令和元年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数等

・小学校は平成 30 年度に同じ。

・中学校は平成 30 年度に同じ。

・令和２年度からの教育課程特例校について、小学校は指定廃止、中学校は継続が決定

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、
市教委、市教セ

・内　容　　令和元年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和元年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、９、３月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科授業公開月間（10～11 月）

・英会話科の授業を保護者や地区住民等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小学校の全学級、市内中学校各学年の一部の学級で授業を公開）

・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑥　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成

・「英会話科のまとめ」の作成、配布

・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」や「みらーれＴＶ」で紹介

・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会（８月）

・参加者　　市内小学校教員（悉皆）

・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生

・内　容　　Classroom English 及び Small Talk 等の音読練習や授業の題材の検討を通して、指導力向上を図る。

②　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

③　カリキュラム部会（７、８、12 月）

・参加者　　市内各校カリキュラム部員

・内　容　　令和元年度の指導の重点の確認、授業について情報交換、
英会話科指導者研修会の事前研修、令和２年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が 58 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（10 月）

・メーコン・ビブ郡より高校生が 14 名来市、ホームステイ。

15　令和２年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等

・小学校は平成 30 年度に同じ。

・中学校は平成 30 年度に同じ。

・令和２年度から小学校新学習指導要領全面実施

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和２年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（７、３月）

・参加者　　小中校長会会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和２年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、２月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科等の指導の重点等に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成

・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会　【中止】

②　英会話科等定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　授業の充実　他

③　外国語教育研究部会（１月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員

・内　容　　授業について情報交換、
令和３年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ　　【中止】

②　姉妹都市交流研修事業　【中止】

16　令和３年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等

・小学校は平成 30 年度に同じ。

・中学校は平成 30 年度に同じ。

・令和３年度から中学校新学習指導要領全面実施

②　黒部国際化教育推進協議会（８、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和３年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和３年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、２月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科等の指導の重点等に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成

・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会

・参加者　　市内小学校教員

・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生

・内　容　　英語の好きな児童生徒の育成を目指して－小中連携の視点から－

②　英会話科等定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　授業の充実　他

③　外国語教育研究部会（７、１月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員

・内　容　　外国語科等の充実に向けた協議
　　令和４年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ　　【中止】

②　姉妹都市交流研修事業　【中止】

17　令和４年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等

・小学校は平成 30 年度に同じ。

・中学校は平成 30 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和４年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和４年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、９、２月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科等の指導の重点や公開授業に関する審議。各校の意見集約

⑤　英会話科等授業公開月間（10～11 月）

・英会話科等の授業を保護者や他市町村の教員等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。

・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめを作成する。

⑥　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成

・「英会話科等のまとめ」の作成、配布

・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」で紹介
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会（８月）
・参加者　　市内小学校教員
・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生
・内　容　　英語の好きな児童生徒の育成を目指して－小中連携の視点から－

②　英会話科等定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

③　外国語教育研究部会（７、12 月）
・参加者　　市内各校外国語教育研究部員
・内　容　　外国語科等の充実に向けた協議、評価問題収集作成
　　令和５年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）
・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が２３名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11 月）
・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生１６名派遣

18　令和５年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等
・小学校、中学校は平成 30 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、２月）
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　令和５年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　令和５年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、２月）
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科等の指導の重点に関する共通理解、各校の意見集約

⑥　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動
・This is Kurobe の作成
・「英会話科等のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会（８月）

・参加者　　市内小学校教員

・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生

・内　容　　「『聞くこと』『話すこと』から『書くこと』への流れを重視した授業」

②　英会話科等定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

③　外国語教育研究部会（７、12 月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員

・内　容　　外国語科等の充実に向けた協議、評価問題収集作成
令和６年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が 27 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（10 月）

・メーコン・ビブ郡より学生 16 名来市、ホームステイ

19　令和６年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等

・小学校、中学校は平成 30 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（５、７、３月）

・参加者　　会長、小中校長会長、桜井高校校長、保護者代表、YKK（株）社員、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　令和６年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、企画・運営・評価部長、外国語教育研究部長、市企画情報課、市教委、市教セ

・内　容　　令和６年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（６、９、２月）

・参加者　　企画・運営・評価部長、小中学校教頭５名、市教委、市教セ

・内　容　　英会話科等の指導の重点や公開授業に関する審議。各校の意見集約

⑤　英会話科等授業公開月間（10～11 月）

・英会話科等の授業を保護者や他市町村の教員等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。

・各校で開催の案内、アンケートの実施・集約、中学校は指導案と実践のまとめを作成する。

⑥　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・「英語の指導に関するまとめ」の作成、配布

・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会（８月）

・参加者　　市内小学校教員

・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生

・内　容　　個別最適な学びと協働的な学びー外国語の指導を通してー

②　外国語教育研究部会（６、10、12 月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員、専科教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　外国語科等の指導の充実に向けた協議、評価問題収集作成、
令和７年度の年間指導計画の作成、他

③　英会話科等打合会（必要に応じて）

・参加者　　ＡＬＴ

・内　容　　サマーキャンプへの企画・運営、他

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が 49 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11 月）

・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生 20 名派遣

令和６年度　黒部国際化教育推進事業

英語の指導に関するまとめ

令和７年３月　発行

黒部市教育委員会
黒部市教育センター

令和６年度　英語の指導に関するまとめ

黒部市教育委員会・黒部市教育センター